

○縣令第五十號 明治三十四年五月二十八日
職工周旋業取締規則左ノ通定ム

職工周旋業取締規則

- 第一條 本則ニ於テ職工周旋業ト稱スルハ手數料ヲ受ケテ工場其他工業主ニ於テ雇使スル職工又ハ徒弟ノ周旋ヲ爲ス者ヲ謂フ
- 職工周旋業ハ雇傭口入營業ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二條 職工周旋業者ハ未成年者ニシテ法定代理人ノ同意ナキ者又ハ妻ニシテ夫ノ許可ヲ受ケサル者ヲ職工又ハ徒弟ニ周旋シ若ハ其雇主ヲ轉セシムルコトヲ得ス
- 第三條 職工周旋業者ハ契約期限内ノ職工又ハ徒弟ヲ雇主ノ意思ニ反シテ他ノ職工徒弟其ノ他ノ雇人ニ周旋スルコトヲ得ス
- 第四條 職工周旋業者職工又ハ徒弟ノ周旋ヲ爲シタルトキハ十日以内ニ其ノ住所、氏名、年齢、工業ノ種類、雇入期限及雇主ノ住所氏名ヲ記シ工場所在地又ハ雇主住所ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第五條 職工周旋業者職工又ハ徒弟ヲ募集セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ主タル募集地ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 - 一 募集者及募集ニ從事セシムルモノノ住所職業氏名年齢
 - 二 募集地ノ區域
 - 三 募集期限
 - 四 職工ノ種類人員及男女別
 - 五 給料及小遣錢其他仕着セ賞與ノ方法

- 六 労働時間及休業日數
- 七 雇入期限
- 八 病傷者扶助ノ方法
- 職工周旋業者縣内ニ於テ雇使スル職工又ハ徒弟ヲ縣外ニ於テ募集セントスルトキハ前項ニ依リ住所ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第六條 縣外ノ職工周旋業者縣外ニ於テ雇使スル職工又ハ徒弟ヲ縣内ニ於テ募集スルトキハ第二條第三條及第五條第一項ノ規定ヲ適用ス
- 前項ノ場合ニ於テ募集ヲ了リタルトキハ應募者ノ住所氏名年齢ヲ記シ主タル募集地ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第七條 第二條第三條及第四條ノ規定ハ縣外ノ職工周旋業者縣外ニ於テ募集シタル職工又ハ徒弟ヲ縣内ノ工場其他工業主ニ周旋スル場合ニ之ヲ適用ス
- 第八條 工業主自己ノ雇使スル職工又ハ徒弟ヲ募集スルトキハ本則ノ規定ヲ適用ス
- 第九條 左ニ掲クル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第四條第五條第六條第二項ノ届出ヲ爲サス若ハ第五條ノ届出ニ違ヒ職工又ハ徒弟ヲ周旋シタル者
 - 二 虚偽ノ申込ヲ爲シテ職工又ハ徒弟ヲ募集シタル者
 - 三 第二條及第三條ニ違背シタル者

○縣令第五十二號 明治三十一年十月六日
取締ニ關スル諸營業願書ハ自今副本ヲ差出スニ及ハス

○告示第六十三號 明治二十一年十月六日
鑑札ヲ下附セサル諸取締ニ開スル營業ノ許否ハ自今別紙ヲ以テ指令書ヲ下附ス

○縣令甲第三十六號 明治二十四年三月二十七日

明治二十年縣令甲第三十九號乘合馬車取締規則左ノ通改定ス

乘合馬車取締規則

（明治三十五年四月二十九日縣令第三十四號ヲ以テ第十五條中第二十條第
二十一條トアルヲ第十七條第十八條ニ改正シ同條ノ次ニ一條ヲ追加シ十
六條ヲ十七條トシ其次條及罰則文中同條以下列記各條ヲ順次一條繰下）

第一章 通 則

- 第一條 乘合馬車營業トハ馬車ニ客ヲ乗セ營業スル者ヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
線路又ハ駐車場ヲ變更セントスルトキ亦同シ 但營業者未丁年又ハ白痴瘋癲瘡腫ナルトキハ後見人
ヲ立ツヘシ

 - 一 線路及駐車場
 - 一 車體及馬匹ノ數

- 第三條 車體馬匹ハ所轄警察官署ノ検査ヲ請ヒ其證ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シタルトキ及車體ノ新
造改造ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 第四條 營業者ニ於テ馭者馬丁ヲ雇入レタルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ記シ同行シテ所轄警察官署
ニ願出一人ニ付鑑札一簡ヲ受クヘシ

- 第五條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ
- 第六條 馭者馬丁ハ毎年五月所轄警察官署ニ出頭シテ鑑札ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ
無効タルヘシ
- 第七條 車體及馬匹ハ毎年二回（正月及五月）所轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タル
ヘシ
- 第八條 車體馬匹ノ検査ハ前條ノ定期ニ拘ハラズ所轄警察官署ニ於テ臨時検査スルコトアルヘシ
- 第九條 乗客ノ定員ハ之ヲ木札（縦八寸 横六寸）ニ明記シ車内見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第十條 車體検査證ハ車體外部ノ後面見易キ所ニ掲出シ馬匹検査證ハ其頸輪ニ結著スヘシ
- 第十一條 左ノ各項ニ係ル場合ハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
 - 一 轉居改氏名其他鑑札検査證ニ異動ヲ生シタルトキ
 - 二 鑑札検査證ヲ亡失毀損シ又ハ文字不分明ト爲リタルトキ
- 第十二條 左ノ各項ニ係ル場合ハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出鑑札又ハ検査證ハ返納スヘシ
 - 一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタルトキ
 - 二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキ
 - 三 馭者馬丁ヲ解僱シ又ハ其失踪逃亡若クハ死去シタルトキ
- 第十三條 鑑札検査證ハ之ヲ轉用シ若クハ貸與スルコトヲ得ス
- 第十四條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ缺クコトヲ得ス
- 第十五條 検査證アル車馬ト雖モ第十七條第十八條ノ制限ニ適セス又ハ其車體器具ノ破損若クハ不潔
ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱シタルモノヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十六條 正當ノ事由ナク免許ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ開業セヌ又ハ三ヶ月以上休業シタルトキハ其免許ヲ取消シ若ハ就業上不適當ト認ムル者ハ免許ノ効力ヲ停止シ又ハ失効ヲ命スルコトアルヘシ

第二章 車體馬匹及器具

第十七條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車體ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘシ

二 車體ハ黒無地漆塗ニシテ其屋根ハ木制又ハ金屬ヲ用フヘシ

三 客坐ハ清潔ニシテ適當ノ裝置ヲ爲スヘシ 但一人ノ坐席ハ一尺二寸以上タルヲ要ス

四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ

五 車體ニハ前後ニ紅色ノ硝子燈一箇ヲ備フヘシ

六 運轉器心棒發條力革手綱及其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用フヘシ

七 客室ノ兩側ニハ適當ノ窓ヲ設ケ清潔ナル白布ノ日覆及護謨引又ハ桐油製ノ雨具ヲ備フヘシ

八 合脚用ノ喇叭ヲ備フヘシ

九 非常用ニ供スル細引鉄ヲ備フヘシ

第十八條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ル

第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニ非サレハ馭者馬丁ト爲スコトヲ得ス

一 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者

二 馭者ハ馭術ニ熟達シタル者

第二十條 馭者馬丁ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 馭者帽子(紺黒羅紗大黒形ニシテ黒革盾椽付)筒袖(紺黒羅紗又ハ小倉織ノ内)ズボン(同上)靴

(適宜) 但夏期ハ白服及日覆ヲ着用スルモ妨ナシ

二 馬丁帽子(馭者ノ製ニ同シ)法被(筒袖ニシテ紺無地木綿)股引(地質同上) 但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用アルモ妨ケナシ

三 馭者馬丁ノ雨具ハ黒地護謨引桐油又ハ羅紗類ヲ用ユヘシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第二十一條 馭者馬丁ハ鑑札及乗合馬車取締規則ヲ携帶シ警察官吏又ハ乗客ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘシ

第二十二條 馭者馬丁ハ頰冠鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲ス可ラス

第二十三條 馭車ハ馬車ヲ離ル可ラス若シ止ムヲ得サル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十五條 正當ノ事由ナク乗客ノ承諾ヲ得スシテ途中ニ於テ乗客ヲ他ノ馬車ニ乗セ換ヘ又ハ下車ヲ請求ス可ラス

第二十六條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニ非サレハ車ヲ進行ス可ラス

第二十七條 乗客中粗暴ノ所爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第二十八條 馭者臺ニ客ヲ乗セ又適當ノ構造ヲ爲サシテ馬車屋根ニ物品ヲ載ス可ラス

第二十九條 行車中飲食又ハ喫烟ヲ爲ス可ラス

第三十條 酩酊シテ馬ヲ馭スルヲ得ス又他人ヲシテ馬ヲ一セシム可ラス

第三十一條 制止ヲ肯セス出火場其他雜沓ノ場所ニ馬車ヲ入ル可ラス

第三十二條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲ス可ラス

第三十三條 車馬ヲ竝馳セ又ハ濫リニ疾驅シ若クハ競走ス可ラス

第三十四條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 馬車及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ行逢フトキハ右ニ避讓スヘシ
- 二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ハ喇叭ノ相圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 四 郵便用消防用ニ供スル馬車及洒水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ其妨害トナラサル場所ニ避讓スヘシ
- 五 二車以上引續キ進行スルトキハ後車ハ前車ヨリ五間以上ノ距離ヲ取ルヘシ
- 六 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ喇叭ノ相圖ヲ爲シ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ
- 七 街角ヲ右ニ過クルトキハ大廻ヲ爲シ左ニ過クルトキハ小廻ヲ爲スヘシ

第三十五條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十六條 馬匹ヲ殘虐ニ使用ス可ラス

第三十七條 駐車場ノ外ニ馬車ヲ置ク可ラス 但乘客昇降等ノ爲メ一時通行ノ妨害トナラサル場所ニ駐止スルハ妨ケナシ

第三十八條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第三十九條 夜中燈火ナクシテ行車ス可ラス

第四十條 定員半數以上ノ乘客アルトキハ正當ノ理由ナクシテ發車ヲ拒ム可ラス

第四十一條 乘車降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ乘客立去リタル後之ヲ發見シ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察官署巡查駐在所又ハ巡行巡查ニ届出ツヘシ

第五章 乘載制限

第四十二條 定員外ノ客ヲ乘載ス可ラス 但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載スル者ハ乘載ス可ラス

- 一 六種傳染病其他厭忌スヘキ疾病アル者
- 二 瘋癲者及亂醉者
- 三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品
- 四 獸類

第六章 賃錢及駐車場

第四十四條 賃錢額ハ營業者之ヲ定メ所轄警察官署ヲ經由縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其改定ヲ要スルトキ亦同シ 但賃錢定額ハ車内及駐車場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求ス可ラス

第四十六條 途中車體毀損其他ノ事故ニ依リ約定地迄達シ能ハサルトキハ里程ニ應シテ賃錢ヲ請求スヘシ

第四十七條 駐車場ニハ左ノ標札又ハ標柱ヲ設クヘシ

七 乘合馬車何所駐車場 何町村
 寸 營業者 氏 名

四 寸 角
 乘合馬車何所駐車場營業者 氏 名
 年 月 日 何町村
 地盤三尺

第四十八條 駐場ノ地盤ハ石煉化石散キ又ハ板ヲ敷キ且滲透ノ虞ナキ馬尿溜ヲ設クヘシ
 第四十九條 駐車場ハ日日掃除ヲ爲シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 罰 則

第五十條 本則第二條第三條第四條第十三條第十四條第二十五條第三十一條第三十二條第三十三條
 第四十二條第四十四條第四十五條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上
 壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 第五十一條 本則第九條第十條第十七條五項七項八項九項第二十條第二十一條第二十二條第二十六條
 第二十八條第三十條第三十九條第四十條第四十三條ニ違背シタル者第三十四條ニ違ヒ行人ノ妨害ヲ
 爲シタル者及第三十七條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料
 ニ處ス
 第五十二條 本則第十一條第十三條第二十三條第二十九條第三十五條第三十六條ニ違背シタル者ハ第

四十九條ニ違ヒ督促ニ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス
 第五十三條 本則中刑法ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ

○縣令甲第三十五號 明治二十四年三月二十七日

明治二十年此縣令甲第四十號營業人力車取締規則左ノ通改定ス

營業人力車取締規則

第一章 通 則

第一條 人力車營業者トハ挽子ヲシテ人力ヲ始カシメ又ハ自ラ人力車ヲ挽キ營業スル者ヲ云フ
 第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ニ願出車體ノ検査及烙印ヲ受ケ許可ヲ請フ可シ
 但營業者未丁年又ハ白痴瘋癲瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ
 第三條 營業ニ關スル願届書ハ總テ取締人ノ加印ヲ受クヘシ
 第四條 營業者ニ於テ挽子ヲ雇入ルルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ記シ同行シテ所轄警察官署ニ届出
 一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ
 第五條 營業者自ラ車ヲ挽クトキハ總テ挽子ノ例ニ依ル
 第六條 挽子ハ毎年五月所轄警察官署ニ出頭シテ鑑札ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効
 タルヘシ
 第七條 車體ハ毎年二回此所轄警察官署ノ検査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其新造改造又ハ買受讓受ヲナ
 シタルトキハ定期ニ拘ラス検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受サルモノハ無効タルヘシ
 第八條 車體検査證ハ車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ

三十六年四月
 二十四日縣令第
 二十九號ヲ以
 テ追加

第二十四條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲ス可ラス

第二十五條 車ヲ竝ヘ挽キ又ハ濫リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲ス可ラス

第二十六條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 車馬及歩行者ニ行ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテ右ニ避讓スヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬及酒水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ其妨害トナラサル場所ニ避讓スヘシ

五 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ

六 街角ヲ右ニ過クルトキハ大廻リヲ爲シ左ニ過クルトキハ小廻リヲ爲スヘシ

第二十七條 二車以上ノ車ヲ連繫シテ挽ク可ラス 但空車二輛ハ妨ケナシ

第二十八條 夜中燈火ナクシテ車ヲ挽ク可ラ

第二十九條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシム可ラス

第三十條 乘客降車ノ際ハ遺留品ナキヤ注意シ若シ乘客立去リタル後之ヲ發見シ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察官署巡査駐在所又ハ巡行巡査ニ届出ツヘシ

第五章 乘載制限

第三十一條 一人乘ニ二人二人乘ニ三人以上ヲ乘載ス可ラス 但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第三十二條 左ニ記載シタル者ハ乘載ス可ラス

- 一 八種傳染病患者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品
- 三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 賃錢及駐車場

第三十三條 賃錢ハ組合規約ヲ以テ定ムヘシ

第三十四條 賃錢ハ定額表ヲ製シ車ノ躡込左右ニ釘付シ且ツ駐車場見易キ所ニ揭示スヘシ

第三十五條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求ス可ラス

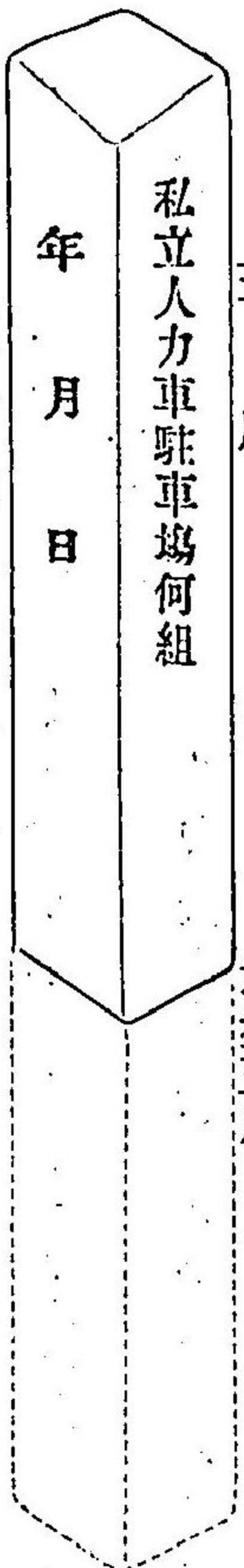
第三十六條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ其賃錢ヲ計算スヘシ

第三十七條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場 一般營業者ノ爲メ所轄警察官署ニ於テ定メタル場所ヲ云フ

二 私設駐車場 營業者一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スル場所ヲ云フ

第三十八條 私設駐車場ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ左ノ標柱ヲ設クヘシ



三寸角

第三十九條 客ノ乗用ニ應シ難キ人力車ハ駐車場ニ置ク可ラス
 第四十條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ發車ノ妨トナラサル様整列シ順次客ノ求メニ應スヘシ
 但客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス
 第四十一條 客ヨリ需メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ發車ヲ拒ム可ラス
 第四十二條 駐車場ハ常ニ掃除ヲ爲シ清潔ナラシムヘシ 但公設駐車場ハ其他組合、私設駐車場ハ其
 專用者ニ於テ負擔スヘシ

第七章 營業組合

第四十三條 人力車營業者ハ警察署又ハ分署所轄ノ區域ニ從ヒ便宜組合ヲ設クヘシ 但分署所轄内ニ
 於テ組合ヲ設クル能ハサル場合ハ所轄警察署ノ組合ニ加入スルコトヲ得
 第四十四條 組合ニ加入セサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十五條 組合事務所ヲ設ケ官署ニ届出左ノ標札ヲ掲示スヘシ
 二尺五寸

七 何警察署(分署)

營業人力車何何組事務所

寸 所轄

第四十六條 組合ニハ左ノ規約ヲ定メ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其改定ヲ要スル
 トキ亦同シ
 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置

二 取締ノ選舉及任期ニ關スル規定
 三 組合事務取扱ニ關スル規定
 四 營業賃錢ニ關スル規定
 五 組合費用ノ定度收支ノ方法
 六 組合會議ニ關スル規定
 七 違約者處分ノ方法
 右ノ外營業上緊要ノ事項
 第四十七條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ
 第四十八條 組合ニハ取締一人ヲ置クヘシ其取締ハ組合營業者中ヨリ公選シ所轄警察官署へ届出認可
 ヲ受クヘシ
 第四十九條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラザレハ取締ニ選舉スルコトヲ得ス
 一 年齢二十五年以上ノ男子ニシテ組合区域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
 二 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ筆算ニ通スル者
 第五十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ公權剝奪又ハ停止中ノ者ハ取締トナル事ヲ得ス
 第五十一條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ
 一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
 二 營業者挽子ニ關スル願届出ニ加印スル事
 三 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事
 四 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事

五 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事
六 規約ヲ以テ定メタル事項

第五十二條 所轄警察官署ニ於テ取締ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改選ヲ命スルコトアルヘシ

第八章 罰 則

第五十三條 本則第二條第四條第十一條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第三十五條第四十一條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス(二十四年縣令甲第四十七號ヲ以テ三十三條刪除)

第五十四條 本則第八條第十三條第四項五項六項第十五條第十六條第十七條第二十八條第三十一條第三十二條第三十四條第三十九條ニ違背シタル者第十八條第十九條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者及第二十六條ニ違ヒ行人ノ妨害ヲ爲シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 本則第九條第十條第二十七條第二十九條第四十條ニ違背シタル者及第四十二條ニ違ヒ督促ニ應セサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス(二十四年縣令甲第四十七號ヲ以テ三十八條刪除)

第五十六條 本則中刑法ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ

○告示第二十號 明治二十四年三月十三日
荷車二輛以上ヲ連繫シ巨大ノ物品ヲ東京府下ニ輸送セントスル者ハ本年甲告示第十二號警視廳警察令第七條ニ依リ前以テ同府下輸送線路ニ係ル最初ノ警察署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

○縣令第三號 明治三十三年二月六日

荷車取締規則左ノ通定ム

荷車取締規則

第一條 本則ニ於テ荷車ト稱スルハ貨物運搬ノ用ニ供スル諸車ヲ謂フ

第二條 (明治三十三年十月三日縣令第六十三號ヲ以テ削除)

第三條 荷車ノ所有者ハ其住所氏名ヲ車体ノ右側觀易キ所ニ記載スヘシ

第四條 (明治三十三年十月縣令第六十三號ヲ以テ削除)

第五條 荷車ノ車輪齒幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ 但第三號ノ荷車ニシテ荷車ノ平方尺積十四坪未満ノモノハ此限ニ非ス

一 牛車 三寸以上

二 馬車 彈條ヲ具セサルモノ 二寸以上
彈條ヲ具スルモノ 一寸五分以上
彈條ヲ具セサルモノ 一寸以上
彈條ヲ具スルモノ 八分以上 四輪車ノ前輪一寸八分以上

三 其他ノ荷車 彈條ヲ具スルモノ

第六條 積荷ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス 但竹木其他分割スヘカラサル物件又ハ蕪秣等輕量ノモノハ此限ニアラス

一 高サ 荷臺ヨリ六尺

二 前後ノ出幅 荷臺ヨリ一尺

三 左右ノ出幅 荷臺ヨリ一尺

前項制限内ノ積荷ト雖トモ橋梁ヲ破壞シ若クハ危險ノ虞アル重量ヲ積載シタルトキハ相當ノ防備ヲ爲シ通行スヘシ

- 第七條 荷車二輛以上ヲ連繋シテ貨物ヲ運搬セントスルトキハ發車地所轄ノ警察署又ハ警察分署ニ其事由及道筋ヲ届出認可ヲ受ケ車上觀易キ所ニ其旨標記スヘシ
 - 第八條 荷車二輛以上連行スルトキハ各車ノ間衝突危險ノ虞ナキ様相當ノ距離ヲ保ツヘシ
 - 第九條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行セントスルトキハ特ニ徐行シ掛聲ヲ爲スヘシ
 - 第十條 車道ノ設アル道路ニ在テハ其左側ヲ其設ケナキ場所ニ在テハ中央ヲ通行スヘシ
 - 第十一條 荷物ヲ積載シタル荷車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ登車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
 - 第十二條 前車ニ先チ行進セントスルトハキ後車ヨリ掛聲ヲ爲シ前車ハ左側ニ避ケ後車ハ右側ヲ通過スヘシ
 - 第十三條 夜中燈火ナクシテ荷車ヲ輓クヘカラス
 - 第十四條 狂躁惡癖外傷若クハ疲勞シタル牛馬ヲシテ荷車ヲ輓カシムヘカラス
 - 第十五條 荷車ノ牛馬ヲ虐待シ狂逸セシムヘカラス
 - 第十六條 牛車馬車ノ馱者ハ馱者臺ノ設備ナキ車體ニ乘ルヘカラス
 - 第十七條 荷車ハ後押ノミニテ行進スヘカラス
 - 第十八條 滿十八年以上ニシテ身體強壯ノ者ニアラサレハ牛車馬車ノ馱者トナリ又ハ荷車ヲ輓クコトヲ得ス瘋癲白痴聾啞者亦同シ
 - 第十九條 重量二十五貫以下ノ貨物ヲ積載シタル荷車ハ前項ノ年齡ニ滿タサル者ト雖トモ輓クコトヲ得
 - 第二十條 第三條第五條乃至第十八條一項ヲ犯シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治三十三年十月三日縣令第六十三號ヲ以テ改正)
- 附 則

- 第三十條 從來使用ノ荷車ニシテ本則第五條ノ制限ニ適合スルモノハ明治三十三年三月三十一日限り第三條ノ手續ヲ爲スヘシ(明治三十三年十月三日縣令第六十三號ヲ以テ改正)
- 本則第五條ノ制限ニ適合セサル荷車ハ明治三十四年十二月三十一日限り之レヲ使用スルコトヲ得ス
- 縣令第五十四號 明治三十四年六月二十五日
- 自轉車取締規則ノ通定ム
- 自轉車取締規則
- 第二條 自轉車ニハ警鈴其他ノ警報裝置ヲ爲スヘシ
- 第二條 自轉車ハ街角又ハ狹隘ナル道路若ハ通行頻繁ナル場所ヲ通過スルトキハ警報ヲ爲シ且徐行スヘシ
- 第三條 自轉車ハ夜間燈火ナクシテ乗用スルコトヲ得ス
- 第四條 自轉車ハ通行頻繁ナル道路ニ於テ練習若ハ競走ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 道路ニ於テ乗車スルトキハ下リ「ハンドル」ヲ使用シ又ハ使用セシムヘカラス(本條以下三十五年四月縣令第三十三號ヲ以テ改正)
- 第六條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 縣令甲第三十八號 明治二十年七月十五日
- 街路取締規則別冊ノ通定メ明治二十年九月一日ヨリ施行ス
- 街路取締規則

第一章 通 則

- 第一條 本則ニ於テ街路ト稱スルハ道敷及道敷ニ沿フタル下水並ニ橋梁ヲ云フ
- 第二條 本則ハ市街及之ニ準スル土地ノ道路ニ施行ス 但其區域ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 左ノ各條ハ市街ニアラサル道路ニモ亦之ヲ適用ス
- 第七條 (第一項第三項第四項第五項第八項第十二項第十三項第十四項) 第八條第九條第十二條第十三條第十五條第十八條第十九條第二十二條第二十六條第二十九條第三十條第三十一條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十七條
- 第四條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲ス可キ義務ヲ怠リタル時ハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收ス可シ
- 第五條 街路ニ建物軒檐柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出ス可ラス
- 第六條 左ノ諸件ニ係ル者ハ街路ニ出スコトヲ得
 - 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
 - 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
 - 三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内 但綿布類ニ限ル可シ
 - 四 掲燈ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺六尺以上ハ一尺五寸以内
- 第二章 安寧保存
- 第七條 街路ニ於テ左ノ諸件ヲナサヌルモノハ其場ノ模様ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署へ願出允許ヲ受ク可シ
 - 一 下水ヲ新設改造修理セントスル者

- 二 床店葭簀張ヲ設ケントスル者
- 三 樹木ヲ植エ又ハ街燈ヲ建ントスル者
- 四 柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置カントスル者
- 五 華表火見梯子及碑表指道表廣告札其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設セントスル者
- 六 目塗土置塲ヲ設ケントスル者
- 七 工事ノ爲メニ一時路上ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他道路ヲ使用セントスル者
- 八 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬セントスル者
- 九 一時路上ニ幟杭舞臺神佛祭典小屋掛歲市草市等ノ節店飾及釣提燈ヲ設ケントスル者
- 十 神輿山車又ハ躍屋臺ヲ出サントスル者
- 十一 消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置カントスル者
- 十二 工事ノ爲メ一時通行ノ停止ヲ要スル者
- 十三 車馬通行止メノ榜示アル場所ニ車馬ヲ出入セントスル者
- 十四 田地ニ水ヲ引ク爲メ道路ヲ使用セントスル者
- 第八條 免許ヲ得テ左ノ諸件ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ
 - 一 町村費ノ負擔ニ屬スル道路橋梁ヲ新設改造又ハ修理セントスル者
 - 二 私設ノ道路橋梁ヲ開閉シ及其位置幅員ヲ變更セントスル者
- 第九條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタルモノハ直ニ原形ニ復ス可シ
- 第十條 街路ニ出テタル軒檐ニハ軒樋及堅樋ヲ設ケ其堅樋ハ家屋ニ附著ス可シ 但檐溜ノ下水ニ落ル

- モノハ此限リニアラス
- 第十一條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強勒ナル繩索ヲ以テ之ヲ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルモノハ顛仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲ス可シ
- 第十二條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アルモノ又ハ通行ノ妨害トナルヘキモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採ス可シ
- 第十三條 街路ニ竹木土石類ヲ置ク時ハ周圍ニ繩張又ハ標識ヲ設クヘシ
- 第十四條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄せ標燈ヲ掲ク可シ
- 第十五條 街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ地並ミニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシム可シ
- 第十六條 市街ノ兩側ニハ汚水疏通ノ爲下水ヲ設クヘシ但市街ノ模樣ニ依リ汚水停滯ノ虞ナクシテ所轄警察署分署ノ認可ヲ受クヘキモノハ此限リニアラス(二十六年縣令甲第二八號ヲ以テ但書追加)
- 第十七條 前條ノ下水ハ木石煉化セメント又ハ燒物(常滑燒ノ類)ヲ以テ適當ノ勾配ヲ付シ築造スヘシ但衛生上障害又ハ人馬行通ニ危險ノ虞アル場所ハ蓋又ハ底敷ヲ付シ且ツ排水塞ヲ設クヘシ(二十四年縣令甲第五四號ヲ以テ五十六號改正)
- 第十八條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅ス可ラス
- 第十九條 制札指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲ス可ラス
- 第二十條 街路ニ瓦礫又ハ冰雪塵芥禽獸ノ死屍其他汚穢物等ヲ投棄ス可ラス
- 第二十一條 街路ニ商品薪炭其他諸物件ヲ排列シ又ハ出シ置ク可ラス 但運搬又ハ揚卸ノ爲メ一時置ク者ハ此限リニアラス

- 第二十二條 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシム可ラス
- 第二十三條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲ス可ラス
- 第二十四條 街路ニ於テ濫リニ放歌高聲ヲ發シ又ハ喧噪シ若クハ偃臥ス可ラス
- 第二十五條 街路ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ヨリ指定シタル區域ノ外露店屋臺店ヲ出ス可ラス 但道敷三尺以内ヲ限ル可シ
- 第二十六條 行商ニ用フル荷車ハ長八尺巾三尺屋臺店ハ長六尺巾三尺ヲ超過ス可ラス

第三章 清潔

- 第二十七條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ塵芥雜草ヲ存ス可ラス
- 第二十八條 街路ノ洒水除雪及掃除ハ左ノ區別ニ依リ負擔ス可シ
 - 一 住居人兩側ナル時ハ其全部ノ一半
 - 二 住居人片側ナル時ハ其全部
 - 三 住居人ナキ時ハ借地人借地人ナキ時ハ地主
 - 四 前項ノ外其町村
- 第二十九條 街路ニ在ル鳥獸ノ死屍取片付ハ其町村ニ於テ負擔ス可シ
- 第三十條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除シ其午前八時後日沒迄ノ降雪ハ降歇ノ後直ニ掃除ス可シ 但市街ニアラサル街路ノ降雪ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ指定シタル時日ニ限ル可シ
- 第三十一條 掃除シタル雪ハ通行ノ妨害トナラサル場所ニ投棄ス可シ
- 第三十二條 炎天風日ニシテ街路ノ地盤乾燥シタル時ハ時時淨水ヲ洒ク可シ 但冬季ハ午前九時前午後三時後ハ洒水ス可ラス

- 第三十三條 街道ニ汚水ヲ洒注ス可ラス
- 第三十四條 町村費ニ係ル下水ハ總テ其町村ニ於テ負擔シ其他ノ下水ハ地主ニ於テ負擔ス可シ
- 第三十五條 前條ノ下水ハ各負擔者ニ於テ毎年三回(四月、七月、十一月)浚渫シ若シ塵芥淤泥等溜滯スルトキハ臨時浚渫ス可シ但浚ヘ揚ケタル下水ノ淤泥塵芥等ヲ路上ニ布キ又ハ留置ク可ラス
- 第三十六條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲナシ又ハ爲サシム可ラス
- 第三十七條 街路ニ於テ敷物糞穀類其他ノ塵埃ヲ掃フ可ラス但夜間煤掃スルハ此限リニアラス
- 第三十八條 街路ニ運搬スル汚穢物ハ墜落漏出又ハ飛散セシム可ラス但糞尿ハ蓋ヲ覆フ可シ
- 第三十九條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ夜具襪襪其他見苦敷物品ヲ置ク可ラス
- 第四章 通行
- 第四十條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅ス可ラス
- 第四十一條 跡押ノミニテ諸車ヲ運轉シ通行ノ妨害ヲナス可ラス
- 第四十二條 米口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スル時ハ其米口ヲ縛束ス可シ
- 第四十三條 口取ナキ荷馬車ニ乘リ或ハ諸車ヲ竝ヘ挽キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行人ノ妨害ヲナス可ラ(三十六年縣令甲第二八號ヲ以テ四十一條及本條改正)
- 第四十四條 車二輛以上ヲ連繫シテ挽ク可ラス但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限リニアラス
- 第四十五條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽ク可ラス但賣買ノタメ輸送スルハ此限リニアラス
- 第四十六條 車馬及歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊竝ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避讓ス可シ
- 第四十七條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂道ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓ス可シ

- 第四十八條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛聲又ハ相當ノ相圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過ス可シ
- 第四十九條 郵便用消防用ノ車馬及洒水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ其妨害トナラサル場所ニ避讓ス可シ
- 第五十條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行ス可シ
- 第五十一條 車馬街角ヲ右ニ過クル時ハ大廻リヲ爲シ左ニ過クル時ハ小廻リヲ爲ス可シ
- 第五十二條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ置ク可ラス
- 第五十三條 牛馬ノ看守又ハ繫留方ヲ忽セニシテ通行ノ妨害ヲ爲ス可ラス
- 第五十四條 制止ヲ肯セス出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ル可ラス
- 第五十五條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ諸車ヲ駐止ス可ラス
- 第五十六條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ挽テ彷徨シ通行ノ妨害ヲナス可ラス
- 第五十七條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ喉シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フ可ラス
- 第五十八條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシム可ラス
- 第五十九條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲ス可ラス
- 第六十條 街路ニ於テ袒裼裸體ヲ爲ス可ラス
- 第六十一條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄セテ爲ス可ラス
- 第五章 罰則(二十四年縣令甲第二十號ヲ以テ本條改正)
- 第六十二條 本則第五條第七條第八條第二項第九條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第十九條第二十條第二十三條第四十條第四十一條第四十三條第五十四條ニ違背シタル者及第十五條ノ命

○縣訓令第百十九號 明治二十九年十二月十一日

郡役所 警察署
警察分署 町村役場

道路往來止若クハ車止ノ場合ニ郵便ノ遞送及集配並ニ電報集配人ヲシテ他ノ迂路ヲ取ラシムルトキハ通信ノ遲達ヲ來スヘキニ付右等ノ場所ト雖モ成ルヘク通過セシムル様取計フヘシ

○甲第二十九號 明治十九年三月六日

人民私費ヲ以テ開設シタル道路橋梁及渡津ニ於テ左ノ向ヨリ賃錢ヲ請求スルヲ得ス

一 隊伍ヲ組ミタル軍隊

一 憲兵 但單騎獨歩ヲ問ハス

一 警部巡查

一 囚徒ヲ護送スル看守押丁及其囚徒

一 制服着用又ハ左ノ印鑑ヲ所持スル飛信及郵便物遞送集配ノ脚夫(明治十九年五月甲第五十八號ニテ本文ノ通改正)

此印鑑ハ曾テ驛遞局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル局印

印鑑

組以川中

第 號
何 國

○ 何地郵便局脚夫

何之誰

○ 明治十六年月日

何何
郵便局 地國

一 制服着用又ハ左ノ印鑑ヲ所持スル電信配達人(二十一年縣令甲第七十號ヲ以テ本項改正)

二寸五分

印鑑

組以川中

第 號
何 國

○ 何地郵便電信(電信)集配人

何之誰

○ 明治年月日

何何
郵便電信 局 地國

二寸五分

(二十四年縣令甲第五十九號ヲ以テ本印鑑追加)

印鑑

組以川中

第 號
何 國

○ 何地電信取扱所配達人

何之誰

○ 明治年月日

何何
取電何何 扱 所信地國

- 一 陸軍召集條例ニ據リ近衛鎮臺充員召集後備軍召集ニ際シ令狀所持ノ者並ニ該令狀配達ノ脚夫(二十一年縣令甲第二十一號ヲ以テ本項追加)
- 一 明治二十七年二月勅令第十五號消防組規則ニ依リ設置シタル消防組ニシテ水火災警防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲナシタルモノ(二十七年縣令第十九號ヲ以テ本項追加)

○縣令第四十九號 明治三十年九月二十四日
洪水其他變災ノ場合ニ於テ一時假橋若ハ渡船場ヲ設ケ通行人ヨリ賃錢ヲ請求セントスルトキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

○縣令甲第四十八號 明治二十一年七月十六日
明治二十年ル縣令甲第三十八號街路取締規則第七條ハ自今口頭ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出允許ヲ受クルコトヲ得但同條第六、七、八、十二、十三、十四、ノ六項ハ受持巡查ニ願出ツルモ妨ナシ

○縣令第四十八號 明治三十四年五月七日
軌道運輸營業取締規則左ノ通定ム

軌道運輸營業取締規則

第一章 總 則

- 第一條 本則ハ馬車鐵道及人車鐵道ニ之ヲ適用ス
- 第二條 旅客荷物ノ運輸ヲ開始セントスルトキハ會社又ハ事務所所在地ノ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ
 - 第二章 軌道車輛及馬匹
- 第三條 軌道及車輛ハ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス
- 軌道ハ運轉上危險ノ虞ナキ様常ニ工夫ヲシテ巡視セシムヘシ
- 客車及貨車ノ各部ハ時々検査スヘシ

第四條 客車及貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

- 一 番號
- 二 客車ニハ等級及乘客定員
- 三 貨車ニハ積載容量及重量
- 第五條 客車ニハ警鈴ニ聯結シタル挽索其ノ他適當ノ警報裝置ヲ施設スヘシ
- 第六條 夜間ハ客車ノ前部右側及後部左側ニ内方ヘ白色外方ヘ赤色ヲ示ス燈各一個貨車ノ前部ニハ赤色燈一個ヲ點スヘシ
- 第七條 馬匹ハ五歲以上ニシテ体格強壯ナルモノニ非レハ使用スルコトヲ得ス
- 馬匹ハ検査員ヲシテ検査セシメ使用ニ堪ヘスト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第八條 車輛及馬匹ハ常ニ清潔ヲ保持スヘシ
- 第三章 運 送
- 第九條 旅客荷物ノ運賃額及客車ノ乘客定員ハ會社又ハ事務所所在地ノ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ申請スヘシ
- 第十條 旅客荷物ノ運賃額及發着時間ハ停車場見易キ所ニ之ヲ揭示スヘシ
- 第十一條 天災事變其ノ他正當ノ理由アルニ非サレハ旅客又ハ荷物ノ運送ヲ拒絕シ若ハ中斷スルコトヲ得ス
- 第十二條 乘車券ニハ通用區間等級及運賃額ヲ記載スヘシ
- 第十三條 客車ノ乘客定員ヲ超ヘ強テ旅客ヲ乗込マシムルコトヲ得ス

第十四條 傳染病患者ハ乗車セシムルコトヲ得ス
第十五條 携帶制限ヲ超ユル火藥類危害ヲ他ニ及ホスヘキ物品及臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品ハ客車
内ニ持込ムコトヲ得ス

第十六條 犬其他ノ動物ハ客車内ニ携伴スルコトヲ得ス

第十七條 天災事變其ノ他己ムヲ得サル事由ニ因リ旅客ノ運送ヲ中斷シタルトキハ既ニ通過セル線路
ニ對スル通賃ヲ扣除シ殘額ヲ拂戻スヘシ

第十八條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ホス風体行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 車掌馭者及車夫

第十九條 馭者又ハ車夫ヲ雇用セントスルトキハ其ノ住所氏名年齢ヲ記載シ本人ヲ同伴シテ會社又ハ
事務所所在地ノ所轄警察官署ニ出願シ免許鑑札ヲ受クヘシ但解雇又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ
免許鑑札ヲ添ヘ届出ヘシ

第二十條 馭者ハ滿二十年以上車夫ハ滿十八年以上ニ達シ身體強壯ニシテ且其ノ業務ニ熟練ナル者ニ
非レハ之ヲ雇用スルコトヲ得ス

第二十一條 車掌馭者及車夫ハ左ノ服裝ヲ爲スヘシ

車掌馭者

帽

大黒形

上衣(ジャケット)

地質紺絨若ハ小倉織ノ類

袴

上衣ニ同シ

外套

地質紺絨

車 夫

帽

大黒形

筒袖(半天)

紺地

股引

同上

第二十二條 車掌馭者及車夫ハ運輸上ノ安全便益ヲ旨トシ旅客ニ對シ懇切ニ業務ヲ行フヘシ

第二十三條 馭者又ハ車夫ハ客車ノ運轉中其ノ位置ヲ離ルルコトヲ得ス

第二十四條 旅客乗降ノ際ハ客車ノ運轉ヲ止メ着席又ハ降車シタル後ニ非レハ運轉ヲ始ムルコトヲ得ス

第五章 罰 則

第二十五條 第六條第七條第十一條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第二十條及

第二十四條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○甲第十六號 明治十三年二月九日

川々運轉汽船航行取締規則別紙ノ通相定メ本年三月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

汽船航行取締規則

第一條 管内河川ニ於テ汽船運轉航行ノ業ヲ營ムモノハ烟筒噴火火難ノ危害ヲ豫防スル爲メ左ノ條款
ヲ遵守スヘシ

第二條 一江戸利根兩川筋及人家ニ接近スル河川ヲ航行スル汽船ハ必ス石炭ヲ單用スヘシ尙營業者ノ
都合ニヨリ石炭ヲ用ヒス薪木ヲ焚用スルトキハ汽船烟筒ハ必ス噴火止英名(スハークアルレスタ)ノ
器械ヲ施シ全ク噴火ヲ防止スヘシ

第三條 汽船航通ノ際薪木ヲ焚用シ前條噴火止器械ヲ施ササルモノハ該航通ヲ差止ムヘシ 但噴火止器械施スモ其器械粗悪ニシテ仍ホ火焰ヲ噴モノハ亦其航通ヲ差止ムヘシ
第四條 前各條ニ背戻スル汽船ハ一時運轉航通ヲ差止ノ其情狀ヲ取調相當ノ處分ニ及フヘシ

○甲第十二號 明治十一年一月二十六日
川船田船等他ニ流著スルモノアルモ其所有者ノ知レサルヨリ還付シ難キモノ往往有之依テハ左ノ書式ニ倣ヒ木札ヲ製シ各自ノ所有船へ必ス釘付置候様可致此旨布達候事

雛形

埼玉縣下

何國何郡何村

何番屋敷

何之誰

江戸川筋御獵場區域地名

●埼玉縣武藏國

北足立郡

●新鄉村○大字東本郷字下溜、石御堂、南前、本郷前、宮脇、合ノ谷、峰岸、小原、曲輪、大塚、西浦、臺、見沼、西谷○大字榛松字道内、上海老田、中海老田、下海老田、南山梨、北山梨○大

字新堀字前、後、沖田、板戸、海老田、新田、越戸○大字峰字前、後○大字東貝塚字若宮○大字大竹字前、後○大字蓮沼字居柳、市道、曾根○大字江戸袋字高田、北谷○大字赤井字淺間 臺、一反前、谷田、廣田、田畑○大字前野宿字上野、下野
●谷塚村○大字瀬崎字海道西、北割合、南割合、淺間、四町田、桐木、蒲原、堤外、須崎、沼田、水川、山王、大淵、原、新田、角田○大字下谷塚字東沼田、西沼田、東鬼、西鬼、東地總山、谷塚、西地總山○大字中谷塚字沼田、崎崎、野發、飛沼田○大字上谷塚字東沼田、西沼田、堀返、立野、大沼、野發、島田○大字市右衛門新田字沼田、前、塚田○大字彦右衛門新田字沼田、前、塚田○大字新里字沼田、毛長沼、外丸、河内通、通、石橋通、鬼子沼○大字柳島字中島、瀬戸、道内、助三郎、谷置○大字東遊馬字沼田、本田南通、本田北通、新田南、新田北
●草加町○大字南草加字長沼、丸野、澁沼、西町裏、東町裏、前田○大字吉原原字大道東、蛇田、西出、手白、橋戸○大字谷古字六貫野、東町裏、綾瀬、淺瀬○大字宿篠葉字大伏間、綾瀬、橋戸、土手内、土手外、西町裏○大字東立野字道上、道下、狭間、前、後、流○大字原島字内耕地前耕地、西耕地、丸野○大字北草加字谷中、丁張、東○大字庄左衛門新田字丁張、稗田○大字與左衛門新田字丁張○大字彌惣右衛門新田字丁張、前田、町裏○大字太郎右衛門新田字丁張、浦寺、●新田村○大字善兵衛新田字甚藏、後稻荷、前稻荷、四郎次○大字清右衛門新田字南、北○大字新兵衛新田字道下、道上、川戸沼添、堤外大沼○大字長右衛門新田字西、東、大沼○大字金石衛門新田字道下、道上、沼田、堤内、中取出、堤外、出茶屋○大字九左衛門新田字中井堀南、中井堀北、中道西、大塚、出茶屋○大字東中曾根字綾瀬、樋籠、宮沼、前○大字篠葉字宮沼、柳戸呂、男衾、西田、會ノ谷○大字槐戸字宮沼、青柳前、樋籠、戸ヶ袋、曾根、笹塚、猿堀

●安行村○大字原字半繩下、附通堤上、沖田、根谷、六升蒔、傳右添、折越、市場、三輪作、中郷、久保、半繩、小清水、向原、枝郷○大字赤山領領家字前、中道東、中道西、新田、中道南、中道北、出羽、宮下、原下○大字慈林字法印前、小井戸、子神、一身ノ口、稻荷木、赤芝、上村中、下村中、堂下○大字安行字中才、馬除、元木下、大元、宮前、宮越、南口、天沼、大原、立ノ崎、追回○大字藤八新田字道上、道下○大字吉藏新田字中道東、根堤○大字北谷字小山下、市場、北谷、東○大字花栗字第六天、流、丁張、東、中島、西割○大字苗塚字塚前、伏木前○大字小山字流、松ノ木、龜田、根郷

●鳩ヶ谷町○大字鳩ヶ谷字稻荷前、町谷原、町添、後谷○大字浦寺字町谷、落合、大通

●神根村○大字石神字東町裏、枯木前、仲道、雨堤○大字赤芝新田字甲道下、乙道下、道上、道下、○大字赤山字山王町、曲輪、陣屋敷、新町口、向原、源長寺上知、源長寺前○大字新井宿字下一斗蒔、上一斗蒔、保坂山、宮田、門下

●戸塚村○大字戸塚字中谷、佐藤、平沼、一本木、柳、板戸、杉本、赤道狹、下境、立山、下臺、上臺、中臺、西臺、下ヶ戸○大字西立野字大下、大寶、寺ヶ崎、中道、道上、西合、宮合○大字長藏新田字道内、道外、中谷○大字藤兵衛新田字中道、堤外大沼、堤外○大字久左衛門新田字東通、宮前

●大門村○大字大門字東裏、鶴卷、宮下、外町、内町、野原○大字下野田下宿畑、稻荷原、弦卷、本村、家下、新道下、新田、流、馬宮○大字立藩新田字長町、内、外、本出○大字北原字下野田下

●野田村○大字大崎字中野田下○大字辻字綾瀬、圍城寺、霞山、原山、立山、西原、原、立、稻荷下、東○大字中野田字附ノ木、五郎シ、稻荷下、冠木、谷ノ前、中原、堀ノ内、島ノ前○大字

代山字篠内、六本木、宮臺、八幡谷ツ、本村、後谷ツ、坂口臺、御獵臺、原ノ下○大字高畑字新田、水引堀下、狹土手下、平沼、高畑前、八雲○大字寺山字下、中、上、天久保、中郷、本村、蓮川、飛地○大字上野田字宮後、丸山、丸山下、キラ、土浮、堀向、天神下、膝子下、沼、東臺

●膝子村○字上芝宮、下芝宮、會ノ谷、臺、中道、辻、中田、外新田、八幡下、崎ノ下、押付、大繩、大沼

●東宮下村○字子ノ神、中里、下ノ里、薬師下、原口、宮ノ下

●春岡村○大字宮ヶ谷塔字下綾

南埼玉郡

●岩槻町○大字岩槻字府内一、府内二、東、林下、新正寺、新正寺飛地○大字太田字裏小路、廣小路、天神小路、天神添小路、諏訪小路、新曲輪、新正寺曲輪、竹筒、明戸

●豊春村○大字谷原新田字八木崎、大沼、オモレ、中通、立沼、袋前、長繩、長割、廿四丁、下○大字上大増新田字東、西○大字下大増新田字東、西○大字道順川戸字古隅田川縁○大字新方袋字山口、内、長繩、新田、宮川、八木崎 ○大字南中會根○宮田、松ノ木、沖田、川面、立野、大増、寺裏○大字上蛭田字中通、深田、外手、蟹前○大字下蛭田字新田、前田、下道、道口前○大字花積字臺、慈恩寺原、反町、内谷○大字増戸字眞城原、天神原、上、新田、前、殿谷、中、義貞沼○大字増宮字本田、谷際、小割、前田、木ノ下、鍛冶田、中屋敷、芝原○大字道口蛭田字丸山、前、蓮臺、道口蛭田前

●内牧村○大字内牧字深町、小名取、八作、南里、天神、塚内、谷向、坊荒、立山、黒沼、上原、中原、下原、大道、高野、竹ノ下、三道、山口四方谷、戸崎、大名取、三千具、吉良兵衛○大字梅

田字西前、東前、辰高入、新田裏、堤際、東裏、東、立野、新田前、新田、三世界、沼出、瀬戸田芝原、西

●柏壁町○字町裏、川久保、川窪新田、土井、井戸棚居、草刈場、内谷、立沼、馬草場、八木崎、濱川戸、町並、内出

●川通村○大字南平野字鎧宮、深町、清賀、丸田、中通丸田、堤外、上六反、下六反○大字長宮字前田、猫島、水保上、平野前、窪田、小沼、面園、上谷中、殿谷、下谷下、キラ、小割○大字大野島字杉崎、構ノ内、前田、上沼、辨財天、高畑、藤太郎、細谷、儘川、久保田、柳原○大字増長字外手、俵島、茶花、小沼、堤内、窪田、飛○大字大口字根古島、前、堤下、内新田、外新田十町步、飛○大字大谷字新切、裏、砂原、柳原、前田、折元、圓明田、鍛治掛、新田、飛○大字大戸字川棚、際、砂原、宮田、大谷前、譯田、籠場、仲沖、沼端、中谷、切替○大字新方須賀字宮田、中谷、己之繩、居付、水神、三反步、中田、向中谷、堀向、主計新田、前野○大字大森字宅地、宮田、松本、前谷、五反田、向谷、下、永腐

●武里村○大字備後字一ノ繩、田島、大道東、正善、須賀、谷原、堤外、立野、宮田○大字一ノ割字上川、手土、諏訪、油子、島ノ谷、島、下川、中根、下根、砂田○大字中野字根、南、北、丑ノ發、新田、己ノ起、五丁部、長島、谷中、谷原○大字薄谷字久佛、己ノ起、中道、木揚場、土手外、谷際○大字大塙字裏、前野、前、沼端、長島、上谷中、中谷中、下谷中、飛○大字大畑字前、東下モ田、杉ノ口、西下田、横割、東己ノ起、砂間、西己之起、谷原飛地○大字大枝字屋敷前、池端、井堀内、井堀外、千間堀向、谷原○大字増田新田字西、南、東北

●櫻井村○大字上間久里字築堤、八反田、堂前、北浦、源右衛門新田、海道上手、堤外古川新田

鯛ノ島○大字下間久里字前田、仲田、深田、新田、源前、四斗卷、土瀉、堤外、鯛之島○大字大里字上、新田、仲田、下、堀西、堤外、沼、大林境○大字大泊字北、根田、塚田、廣田、堰場、雉子田○大字平方字會之川、東前、戸崎前、川久保、山谷前、沼田、南代、立野、東田、南田、ヤタレ、横手前、會ノ久保

●新方村○大字北川崎字宮脇、川端、井堀向、堰戸、勢至前、沼田、下町、澁田、太子面○大字向畑字新田、沼尻、立野、皿沼、堤外、本荒白、飛地○大字大吉字以前、鷺城、根通、鷺代○大字彌十郎字大林境、以前、大杉境、表沼、裏沼○大字大杉字澁田、勢至前、深石、大塙落、堰戸、堀向○大字大松字堀向、前、川端、深石、小谷島○大字船渡字稻荷前、大島、堀向、福島、大島前、島添、下川原、上川原、仕込、杉戸、屋敷前

●増林村○大字増林字定使野、前並、上組、椎ノ木、中妻、中組、下組、二子會根、西川、城ノ上○大字増森字本田、新田、三丁野、西川○大字東小林字上側、根郷、野中、高會根○大字中島字上組、下組○大字花田字本田、新田

●大袋村大字恩間字恩間、荒久、中道、天神下、外和戸、追堀、次崎、下新田、上新田、間久里境、宮田、中堤○大字大竹字川久保、東畑、西浦、仲田、砂田、宮前、仲久保、二階、堤外、大荒田、野中、宮堤、長堀○大字大道字上手、大、代官免、房田、中田、堀向、澤田、四反步、中島、建谷○大字三野宮字堤外、中川原、道上、下道、上谷、中谷、下谷、雷電、御手作、新田前、堀向、向谷○大字恩間新田字次郎右衛門、寺前、下、宮前、中堀、蓮河原○大字袋山字三田方、根通、根河原、古川、天沼○大字大林字海道東、海道西○大字大房字下川戸、海道内、沼向、大林下、沼田

●荻島村○大字南荻島字左敷田、戸井、沼迎、内野合、出津、外野合、三ッ俣○大字砂原字沼、沼ノ方、柳田、横根方、六反田、東、前原○大字小會川字居、川端、神前、前原、釣田、沖田○大字野島字上、川端、廣畑、内、橋向、中屋、飛○大字北後谷字後谷、内谷、外谷○大字西新井字土台、西前、上新田、外谷、宮前○大字長島字上、下

●和土村○大字飯塚字新切、古川、柳橋、宮下、風間、竹ノ花、中島、相ノ谷、溜、本田、西谷津、原地、乾谷○大字黒谷字高會根下、山下、長田、竹下、大塚下、下新井出作、市道、原山、中通、久保、八幡裏、田端前、貝塚前、本郷前、新田、殿海道、七島、殿海道前、尾ヶ崎境、上谷、木ノ下、關根木ノ下、下○大字笹久保字峯谷、葉藻、寺方、相ノ谷、久保、六軒、前田、宮野、譯山、新切○大字笹久保新田字井戸田、四丁、谷際、元谷、中谷、蛭田、渡戸、新切○大字木曾真字屋敷、府内一○大字村岡字下立、中島、里、上立、江入穴、道相、道下、屋敷、錫物屋敷、屋敷前○大字南下新井字柳橋、宮前、番場、妙見、臺下

●新和村○大字尾ヶ崎字沖、杉木、榎爪、谷下、峰谷、半繩、稻荷谷、畑中、山ノ海道、藥師谷○大字尾ヶ崎新田字上川端、下川端、五反歩、八町、木淵、道内、深町○大字釣上字神明島上、神明島下、内谷上、内谷下、高岡上、高岡下、神明島飛地、碓○大字釣上新田字西ヶ尻、道下、二番道、午ノ關、新切、川原、平沼、八丁、下、中、上、馬沼○大字野島方字沖、差橋、道口、中谷原、長宮、谷中、市ノ坪、下深田、上深田、中深田、關根木下○大字孫十郎字英木、沼田、谷中前、市ノ坪、關根○大字高會根字論田、市道、小宮、大境、谷中前、沼尻、下深田、下市ノ坪、稻付戸、中深田、上深田、英ノ木、外記前、下會根、東前、中會根、田向、内出、西浦、上會根、關根、山下○大字末田字論田、沼尻、釣田、人卷前、中浮戸、新浮戸、上浮戸、向浮戸、

人卷、野島前、宿、外野、上手、中組、卷上

●出羽村○大字大間野字川西、川東○大字七左衛門字四ッ谷、前谷、新川向、外谷、前沼、外沼、寺裏、細沼、内沼、柳、屋敷前、屋敷裏、下屋敷前、道下○大字谷中字寅沖、中西、大作○大字越卷字川西、槐並木、内沼、屋敷前、川東、丸ノ内、雨足、屋敷裏○大字神明下字上樋、下樋、仲田、高田、土浮、寅發○大字四丁野字寅、中西、長堀、神明、四丁野、根通

●蒲生村○大字蒲生字前谷、東前谷、へらなし、東、打分、會野谷、村添、天神後、東高野、中道、分田、五丁目、荒神後、山王前、神明前、西浦、堤外、道沼○大字登戸字西、街道向、塚田、前、瀬戸谷、東前、東向、新田、本村、鎌田○大字瓦會根字大境、海道東、田向、大田切、乗上リ、嘉兵衛、トブ、大新田、又右衛門、三枚田、木ノ下、柳田、後屋、川上

●川柳村○大字麥塚字川端、山城、新田前、藏屋敷、笹塚、八幡後、根郷、大上手、山谷後、東戸部、井堀向、道沼、東○大字伊原字横道、中、鎌田通、天神後、前通、大角屋敷、西前谷、東前谷、東裏、へらなし○大字南青柳字上十六丁、宇多利、下十六丁、笹塚、内、妙見、大廣戸、堤外○大字柿木字内山、鶴、龜、來、松、堤外、竹、梅、寶、山彌、山西、山東、庄權

●八條村○大字八條字入谷、白鳥、和ノ村、幸ノ宮、中島、堤外○大字鶴ヶ會根字上根通、下根通、屋敷添、宮田、天神、沖通、上中通、下中通、馬場裏、上河原、下河原、上九田○大字小作田字南開、地生、東耕地、西耕地、天神、北開○大字松ノ木字東耕地、居村、社脇、新川西、上田○大字伊草字村付、葛西井西、上通、上田○大字立野堀字下通、上通、西田、用水東、堤外川上、堤外川下

●八幡村○大字上馬場字馬場方、東後、東屋敷、天神、上九田西、西屋敷、西後、馬場裏○大字

中馬場字馬場方、東、屋敷、大原境、新川向、浮塚、仕込○大字大原字東、苗間、原田、眞菰田、五殿谷、蛇田、居村、根○大字大會根字上内手、中内手、新構、西内手、甚兵新田、新々田、御立野跡、西田、五反田、前田、蛇田、荒田、壹町田、仕込、釜場、二ツ塚、關屋、浮塚飛地○大字浮塚字橋戸、中ノ島、砂取○大字西袋字川西、川東○大字柳ノ宮川向、屋敷通、大道、天神○大字南後谷字粒田南、粒田北、八幡、東、屋敷、堤外

●潮止村○大字二丁目字上、下、下堤外、上堤外、若柳○大字木曾根字西、上、下、水押○大字南川崎字八反野、新田前、根通、堤外○大字伊勢野字藏ノ後、小畝町、助區仕込、道面、根通、堤外○大字大瀬字中通、土腐、茨田、沖、稗田、道免石崎、道免、上通、丸野下河原、根郷通、下通、下河原、大繩○大字古新田字出津、堤外、西通、長割、土腐、仕込、小畝町、中町、六町田、清水田、東通○大字折字野耕地、用水東、用水西

●大相摸村○大字西方字内耕野、堂端、番場、屋影、馬場野、沼端、小野前、山野、中、上手、堂面、堤外○大字東方字宮田、流、道免、山谷、茨田、西口、外野○大字見田方字内輪、外野、下河原、辻、屋陰、内廣野、落井、外廣野、四斗蒔土腐、曾根、中方、五斗蒔、下飯島、飯島○大字南百字西ノ妻、苗間戸、上深田、下深田、曾根沖○大字四條字長島、根郷、堤外、待田、六舛、南百方、古通、新田○大字別府字千足、南谷、北谷、前原、村道西、村道東、堤外○大字千正字苗間、芦田、四斗蒔、九升田、庄樓、二枚田、浮沼、北口、南口、下出洲、上出洲、中島

●越ヶ谷町○字下大作、柳田、南町裏、西町裏、谷古谷、井戸田、上大作、四丁野、一番、二番、花田、三番、四番、柳原、東町裏、町並、芦場、寅、中西、長堀、根通

●大澤町○字堤外、皿沼、辻、飯御免、宮後、内野、鷺後、鷺越、槐戸、新田、古川、外河原

横シ込、町並

●慈恩寺村○大字慈恩寺字前、大門、山口、入山、西向山、東向山○大字小溝字前、外、本、新田、黒沼、東○大字徳力字西、東○大字表慈恩寺字諏訪山、諏訪下、南、東、西、反町○大字南辻字前、鐵宮、前川棚○大字上野字二番、三番、四番、一番○大字古ヶ場字花ノ木○大字相野原字東○大字裏慈恩寺字新房、原、下手、蓮臺、上手、黒沼○大字鹿室字新開、大山、九具入、本宿、新切、東

●日勝村○大字上野田字東上原、北下原、南下原、山中、鶴ヶ會根、新田前、逆井○大字下野田字新田前、上原沖田、下原、萩原、駒込、鶴ヶ會根、東○大字爪田ヶ谷字本田、中通、新田、萩原、諏訪、原、五左衛門、亥開、笠原、洲崎谷中○大字太田新井字新田、原、土橋山、宿原、堂ヶ島、下野谷、前田、海老島、向谷原、北、新井○大字彦兵衛字外記山、前山、上北山、下北山、上小笠原、下小笠原

●須賀村○大字東叡原字鎌塚谷、深江戸、御堂海戸、御手洗、大崎、宿屋敷、入野前、前、前塚、澁谷、堂沼、笠原○大字西叡原字島、沖田、中通、新田、鎌塚谷、深戸、野方○大字須賀字笠原、沼端、辰新田、前田、前須賀、新田裏、宮前、金剛寺、鹿沼、深生戸、砂河原、下堤、下堤外、島、宿、上堤、高野島○大字和戸字島河原、宿○大字園納字丸屋、沼端

●百間村○大字百間東字海老ヶ島、金谷原前、尼沼、西谷垂下ヶ谷、東谷垂、戸崎、三千界、東下島、仲田、東、丸野、西、前原、西原、前田、大逆井、金谷原、中逆井、浮谷、南第六天、第六天、山崎、蓮田、平島、笠原、堤久保、大谷、沖田、臺ノ越、姫宮、姫宮前、榎戸、宮ノ越、川端、中洲島、稻荷木、松ノ木、島、内野、下島、若宮、袖ノ木、外野、榎、下谷原、中須、八

幡前、野久保、臺、外河原、新山○大字百間中字申逆井、海老ヶ島、金谷原前、尼沼、西谷垂、下ノ谷、三千界、東下島、仲田、東、東谷垂、西、丸野、西原、前原、金谷原、大逆井、浮谷、星谷、山崎、蓮田、笠原、小沼、堤久保、宮ノ越、沖田、大谷、臺、越、姫宮、姫宮前、榎戸、川端、中洲島、松木島、稻荷木、柚木、内野、榎、外野、下谷原、八幡前、若宮、野久保、下島、上島、中洲、裏、下一文字、上中野、裏、道生、上一文字○大字百間金谷原組字逆井、海老ヶ島、中坂才、金谷原前、尼沼、前原、金谷原、大坂才、新山、西原、丸野、仲田、榎戸、姫宮前、姫宮、臺越沖田、大谷、堤久保、山ノ下、前田、京塚、小沼、宮ノ越、川端、三千界、中洲島、稻荷木、柚ノ木、内野、榎、外野、八幡前、若宮、下島、上島、下一文字、道佛裏、下中野、下谷原、上中野、野久保、上一文字、道生、川島前、川島、切戸、逆谷、前通、中山南第六天、平島下ノ谷○大字百間西原組字逆井、海老ヶ島、金谷原前、下ノ谷、尼沼、仲田、西、前原、西原、新山、大逆井、金谷原、中逆井、浮谷、南第六天、第六天、蓮田、山崎、中山、星谷前田、大谷、堤久保、山ノ下、京塚、笠原、小沼、小谷原、沖田、臺越、姫宮、姫宮前、榎戸、川端、宮越、下谷原、外野、柚ノ木、稻荷木、中洲島、松ノ木島、内野、榎、八幡前、若宮、中洲、上谷原、裏、下中野、下一文字、上中野、片貝、蓮谷前通、野久保、臺、外河原、川島前、道生、上一文字、上島、下島○大字百間字逆井、浮谷、平島、南第六天、新山、大逆井、中逆井、西原、前田、山ノ下、中山、星谷、蓮田、笠原、山崎、京塚、堤窪、沖田、姫宮、小谷原、小沼、片貝、蓮谷前通、野久保、上中野、上一文字、道生、臺、切戸、外河原、川島前、川島、下島、内野、上島、下一文字、下中野、道佛、裏、中須、榎、柚ノ木、稻荷木、中洲島、仲田、榎戸、外野、下谷原、宮ノ越、大谷、金谷原前、金谷原、海老ヶ島○大字百間中島字浮谷、南第六天、蓮田、山崎、

新山、前田、西原、東、仲田、大谷、堤久保、京塚、笠原、小沼、小谷原、宮ノ越、下谷原、上谷原、道佛、構片貝、蓮谷前通、野久保、上中野、裏、下中野、下一文字、上一文字、道生、上島、中須、八幡前、若宮、下島、内野、榎、外野、稻荷木、中洲島○大字蓮谷字浮谷、逆井、蓮田、第六天、大谷、笠原、小沼、構、蓮谷、前通、片貝、上島、道生、野久保、臺

●柏崎村○大字柏崎字下組、九反田、谷際、原、倉浪、中組、上組、勘五郎○大字加倉字川通、中島、齋藤新田、坂下、谷ッ合○大字谷下字鎮守前、沖田、鎮守裏、前田○大字横根字大ギラ、中會根、上平沼、柳原、相野谷、池、下平沼、上組、中組、池手子嶋、野方○大字浮谷字寺家、石神、松葉、觀音、平沼八幡、捻橋、原、川際○大字眞福寺字芝原、妙見、中道、原、新田、谷頭、向原、新堤

北葛飾郡

●南櫻井村○大字永沼字川端、中道、道中、岡堀、向通、宮下○大字下柳字森田前、森田、古川端、藤崎、船堀、長嶋、六畝、香取前、田中、天神前○大字上柳字堀之内西、堀之内東、柳嶋、道下、中通、北、下部、古川、中嶋○大字金崎字舞臺、舞臺東、中島、新田、千間堤下、道江、中居宮、早上リ、川妻、荻合、花輪下、平松谷、禿地○大字上金崎字舞臺、舞臺東、中島、道江、千間堤下、中居、宮、荻合、花輪下、禿内、川妻○大字西金野井字尾ヶ崎、風早、神明、作之内、馬場、宮橋、谷頭、愛宕、米島境○大字大奈字香取回、塚腰、外谷津、内谷津、原、尾ヶ崎

●富多村○大字上吉妻字根橋、大湖○大字下吉妻字大湖、九井下○大字小平字丸山、十五丁、吉川村○大字須賀字瀬戸、屋敷通、宇津川、久保、中割、下川原○大字川野字上通、根郷通、宮前通、下通、タイト切○大字川富字古川端、根村、井堀外、永田、新堤向○大字關字根村、大

六天、余蔭谷原、新堤向發、沼田、新堤發通○大字吉川字屋敷付、井堀内下道上、中道下、堤外、上町張、下道下、落下、沼、沼邊、下道下井堀内○大字平沼、字川端、町西側、町東側、東町裏、井堀内、井堀添、勝晝間、會根通、佐左衛門切○大字保字下川原、上川原、堂脇、北谷、仲田、仕出、森下、南谷堀上、南谷堀下、北中島○大字木賣字屋敷添、井堀内道上、田耕地、井堀内道下、井堀向道上、北大佛、道上中通、南大佛、井堀向、道下、仕込向道下、仕込向道上、半田井堀西通、半田井堀西道下、道下大場川、道下中通、○大字高富字出須、北境、南境、土手内道上、土手内道下、道免、蒲田、北谷、南谷、大場川道下、大場川道上○大字高久字北通、町田、佐左衛門、北大場、南大場、小張、原田、南通、野會○大字中會根字西方、東方、堤根、南沼、北沼、川戸沼、八幡、九反、水溜、古利根川通○大字道庭字井堀内、井堀向、堤外○大字富新田字大場川道上、大場川道下、南谷、北谷○大字木賣新田字西道上、東添道上、大場川道上、大場川道下東添道下、西道下○大字保村中野分字西通、中通、大場川通

●八木郷村○大字市助字掛堀添、下大落添、上大落添、上堤根、下堤根、會野谷、沼池、堤外、中嶋、江戸川添○大字八町堀字挾、欠井堀、下中通、上中通、屋鋪、上大落添、下大落添○大字大繕字土腐、戸井道、大場添、沼上、沼、堤添、石谷、堤添屋作、添作○大字壹本木字會野谷土腐、會野谷道下、會野谷上、宅地添、川間前挾、四間道、袋、流作上、流作中、流作下○大字横堀字沖谷不動堀添、五町、大落添、野尻、欠井堀、十三町、石谷、新川堤添、大場川添、會野谷、新橋、六反田、欠井堀外○大字長戸呂字堤内添、裏通、落堀西、葭原、鷹野道下、鷹野道上、横堀裏、堤外○大字樋野口字落堀東、落堀西、御鷹道上、御鷹道下○大字德島字落堀西大道南、落堀西大道北、落堀西大道北、落堀東大道南○大字小向字丑堤外、落堀東、落堀西、御鷹野道下、

御鷹野道上、堤外○大字高須字堤外、道内、前、大場川、沖、内屋○大字久兵衛字堀西半川、前、内屋、佐久間外、松戸道上、沖、御鷹野道下、御鷹野道上、沖稻荷、半川○大字下新田字大落添、大堀添、下々用、大場川、沖谷

●幸手町○大字幸手字東町、吉羽前、安面、仲、新田裏、前、下谷、中郷東、關場、右馬之助町、久喜町、仲町、荒宿○大字内國府間字順禮、海道東、新田前、本村前、一丁田、瀬戸堤外

●杉戸町○大字杉戸字河原、上杉戸、舍人、上田、雅樂、町、内田、與左衛門前、十八丁○大字清地字内田、前、瀬戸、堀添、内三本木、策内西、策内南、策内東、裏豊後、丑發、大頭、深田、東豊後、井戸田、南豊後○大字倉松字前、内田、門村、諏訪田、雷電、丑發、天神、廣町、堀中沼回リ、沼ノ内大繩

●八代村○大字戸島字上戸、安戸、中原、二本木、大島新田○大字吉野字吉野、高畑ケ○大字天神島字本村、饗瀬○大字平須賀字吉岡、上株、下株、中株、赤木、外國内○大字神扇小字名ナシ○大字平野字須賀間、芝原○中野字本田、新田○大字長間字本田、蛭子

●上高野村○大字上高野字本村前、中郷東、菅藤前、織部前、應作前
●權現堂川村○大字神明内字堤下、砂原、西、用水添、權現前、谷中、中、後、小海、赤木○大字木立字坊合、荒田、新切戸西、新切戸東、西田、東田、砂場、流作○大字上吉羽字天神、西谷、屋敷前、藤野木、會野谷、北、孫田、堀内、立野裏、一ッ谷、中道附、堤下、堤外○大字權現堂字堀向、新田前、東砂畑、御屋敷、安面、砂畑、前、瀬戸、外野、上外野、柳原、天神、下谷、堤外

●金杉村○大字金杉字狹、淺間、天神、水神、蓮池○大字築比地字民部、前田、川敷、雷、鹿島、

川端

●彦成村○大字采女新田字會野谷、南谷○大字彦系字長田谷、道上、入畑、古川端、會野谷、上沼、下沼、道下、内畑、川戸沼、南谷○大字彦音字道上五斗蒔、道上深田、古川端、道下五斗蒔、道下深田○大字彦成字古川端、上關外、上深田、下深田、下關外、南耕地、彦富、井堀外上、三尺外、井堀外下、中耕地○大字上彦名字新田堀外、五十八町、古川端、中仕込、沖仕込、角田堀外、本田井堀内○大字上彦川字井堀内、井堀外、六斗蒔、馬形沖、井戸田、三野輪、居村、下河原、荒田、女子沼○大字下彦川戸字横道下、井堀向、馬形向、下河原、荒田、堤内、井戸田、裏道○大字彦野字井堀向、前道、堤向、儀路深田、屋敷添、屋敷向、掛井堀向○大字彦倉字押付、掛井堀向、屋敷添外、堤外柳原、堤外、掛井堀内、屋敷添○大字上口字皿沼、向沼、内沼、沼、深田、郷○大字番匠免字郷、深田、沼道、内谷、鶴沼、古川○大字彦澤字鹽柏、川端、井戸田、沼、用水向、内沼○大字彦江字儀路、外野、中道、下河原、内野、井戸田、沼○大字花和田字、八斗蒔、下井堀内、上河原、木ノ下道、内屋道、上井堀外、下河原、○大字谷口字置野、助野尻、沖、堤内、中兵、野杭、上兵、木ノ下、下河原、上田向

●早稻田村○大字半田字上ノ割、五反田、七反田、三尺外、西耕地、東耕地、六反田、下ノ割○大字前間字大月、村東、田中道上、江戸川流作場、丹後前、三輪野江入會、大堤通○大字後谷字向通、大場添、中通、長張、小谷袋、大場緑○大字小谷堀字古大場川添、新大場川添、鯛沼、大月、新田用水添、東流ノ通、江戸川流作場○大字田中新田字上ノ割、中ノ割、下ノ割、下谷、上向、下向、中島飛地○大字丹後字大月通、水門通、井堀内、中通、道下中通、行人橋、堤通、堤外○大字仁藏字九場川通、大場川添、三尺、深田、目子沼○大字大廣戸字大場川通屋敷廻リ、行人橋通、

外九場川、目子沼通、深田通リ○大字茂田井字井戸田、用水向、南、大廣戸添、中通、袋新田、下新田、流作場○大字幸房字前、茂田井境、屋敷添、上横道、中横道、大堤内、下横道添、下三尺外掛井堀向、中三尺道外、上三尺道外○大字谷中字不動堀添、新堀添、上中道、下中道、三尺上掛井堀向、掛井堀添○大字笹塚字屋敷廻リ、申切、皿沼○大字南蓮沼字外出、外中、上沼、中沼、下沼、沼向、中通、前通、道結、外崎、小金道○大字駒形字八丁カブ、ヒイ田、沼通、申切、蓮沼後、屋敷廻リ、駒形向○大字岩野木外三尺外、三尺内、屋敷添、大堤内、大堤外

●三輪野江村○大字三輪野江字丸山、萩代、畑田、觀音地屋、橋向、己ノ切、庚塚、釜口、釜袋、浦通、鯛沼、南裏通、宅地付、根通、根ノ町、草刈場、八反割、蓮沼、北、砂田、流作場○大字土場字利根川、大場川○大字飯島字堤通、大道、大場川○大字半割字前、裏○大字加藤字前耕地、後耕地、中道耕地○大字吉屋字上、下○大字關新田字瓦塚、大場川通、七割、沼通、堤通、堤外○大字會野谷字會ノ田、堤通、沼通○大字上笹塚字苗間道、堤通、中通、亥ノ發、江戸川通、堤外○大字中井字江戸淵、中割、沼淵、鎌沼、小松川○大字皿沼字堂沼、沼田、大場川○大字鹿見塚字前耕地、大附○大字小松川字前耕地、新道○大字中島字六丁耕地、前耕地、柳前、五反田○大字平方新田字堀殘、釜段、大沼、小沼、古堤通、古堤、明押通、龜甲島○大字深井新田字堤外中島、土腐、六軒、丸田、宿道上、亂道越、谷尻、寺前沼、淺田谷、古新田、中會根、内田、沖割、イコウ○大字ニッ沼字大場淵、川田、野會

●旭村○大字上内川字上中道、下中道、上根通、下根通、上今神、下今神、上土腐、下土腐、上道向、下中通、上中島、下中島、三王、下沼端、上沼端、沼端先、方六先、下方六、上方六、天神下、内方六、玄番、八間向鼠木、八間向○大字下内川字腰卷、内沼、大荷、大田沼、東ノ宮、小

沼向、沼内 大沼向、堤外、飛地○大字八子新田字大井堀、蛇畔、子ノ切、前沼、原沼、五斗田、蓮田、大田沼、堀向、西ノ宮、大道、堤外○大字今上字觀音越、中島、中島ノ切下○大字川邊字箕輪、三割、小沼、但馬切、五畝、内谷、上内谷、後新田、前新田、前耕地、中割、保原、川岸、榎戸○大字南廣島字下谷、前通、沼廻、小田、内谷、八間、外谷○大字拾壹軒字前新田、内谷、掛井耕地○大字鍋小路字原沼、蛇畔、堤外

●幸松村○大字八丁目字前、浦、新田、樋籠○大字小淵字前田、中島、内田、山下、西下、堤○大字不動院野字兩、四郎右衛門、茂兵衛、修理、久太郎、善兵衛、掃部、嘉右衛門東、長右衛門、嘉右衛門西、次郎右衛門○大字樋籠字樋堀、柳原、向島○大字新川字十二軒、上手、三番割、二番割○大字牛島字三本木、熊ノ木、本村、前川原、古川、上川原、神明、川島、向川島、川中子、草刈、前田○大字樋堀字前川原

●田宮村○大字大塚字小左衛門、古堀、東前、東表、西表、陣屋、前畑、裏、堤前○大字北蓮沼字照市、沼、寄合、谷田、谷中、裏、向、長張○大字才羽字南米野谷、西米野谷、東米野谷、上蓮河原、中蓮河原、下蓮河原、彌左衛門、上五反沼、中五反沼、下五反沼、下町張、中町張、上町張、堤附○大字并塚字沼田、山王、南前、南浦、北浦、土浮、町張、丸田○大字廣戸沼字神出、宮下、窪田○大字佐左衛門字辨才天、四町田、廣戸○大字遠野字大境、浮田、立野、宮野下、前田、西谷●堤郷村○大字堤根字町張、池ノ房、鷺田、荒田、大堀、廣島、前島、塘○大字本郷字隼人、板戸、東上、東中、東下、西上、西下、堤

●川邊村○大字飯沼字一番割、二番割、三番割、沼向、九尺、大名、吉岡下、中大名、中九尺、新屋敷、中野○大字赤崎字古川、川端、卷畔、大多里、沖通、中、中道○大字水角字古川、田中、

九尺、安西、稻荷、茨島、立道○大字米崎字雷電、根用水東、仲田、橋本、橋本上○大字米島字内谷津、外谷津、尾ヶ崎、中屋敷、西宮原、浮○大字中野字榎臺、宮下、本村、房田、鷺前、浚河、松道東、南臺、權現下、吉岡、宮前、下川端、向ノ内○大字新宿新田字南臺、東臺、犬塚、西之宮、大砂、愛宕

●吉田村○大字上字和田字流作○大字惣新田字菱沼

●高野村○大字下高野字江下野、淺間前、出戶、後宿、万願寺、小川、熊野面前、熊野面、道六神、箕輪、箕輪飛地、主殿新田裏、主殿新田、宮ノ下前、堂ノ下、志部、杉内、屋敷添、左内新田前、左内新田裏、大堀向道下、大堀向、大堀向飛地、新道向道下、新道向道下飛地、新道向、新道向飛地○大字大島字南浦、飛、前、前内、沼○大字下野字藥師、天神、内道、馬立、淺間○大字茨島字前丁張、裏丁張、長戸呂、東丁張、前、吉野沖、上高野慶作前、幸手三ツ家

●松伏領村○大字松伏字八反、深町、柳町、柳町土浮、土浮、沼端、外前野、内前野、沼底、外河原、小河原、田中、中新田○大字上赤岩字荒田、道下、岩岸、辻、横田、鎌田、卯繩目、川端、永宮、山王、本村、根、仲、沖○大字下赤岩字大道古川通、前通古川端、前通、裏通、屋敷付、尾島屋敷付、掛堀内、大落向、八間堀通、川邊境、中道通、廣島境、内膳堀向下、内膳堀内下、内膳堀内上、内膳堀向上、内膳堀向、掛堀中通、掛堀向、廣島通、前新田、内屋○大字田島字中田、中東、五番、橋向、道向○大字大川戸字神明、砂田、沼田、曾根田、飯訪原、宿通、茂右衛門、新川通、菱沼、築廻

●戸ヶ崎村○大字戸ヶ崎字關野谷、中、下、關戸、大道西、前川、長沼、上堤外、下堤外○大字前谷字當發、屋敷添、曲橋通下、曲橋通上、野尻、前川沼端、長沼前○大字寄卷字長沼前、狹、中、鷹野道上、半川、屋敷添、草刈場、堤外、ナメシ○大字鎌倉字屋敷添下、屋敷添上、中、御鷹野

道上、長沼前、堤外、半川○大字長沼字欠井堀内下、四間道下、四間道上、下沼、欠井堀内中、欠井堀内上、欠井堀内外、上沼、沼端○大字前川字屋敷通、東、西○大字三九字田向、中通、切荒、屋敷添○大字酒井字根通、屋敷付、前通、田向、上田向、下田向○大字境木字内、向、沖、八斗壽

●豊岡村○大字西關宿字寺ノ内、下、上、中、向河岸、富士ノ腰○大字中島字下、上、上谷○大字花島字堤内狭、井戸尻、新田、屋敷、堤外裏、本堤外裏、下谷○大字槇野地字井戸尻、出雲、新田、東山、古堤西、井堀、原耕地○大字木津内字權現前、菖蒲沼、相野谷、御料ヶ崎、香取裏、向山○大字目沼字後、前、淺間、堤外○大字宮前字登戸、前原、後原、香取前、東通、八龍神前、○大字鷺巢字堀口、前原、寺前、宮ノ腰、字道北、中原、堤外○大字木野川字湊、向臺、堤外、原、本堤外、重代

●櫻井村○大字椿字辨天、中通、椿裏、大道、神明、中島、古川○大字倉常字五ヶ村、須釜耕地、打田西、打田東、古川、流作場○大字深輪字西通椿界、前島通、東沼田、島通、清水、中通、東通、岡田、西沼内○大字芦橋字粟奴田、志多田、天神島、房沼、柳島○大字屏風字古川、中、根耕地○大字木崎字前島、樋口、花島、中谷原、中通、横手○大字細野字松道耕地、古川耕地

●豊野村○大字銚子口字沼回、水角、三反田、蒲沼、中道上、中道下、沼川、葛塚○大字赤沼字立野、堂面、沼回、香取、堤内、讚岐川戸、出口、土取場、浦道、内谷、銚子口下、水角○大字藤塚字川窪、根郷、根郷下、本宮、五ッ谷、三本木、荻原、野口、新川、下谷、谷中、水角

●寶珠花村○大字西寶珠花字町通、貝ノ内、神屋、天神前○大字西親野井字淺間下、神明下○大字塚崎字野添、狐塚、後合、貝ノ内、

○縣令第七十八號 明治三十四年九月二十七日
狩獵法施行細則左ノ通定ム

狩獵法施行細則

第一條 狩獵法又ハ狩獵法施行規則ニ依リ知事又ハ農商務大臣ヘ差出スヘキ書類ハ住所地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ但禁獵區又ハ共同狩獵地ニ關スル書類ハ其土地ノ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 狩獵免狀ヲ受ケントスル者ハ願書ニ狩獵法施行規則第二條第一項ノ事項及獵具ノ種類ヲ記載シ狩獵法第十一條ニ定ムル稅額ニ關スル町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第三條 狩獵法第十五條第一項ノ屆書ニハ免狀ノ種類、等級、番號、獵者ノ身分、氏名、職業、住所、年齡、及亡失ノ年月日事由ヲ記載スヘシ

第四條 狩獵法第十五條第二項ニ依リ狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ請求書ニ其事由ヲ記載シ書換ノ請求書ニハ狩獵免狀ヲ添付スヘシ

第五條 狩獵法施行規則第四條第一項ノ屆書ニハ狩獵免狀ヲ添付スヘシ

第六條 狩獵法施行規則第十條第十條第十三條第十四條及本則第八條ノ願書ニ添付スヘキ圖面ニハ四至ノ境界、方位、間數及地種目ヲ詳記スヘシ

第七條 土地所有者ノ出願ニ因リ禁獵區ヲ設ケタル場合ニ於テハ所有者ハ狩獵法施行規則ニ掲ケタル雛形ノ木標ヲ作り所轄警察官署ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ建設スヘシ

第八條 狩獵法第十八條又ハ第二十條ニ依リ保護鳥獸其ノ他ノ鳥獸ノ捕獲又ハ保護鳥類ノ卵若ハ雛採

狩獵法施行手續左ノ通定ム

狩獵法施行手續

- 第一條 狩獵法及狩獵法施行規則ニ依ル知事ノ職權ハ本令ニ規定アル場合ニ於テハ警察官署之ヲ行フヘシ
- 第二條 狩獵法施行規則第二條ノ願書ヲ受ケタルトキハ警察官署ハ願書ニ記載ノ事實ヲ調査シ法令ニ觸ル、所ナシト認ムルトキハ狩獵免狀ヲ下付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ事實調査ノ爲メ必要ト認ムルトキハ關係アル官署又ハ公署ニ照會スヘシ
- 第三條 狩獵法施行規則第六條ノ狩獵免狀原簿ハ第一號様式ニ依リ調製スヘシ
- 第四條 狩獵法第十五條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ狩獵免狀原簿ニ登錄シ免狀ノ種類、等級、番號、獵者ノ身分、職業、氏名、住所、年齢及亡失ノ年月日事由ヲ記載シ報告スヘシ
- 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換下付シタルトキハ再渡又ハ書換下付ノ年月日事由ヲ狩獵免狀原簿ニ登錄スヘシ
- 第五條 狩獵法施行規則第四條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ狩獵免狀原簿ニ登錄シ免狀ヲ訂正シ署長ノ官印ヲ捺シ下付スヘシ
- 狩獵免狀ヲ受ケタル者住所ヲ移轉シタル場合ニ於テ新住所地カ縣内他ノ警察官署ノ所轄ニ屬スルキトハ免狀ノ種類、等級、番號及身分、職業、氏名、住所、年齢ヲ記載シ新住所地ノ所轄警察官署ニ通報スヘシ
- 第六條 警察官署ハ狩獵法施行規則第一號様式ノ免狀統計表ヲ調製シ毎年六月三十日迄ニ報告スヘシ

狩獵法第十七條ニ依リ返納セル免狀及使用殘餘ノ免狀ハ免狀受取高及免狀原簿ニ照合シ取纏メ之ヲ截斷スヘシ

第七條 狩獵法施行規則第十條第十三條第十四條又ハ狩獵法施行規則第八條ノ願書ヲ受ケタルトキハ願書ニ記載ノ事實ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

第八條 狩獵法施行規則第九條ノ許可證ハ第二號様式ノ原簿ニ登錄シ出願人ニ下付スヘシ

第九條 警察官署ハ禁獵區ノ設置又ハ銃獵禁止ノ必要アリト認ムルトキハ其區域、期間及理由ヲ記載シ具申スヘシ禁獵區ノ廢止、變更又ハ銃獵禁止ノ解除其他狩獵法施行規則第十八條ノ處分ヲ必要トスルトキ亦同シ

第十條 鳥獸蕃殖保護ノ爲メ禁獵區ヲ設ケタル場合ニ於テハ警察官署ハ毎年九月十五日迄ニ鳥獸蕃殖ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十一條 禁獵區ニ建設セル木標又ハ銃獵禁止ノ制札毀損亡失シ其他改設若ハ修覆ヲ要スルトキハ直ニ報告スヘシ

共同狩獵地又ハ土地所有者ノ出願ニ因リ設ケタル禁獵區ノ木標毀損亡失シタルトキハ土地所有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ速ニ改設若ハ修覆ヲ爲サシムヘシ

第十二條 狩獵法施行規則第十三條ノ報告ハ一ヶ月毎ニ統計シ翌月十日迄ニ報告スヘシ

第十三條 狩獵法施行規則第三十二條及第三十三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ第三號様式ノ保護鳥獸臺帳ニ登錄スヘシ

附 則

名	稱	長	數	異	動
雌	雉		三	内二羽明治 年 月 日 住所氏名賣渡	
雄	雉		五	内一羽明治 年 月 日 日斃死	
椋	鳥		二	明治 年 月 日 日斃化	
雀	雀		四	明治 年 月 日 住所氏名ヨリ買受	

○縣令第十三號 明治三十二年二月七日
畜犬取締規則左ノ通定ム

畜犬取締規則

第一條 狩獵、娛樂、夜衛其ノ他使用ノ目的何タルヲ問ハス犬ヲ飼養スル者ハ其種類(大小ヲ含ム)毛色牝牡
出產年月ヲ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ其ノ斃死シ若クハ飼養ヲ廢止シタルトキ亦同シ
第二條 畜犬ハ所有者又ハ管理人ノ住所氏名ヲ記シタル頸環ヲ符メ若クハ牌子ヲ附置クヘシ
第三條 警察署又ハ警察分署ニ於テハ所轄内ノ畜犬臺帳ヲ備ヘ畜犬ノ種類毛色牝牡出產年月斃死又ハ
飼養廢止ノ年月日ヲ記載スヘシ

(畜犬臺帳様式)

種	類	毛	色	牝	牡	出產年月	斃又ハ飼養 廢止年月日	住所 氏名	所有者又ハ管理人 氏名

○縣令第八十一號 明治三十四年十一月十九日

營利ノ目的ヲ以テ野犬ヲ撲殺セントスル者ハ其區域及期日ヲ定メテ所轄警察官署ニ届出ヘシ
本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

明治三十二年山崎玉縣令第十二號野犬撲殺取締規則ハ之ヲ廢止ス

○縣令第三十七號 明治三十一年十月十四日

森林警察ニ關スル細則左ノ通定ム

森林警察ニ關スル細則

第一條 森林法第三十一條第一項及同法施行細則第十條第一項ニ依ル届書ニハ作業者又ハ營業者ノ住所氏名年齢及作業地又ハ營業地ヲ記載シ別記様式ニ依リ記號又ハ印章ヲ押捺シタル印鑑ニ通テ添付スヘシ

第二條 森林法施行細則第十一條第一項ニ依リ森林内ニ火入ノ許可ヲ受ケントスルトキハ火入期日十日
日前ニ左ノ事項ヲ詳記シタル書面ヲ以テ申出ヘシ

- 一 火入ノ目的(明治三十五年十二月三十日縣令第七十四號ヲ以テ以下五項改正)
- 二 火入年月日時
- 三 火入地ノ郡町村大字地番地目反別

四 隣地ノ境界及現地ノ狀況ヲ標示シタル圖面
五 防火ノ設備

前項森林開墾ノ目的ヲ以テ火入ヲ爲サントスル者ハ森林開墾許可書ヲ提示スヘシ
第三條 森林ニ接續スル原野其他ノ山野ニ火入ヲ爲サントスルトキハ火入期日十日前ニ前條各號ノ事項ヲ記載シ警察官吏ニ届出ヘシ

第四條 防火線ハ凡ソ幅三間以上柴草落葉其ノ他塵芥等ヲ刈除シ又ハ土堤若クハ溝堀等ノ設備ヲ爲スヘシ 但蘇流道路等其境界ヲ圍繞シ延燒ノ虞ナキトキハ此限ニ在ラス
第五條 日出前日没後及風勢穩カナラサルトキハ火入ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 火入ノ場合ニ於テハ相當ノ防火夫ヲ配置シ火氣消滅スルマテ警戒スヘシ
第七條 森林法施行細則第十三條及第十四條ノ規定ハ山野火入ノ場合ニ之ヲ適用ス
第八條 第三條第五條及第六條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 明治二十一年加縣令甲第二十二號山野火入取締規則ハ之ヲ廢止ス
(別記) (用紙半紙八ツ切)

明治	年	月	日	届出
印鑑	記號	住所	職業	氏名

○縣訓令第三百二十九號 明治三十一年十月十四日

警察署 警察分署

森林警察ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

森林警察ニ關スル取扱手續

第一條 警察署又ハ警察分署ニ於テ森林法第三十一條第一項及同法施行細則第十條第一項ノ届出ヲ受理シタルトキハ其印鑑一通ハ記號印鑑簿(用紙)ニ貼付保存シ一通ハ森林法施行細則第十條第二項ニ依リ所管小林區署ニ送付スヘシ 但森林法第三十一條第二項ニ依リ記載印鑑ノ使用ヲ禁止シタルトキハ其旨ヲ通知スヘシ

第二條 警察署長警察分署長又ハ駐在所巡查森林法施行細則第十一條第一項火入許可ノ申出ヲ受ケタルトキハ火入地並四至ノ狀況及防火ノ設備ヲ調査シ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ同則第十一條第二項ニ依リ許可證ヲ交付スヘシ 但駐在所巡查許可證ヲ交付シタルトキハ其申出ノ書面ヲ直ニ所屬警察署又ハ警察分署ニ送致スヘシ

前項ノ要件ヲ具備スルモ森林開墾ノ目的ヲ以テ火入ヲ爲サントスルモノナルトキハ森林開墾許可書ヲ提示シタル後ニアラサレハ火入許可證ヲ交付スルコトヲ得ス(三十五年十二月三十日縣訓令八十六號ヲ以テ二條ノ二項追加)
第三條 警察署長警察分署長又ハ駐在所巡查火入ノ申出ヲ許可シタルトキハ直ニ火入ノ年月日時火入地ノ郡町村大字地番地目反別及火入者ノ住所氏名ヲ所管小林區署(保護區官舎)ニ通報スヘシ其申出ヲ許可セザルトキ亦同シ

第四條 森林法第三十六號ノ場合ニハ直ニ所管小林區署(保護區官舎)ニ通知スヘシ

移轉先 年月日	明治 三十三年十二月一日 出生○	項 事		居 住 年月日	明治三十四年一月一日	籍 國	清國	所 住 居 前	神奈川縣橫濱市 加賀町三番地	外 國 於 所 住	清國浙江省杭州府勤縣	長 男	ヘンリー、ワット	生 年 月		職 業		僕	阿用詮	生 年 月		項 事		移轉先 年月日	明治 年 月 日
------------	------------------------	-----	--	------------	------------	-----	----	---------	-------------------	--------------	------------	-----	----------	-------	--	-----	--	---	-----	-------	--	-----	--	------------	-------------

備考
事項欄ニハ省令第五條第六條第九條ニ依リ届出若ハ通知ヲ受ケ又ハ知り得タル事項ヲ記載スヘシ
姓氏國籍變更等ノ場合ハ朱ニテ訂正スヘシ
記載事項ノ異動ヲ記入又ハ訂正シタルトキハ署長必ス認印スヘシ
(様式第二號 用紙美濃野紙)
本紙氏名ノ欄ニハ一戸中主宰者ノ氏名ヲ記載スヘシ

外國人登録簿索引

索引番號	氏 名	索引番號	氏 名

○縣告示第百二十四號 明治三十二年七月十六日
明治三十二年比内務省令第三十二號外國人居住移轉其他ノ様式左ノ通定ム
(様式第一號) (用紙半紙)

居 住 届
明治 年 月 日
警察 署御中
届 出 人
連 署 人

(様式第二號) (用紙半紙半切)

備考							居住年月日	明治	年	月	日	居住所 (「郡町村大字番地」下記入スヘシ)
							氏名	前居住所	外國ニ於ケル居住所	職業	生年月	
							月年					
							月年					
							月年					
							月年					
							月年					
							月年					

(様式第三號) (用紙半紙半切)

移轉届		明治		年		月		日		警察署御中		郡		村町		届出人	
移轉年月日	移地	移轉者氏名	明治	年	月	日											
明治三十三年七月七日	(「府縣郡市町村番地(全戸)」下記入スヘシ)		明治	年	月	日											
明治			明治	年	月	日											
明治			明治	年	月	日											
明治			明治	年	月	日											

(國籍)變更届

明治 年 月 日

警察署御中

郡 村町

届出人

有ニ係ル物件ハ所有者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第八條 變死者ノ遺書ノ類ハ之ヲ領置シ檢視調書ニ添置クヘシ若シ親族ニ於テ下付ヲ請フ者アルトキハ謄本ヲ添置ヘシ

第九條 檢視官ハ立會醫師ヲシテ死體創傷ノ形狀致命成傷ノ原因及經過ヲ詳記シタル檢案書ヲ出サシムヘシ

立會醫師ノ檢案ニシテ死傷ノ原因ヲ詳ニスルヲ得サルトキハ他ノ醫師若クハ藥劑師產婆其他ノ技術者ヲシテ檢案セシムルコトヲ得

第十條 死傷ノ狀況及家族雇人其他發見人ノ舉動ニ因リ死傷ノ原因ニ疑アルトキハ速ニ搜查手續ヲ爲スヘシ

第十一條 檢視ニ關スル書類ハ每葉契印シ又文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除ヲ要スルトキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載スヘシ

第十二條 檢視済ノ死體ハ親族其他引取人ニ引渡シ引取證ヲ徴スヘシ若シ住所氏名詳ナラス又ハ引取人ナキ死體ハ之ヲ町村役場ニ引渡スヘシ

第十三條 變死傷ノ檢視ヲ爲シタルトキハ速ニ變死傷者ノ住所族籍職業氏名年齢及死傷ノ原因ヲ報告スヘシ

附録第一號

檢視調書

明治何年何月何日何郡何町村大字何何ニ於テ縊死(又ハ溺死)人アル旨巡查何某ノ報告ニ因リ(何何ノ原因ニ因リ溺死者アルコトヲ認知シ)直ニ現場ニ出張醫師何某ノ立會ヲ以テ檢視ヲ爲スコト左ノ如シ

一 縊死人ハ何縣何郡何町村大字何何番地族籍職業何某何年何月何日生

一 縊死ノ場所ハ何郡何町村大字何何山林中ニ於テ云云現場ノ模様ヲ詳記ス

一 死體ノ形狀ハ云云何何ノ創傷ハ何品ヲ以テ何何シタルモノト認ム云云

一 現場ニ存在セル左ノ物件ハ參考ノ爲メ所有者某ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シタリ

一 何何

一 何何

右何品ハ何何セシモノニシテ何何ノ痕跡アリ

一 縊死人ハ遺書一通及何某ニ宛タル信書一通ヲ懷ニセリ其要領ハ云云親族何某ノ請ニ因リ謄寫ノ上本書ハ之ヲ下付シタリ

一 戶主何某發見人何某ノ陳述ヲ聞クニ別紙始末書ノ如ク申立タリ

一 立會醫師ハ別紙檢案書ヲ差出タリ

右ノ狀況ニ依レハ家計困難ニ迫リ又ハ何何ノ事情ノ爲メ云云自死ヲ謀リタルモノト認ム

年 月 日

官 氏 名 印

同第二號

始末書

何某溺死ノ事實(又ハ發見ノ手續)御尋ニ付左ニ申上候

一 明治何年何月何日何時頃何某ハ何何セシト覺エシカ其所在ヲ失ヒ云云何處ニ於テ何何シアルヲ發覺セリ云云

一 云云

右ノ通相違無之候也

何那何町村大字何何番地族籍職業

年月日

何 某 印

同第三號 官氏名宛

聽取書

住所族籍氏名ハ何某ノ死體發見ニ付左ノ陳述ヲナシタリ

一 明治何年何月何日何時頃何何ノ爲メ何處ニ至リタルニ何某ハ何處ニ於テ何何シアルヲ發見セリ
云云

一 自分ハ文字ヲ書スルコト能ハス

右陳述ヲ錄取シ讀聞セタル處相違ナキ旨申立ツルニ付本官其氏名ヲ代書シ自ラ捺印セシム
年 月 日 官 氏 名 印
何 某 印

○縣令第七十三號 明治三十三年十二月二十五日

精神病者監護法施行細則左ノ通定ム

精神病者監護法施行細則

第一條 精神病者監護法第三條ニ依リ精神病者ヲ監置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ願出又ハ届出

ヘシ精神病者監護法第四條ノ届出ヲ爲シ及第八條第四項末段ノ許可ヲ受ケントスルトキ亦同シ但監置ノ場所他府縣内ナルトキハ其監置ノ場所ヲ管轄スル府縣廳ニ願出又ハ届出ヲ爲スヘシ

一 醫師ノ診斷書

二 監置ノ方法及場所

三 精神病者ノ戶籍謄本

四 民法第九百二十二條ニ依リ禁治産者ヲ監置スル場合ニ於テハ禁治産ノ決定書謄本

五 私宅監置室ヲ設ケタルトキハ監置室ノ構造設備及其ノ圖面

精神病者監護法第四條及第八條第四項ノ場合ニ於テ監置ノ場所ヲ他府縣内ニ移轉スルトキハ前後監置ノ場所ヲ管轄スル府縣廳ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但精神病者監護法第八條第四項ノ場合ニ於テハ後ノ府縣廳ノ許可ヲ受ケ前ノ府縣廳ニ届出ヲナスヘシ

第二條 警察官署ハ精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ニ報告スヘシ精神病者監護法第八條第一項第二項ノ場合ニ於テモ亦同シ但急迫ノ事情アルトキハ明治三十三年勅令第二百八十二號第二條但書ニ依ルヘシ

第三條 町村長ハ明治三十三年勅令第二百八十二號第一條第一項及第三條第二項ノ場合ニ於テハ本則第一條第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請シ又ハ報告ヲ爲スヘシ

第四條 警察官署ニ於テ精神病者監護法施行規則第四條第一項ニ依リ精神病者ノ監置ヲ許可シ又ハ明治三十三年勅令第二百八十二號第一條第二項ニ依リ町村長ノ精神病者監置ニ關シ同意ヲ表示シタルトキハ其事由ヲ具シ縣廳ニ報告スヘシ

第五條 警察官署ニ於テハ別記様式ノ精神病者名簿ヲ備ヘ精神病者監置ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

右之通相違無之候也

何郡何町

戸長某印

年月日午前
後時

住所身分職業

氏名

右之者原籍前科取調之上常役場ヨリ直ニ某裁判所檢事へ送致候様囑託ノ旨
領諾候也

年月日午前
後時

巡查氏名殿

某町聯合戸長役場

式書號二第

○縣令第三十三號 明治三十二年六月二十三日

埼玉縣違警罪左ノ通定ム

明治二十四年縣令甲第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

埼玉縣違警罪

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 御獵場ニ於テ狩獵法第一條規定外ノ方法ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲シタル者
- 二 危險又ハ健康ニ有害ナル物件ヲ用ヒテ捕鳥若クハ漁魚シタル者
- 三 飲用水ニ障礙ヲ爲シタル者
- 四 堤塘樋管其他ノ物件ヲ毀壞若ハ撤去シ治水又ハ水利ノ障害ヲ爲シタル者
- 五 水路ニ舟筏其他ノ物件ヲ繫留シ航通ノ妨害ヲ爲シタル者
- 六 築寶園等ヲ設ケ河川溝渠ノ疎通ヲ妨害爲シタル者
- 七 官設若ハ官許ノ測量標識及附屬物件ニ舟筏其他ノ物件ヲ繫留シ又ハ支持ニ供シ若ハ汚穢、貼紙、惡戯等ヲ爲シタル者
- 八 官設若ハ官許ノ測量標識及附屬物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者
- 九 官許ヲ得ス畑園堤又ハ搔上堤ヲ新設若ハ増築シタル者
- 十 勞働者他人ノ稼業ニ妨害ヲ爲シタル者
- 十一 人ニ汚穢物ヲ抛澆シタル者
- 十二 正當ノ事由ナク官署公署ノ召喚ニ應セサル者
- 十三 官署ニ對シ不實ノ申告ヲ爲シタル者
- 十四 族籍氏名ヲ詐稱シ客店等ニ止宿シタル者
- 十五 強テ合力ヲ請ヒ又ハ物品ヲ強賣スル者
- 十六 神祠佛堂建築修繕等ニ托シ出費ヲ強請スル者
- 十七 鳥獸ヲ圍ハンメタル者(三十五年二月埼玉縣令第十三號ヲ以テ追加)
- 十八 鐘鼓、喇叭其他ノ音響器具ヲ用ヒテ多衆集合其他ノ信號又ハ篝火、松明、旗幟ノ類ヲ用ヒテ

示勢運動ノ標章ニ供シ若ハ供セシムル等不穩ノ行爲ヲ爲シタル者(三十五年六月二十日 縣令第四十七號追加)
十九 濫リニ公有ノ水面ニ鳥類ヲ放養シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

○訓令第百一號 明治二十三年十二月四日

警察署 警察分署

違警罪即決手續左ノ通定ム 但明治十八年廿警甲第二十七號違警罪即決處分心得ハ廢止ス

第一條 巡查違警罪ヲ犯シタルモノヲ認メタルトキハ其住所本籍氏名年齢身分職業(若シ軍人軍屬ナレバ)

ヲ問ヒ且ツ其違警罪犯タルコトヲ告ケ之ヲ放還シ第一號書式ニ依リ警察署又ハ分署ニ告發スヘシ若シ住所氏名分明ナラス又ハ逃亡ノ恐れアルトキハ直ニ引致告發スヘシ

第二條 警察署又ハ分署ニ於テハ告訴告發ヲ受ケ其事件告訴告發書ニテ明確ナルカ又ハ證據充分ト認ムルトキハ被告人ヲ呼出スコトナク直ニ其言渡ヲ爲スヘシ

又訊問ヲ必要ト思料シ被告人ヲ呼出シ若クハ引致シタル場合ト雖モ別ニ調書ヲ作ルニ及ハス其陳述ノ要領ヲ告訴告發書ノ餘白ニ附記スヘシ

第三條 被告人ヲ呼出スニハ第三號書式ノ呼出狀ヲ發スヘシ若シ被告人在營ノ軍人軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官ニ照會シテ出頭セシムヘシ

第四條 言渡書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ作り左ノ件ヲ併セテ言渡スヘシ

一 科料ノ言渡ヲ受ケタルモノニ對シテハ期限内ニ科料ヲ完納セザルトキハ拘留ニ換ユルコト

一 拘留ノ言渡ヲ受ケタルモノニ對シテハ其言渡確定ノ後ハ直チニ出頭シテ執行ヲ受クヘキコト

一 必要ト認ムルモノニ對シテハ假納金又ハ保證金ヲ差出スヘキコト若シ差出サザルトキハ留置ス

三十三年十一月二十七日
訓令第百十四號
以テ改正

ヘキコト

第五條 缺席ノ儘言渡ヲ爲シタルトキハ言渡書原本ニ依リ正本ヲ作り送達書ヲ付シ巡查ヲシテ送達セシムヘシ若シ假納金又ハ保證金ヲ必要ト認ムル場合ハ同時ニ其領收證ヲ帶行セシメ之ト引換ニ該金ヲ徵收セシムヘシ 但言渡書ノ送達ハ便宜仕丁ヲ用フルモ妨ケナシ若シ被告人在營ノ軍人軍屬ナルトキハ言渡書ノ送達及其執行ヲ所屬長官ニ囑託スヘシ

第六條 被告事件管轄違ナルトキハ一件書類ヲ管轄警察署分署ニ送致スヘシ(二十六年訓令第三百五十一號ヲ以テ改正)

第七條 左ノ場合ニ於テハ直チニ引致シ別ニ命令書ヲ用ヒス前ニ爲シタル言渡書ニ依リ其執行ヲ爲スヘシ
一 科料ノ言渡ヲ受ケタル者確定後十日内ニ完納セザルトキ

一 拘留ノ言渡ヲ受ケタル者確定後直チニ出頭シテ執行ヲ受ケザルトキ

一 假納金又ハ保證金ヲ差出スヘキ旨言渡ヲ受ケ之ヲ差出サザルトキ

第八條 被告事件無罪免訴又ハ棄却スヘキモノト認ムルトキハ口頭ニテ其旨ヲ言渡シ告發書又ハ告訴狀ノ餘白ニ其理由ヲ附記シ主任者之ニ認印スヘシ

第九條 正式ノ裁判ヲ請求シタルトキハ第四號書式ニ依リ違警罪即決例第六條ニ依リ一切ノ書類ヲ管轄區裁判所警察官ニ交付スヘシ

第十條 警察署又ハ分署ニ於テ即決處分ヲ爲シタルトキハ直ニ第五號書式ノ違警罪登記簿ニ登記スヘシ

第一號書式

告 發 書

住所身分職業

氏名

年齢

右之者明治何年何月何日午^前後何時^出巡^回ノ途次何郡(市)町村ニ於テ何何スルヲ撞^見セリ右所爲ハ刑
法(第何條何項)(本縣違警罪第何項)ニ該當スル付(何規則第何條ヲ犯シタルモノニ付)及告發候也

何警察署(分署)在勤

年月日

官氏名印

何警察署(分署)長

官氏名殿

右告發書ニテ犯罪ノ證據充分ト認め左(別紙)ノ通り言渡ヲ爲シタリ

又ハ

右告發書ニ依リ何月何日被告人ヲ取調ヘタル處何何云ト申立犯罪ノ事實及證據明確ニ付左(別紙)
ノ通言渡ヲ爲シタリ

第二號書式(三十三年十一月二十七日縣
訓令第四百十四號ヲ以テ改正)

即決言渡

明治何年何月何日午^前後何時何郡(市)町村ニ於テ何何ヲ爲シタルハ(刑法第何條何項縣違警罪第何項
ニ該當スル)(何規則第四條ヲ犯シタル者)ニ付料(拘留)何本程ニ處スルモノ也(加重減輕ノ場合
ハ必ス其事由ヲ詳記スヘシ)

假納金ヲ要セ
サルトキノ例
但此言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ルハ三日(書類ノ送達アリタルヨリ
五日)内ニ限ル若シ言渡確定後十日内ニ料料ヲ完納セサルトキハ拘留何日ニ換ユヘ
シ

但此言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ルハ三日(書類ノ送達アリタルヨリ
五日)内ニ限ル言渡確定ノ上ハ直チニ出頭シテ執行ヲ受クヘシ
但必要ト認めルニ付(料料ヲ即時假納スヘシ若シ納メサルトキ)保證金何程差出ス
ヘシ若シ差出ササルトキハ何日間(對席ノトキハ三日、缺席ノトキハ五日、又刑期
以上ノ金額ヲ
要スルトキノ
例)

此言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ルハ三日(書類ノ送達アリタルヨリ五
日)内ニ限ル

年
月
日
印

何警察署(分署)ニ於テ

署長(代理)官氏名印

第三號書式(用紙郵便はがき)

面表

何縣何國郡町村番地
身分職業
氏名

○縣訓令第十一號 明治三十一年二月四日

囚人及刑事被告人押送心得左ノ通定ム

囚人及刑事被告人押送心得

警察署 警察分署

六六〇

第一條 警察署又ハ警察分署ニ於テ囚人又ハ刑事被告人ヲ押送スルトキハ囚人及刑事被告人押送細則

第一條ニ依リ押送狀並ニ送致金品目錄ヲ作り發送ニ關スル事項ヲ押送帳簿ニ記載シテ發送スヘシ
但直接押送ノ場合ニ於テハ時宜ニ依リ押送狀ヲ作ラサルコトヲ得

第二條 警察署又ハ警察分署ニ於テ被押送者ノ遞傳送付ヲ受ケタルトキハ押送狀並ニ送致金品目錄ニ
照査シテ受領證ヲ交付シ押送帳簿ニ記載シタル後直ニ押送スヘシ

第三條 遞傳押送ハ沿道最近ノ警察署又ハ警察分署ニ遞次送付スルモノトス 但汽車ノ便アル沿道ハ
此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ管外ニ涉ルトキハ沿道最近ノ管外警察署又ハ警察分署ニ送付スヘシ

第四條 押送警察官吏ハ一人ニ付被押送者五人ヲ超エルコトヲ得ス若シ逃走又ハ暴行其ノ他劫奪等ノ
虞アルトキハ特ニ押送警察官吏ヲ増加シ警戒ヲ嚴ニスヘシ

第五條 共犯ノ刑事被告人ハ各別ニ押送シ宿泊セシムルトキハ各別房ニ留置スヘシ若シ止ムヲ得ス同
時ニ押送シ又ハ一房ニ留置スルトキハ戒護ヲ嚴ニシ通謀等ノ弊ナカラシムヘシ

第六條 囚人及刑事被告人押送規則第七條ニ依リ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ許シタルトキハ
保管金ノ支出ヲ送致金品目錄ニ記入シ本人ノ證認書ハ該目錄ニ添ヘ送付スヘシ若シ本人自書スルコ
ト能ハサルトキハ正當領收證ヲ徵シ本人ヲシテ之ニ證印セシメ證認書ニ代フルモノトス

第七條 押送ハ左ノ場合ニ於テハ車馬ヲ用フルコトヲ得

- 一 押送急速ヲ要スルトキ
 - 二 逃走又ハ暴行其ノ他劫奪等ノ虞アルトキ
 - 三 被押送者老衰虛弱等ニシテ歩行ニ堪ヘ難キトキ
- 第八條 押送途中ハ左ノ規定ニ依リ取扱フヘシ
- 一 押送警察官吏ハ被押送者ヲ先ニ立テ後ヨリ之ヲ警護スヘシ 但車馬ヲ用フルトキハ其ノ左傍ニ
附添フヘシ
 - 二 瀛車押送ノトキハ成ルヘク他ノ乗客ト分界ヲ立ツヘシ
 - 三 押送警察官吏ハ被押送者ト雜談等ヲ爲スコトヲ禁ス
 - 四 被押送者ニ對スル接見又ハ贈與其ノ他物品ノ購求等ハ之ヲ禁止スヘシ
 - 五 押送途中ハ濫リニ休憩セシムヘカラス飲食使用等成ルヘク一定ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ
 - 六 道路ハ本線ヲ選ミ山間徑路等逃走ヲ容易ニスヘキ地ヲ通行セシムヘカラス
 - 七 市街ヲ押送スルトキハ成ルヘク衆人雜沓ノ場所ヲ避クヘシ

第九條 押送中 被押送者發病シ又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ押送ヲ遲延スルトキハ其ノ旨ヲ最後ニ送付ヲ
受クヘキ官署ニ通報スヘシ

第十條 囚人及刑事被告人押送規則同細則及此心得ハ懲治人及別房留置人ノ押送ニ之ヲ準用ス

○警甲第十號 明治十四年十二月

警察署所屬拘留所ヲ留置場ト改稱シ自今巡查ヲシテ看守致サスヘク此旨相違候事

傳染病豫防法令施行細則

第一條 郡長警察署長又ハ分署長ハ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル
八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病又ハ傳染病ノ疑似症發生シタルトキハ速
ニ其性狀ヲ記シテ知事ニ申報スヘシ

郡長警察署長又ハ分署長ハ前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得
第二條 傳染病豫防法第三條醫師ノ届出ハ第一號乃至第三號様式ニ依ルヘシ

警察官吏町村長検査委員又ハ豫防委員ハ前項ノ届出ヲ受ケ傳染病豫防法施行規則第二條第三條及此
細則第三條ニ依リ豫防委員ヨリ町村長ニ町村長ヨリ郡役所ニ報告シ又ハ警察官吏検査委員ヨリ警察
署長分署長ニ報告シ及郡長警察署長又ハ分署長ヨリ縣廳ニ報告スルトキハ其届書ニ受領ノ年月日時
及官職氏名ヲ記シテ送致スヘシ

前項ノ外傳染病豫防法施行規則第二條第三條及此細則第四條ノ報告若クハ通報ハ第四號乃至第六號
様式ニ依ルヘシ

第三條 警察官吏町村長検査委員又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ六時間
以内ニ同法施行規則第二條又ハ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ 但警察官吏又ハ検査委員ハ六時間以内ニ
警察署長又ハ分署長ニ報告スヘシ

第四條 警察官吏又ハ検査委員ハ傳染病豫防法施行規則第二條ノ通報ヲ受ケタルトキハ六時間以内ニ
警察署長又ハ分署長ニ報告シ町村長又ハ豫防委員同規則第三條ノ通報ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ
六時間以内ニ町村長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

第五條 警察官吏又ハ検査委員ハ傳染病豫防法第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルト

キハ醫師ヲシテ診斷若クハ検査セシメ傳染病ナルトキハ六時間以内ニ同法施行規則第三條及此細則
第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 警察官吏又ハ検査委員ハ傳染病豫防法施行規則第三條ニ依リ傳染病ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病
アルコトヲ知リタルトキハ同則第四條及第六條ニ依リ直ニ交通ヲ遮斷シ町村長又ハ豫防委員ヲ指示
シテ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ

第七條 町村長又ハ豫防委員ハ左ニ該當スル者ハ傳染病豫防法第七條及同施行規則第五條ニ依リ傳染
病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ 但患者危篤ニシテ途中死亡ノ處アルモノハ此限ニ在ラス(三十二年七月
縣令第四十號ヲ以テ
但書中三十一字削除)

- 一 家族ノ居間ト隔離シ治療スヘキ室ナキモノ
- 二 専ラ看護ニ従事スヘキ人ナキモノ
- 三 主治醫ナキモノ
- 四 患者ニ専用スヘキ家具什器ヲ有セサルモノ
- 五 其他傳染病ノ虞アリト認ムルモノ(三十二年七月縣令第
四十號ヲ以テ改正)

第八條 傳染病患者ヲ自宅療養セシムルトキハ警察官吏町村長検査委員又ハ豫防委員ハ家人ニ指示シ
テ左ノ事項ヲ施行セシムヘシ

- 一 病室ニハ看護人ノ外成ナルヘク入ラシメサルコト
- 二 病室内ニ於テハ患者ノ外飲食セシメサルコト
- 三 患者ニ供セシ飲食物ハ消毒方法ヲ行ヒ一定ノ場所ニ投棄セシムルコト
- 四 患者ノ器具ハ使用ノ都度消毒方法ヲ行フコト

五 患者ノ吐瀉物ハ滲透セサル器物ニ受ケ其都度消毒方法ヲ行フコト

六 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染シタル物品ニハ蚊蠅ノ點集セサル様注意セシムルコト

七 病室内ノ塵芥ハ覆蓋アル器物ニ溜置キ一定ノ場所ニ於テ焼却セシムルコト

八 患者ノ沐浴シタル湯水及汚物ヲ洗滌シタル汚水ハ消毒方法ヲ行ヒ一定ノ地ニ投棄セシムルコト

第九條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ交通ヲ遮斷シタルトキハ町村長又ハ豫防委員ヲシテ其事務ニ從事セシムヘシ

第十條 警察官吏町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法施行規則第七條ニ依リ傳染病患者及其死體ヲ他ニ移轉スルコトヲ認可シタルトキハ町村長ハ郡役所ニ報告シ郡長警察署長又ハ分署長ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

第十一條 警察官吏町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法施行規則第七條但書ノ通報ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ警察官吏又ハ檢疫委員ハ警察署長又ハ分署長ニ報告スヘシ

此他前條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 傳染病豫防法第十三條ノ場合ニ於テハ左ノ規程ニ依ルヘシ

一 死體ヲ既ニ埋葬シタルトキハ町村長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第五條ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ且墓地ノ周圍一尺以上棺ノ深サニ達スルマテ石灰ヲ埋ムヘシ

二 前項ノ場合ニ於テハ警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ交通ヲ遮斷スヘシ

三 死體ヲ未タ埋葬セサルトキハ傳染病豫防法施行規則第二條第二項第三條及此細則第五條ノ規定ヲ準用ス

三十二年七月
縣令第四十號
ヲ以テ改正

本條第一ニ關シテハ傳染病豫防法施行規則第四條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

一 町村ノ醫師ヲシテ患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト

二 井戸下水溝渠ノ浚渫ヲ命シ又ハ其使用ヲ停止スルコト

三 一定ノ場所ノ游泳又ハ其水ヲ飲料若ハ物ヲ洗滌ニ供用スルコトヲ停止スルコト

第十四條 傳染病豫防法第十六條ニ依リ町村内ノ清潔方法及消毒方法ノ施行ヲ命シタルトキハ同法施行規則第四條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 町村ハ消毒器具藥品其他駕籠釣臺等ヲ設備スヘシ

傳染病流行シ若クハ流行ノ虞アルトキハ醫師看護人消毒夫運搬夫ヲ雇入レ消毒藥ヲ充備シ豫防上必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第十六條 傳染病豫防法第十七條ノ傳染病院隔離病舎隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 傳染病院隔離病舎隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘキ町村ハ別ニ之ヲ指定ス

第十八條 郡長警察署長又ハ分署長ハ傳染病豫防法第十六條ニ依リ清潔方法及消毒方法ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ及同法第十九條第二乃至第八ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ必要ト認ムルトキハ其狀況ヲ記シテ知事ニ申報スヘシ

第十九條 此細則ニ依リ當該吏員ノ指示シタル事項ヲ履行セサル者ハ傳染病豫防法第二十九條ニ依リ處罰セラルルモノトス

附 則

警 察

月發病日ノ	地發病名ノ	月死時亡	月檢日案	醫師	備考
明治 年 月 日 午前何時					
官職 氏 名 印					

第六號様式 (用紙半紙半截)

傳染病患者轉歸報告(通報)

月發病日ノ	病名	患者住所 年業住患 氏所者 齡名職ノ	醫師	備考	明治 年 月 日 午前何時	官職 氏 名 印

○縣訓令第八十一號 明治三十年六月三十日

郡役所 警察署
警察分署 町村役場

傳染病豫防法令施行心得左ノ通定ム

傳染病豫防法令施行心得

- 第一條 郡役所警察署分署町村役場及巡查駐在所ニ於テハ様式ノ傳染病患者名簿ヲ調製シ傳染病豫防法第三條同法施行規則第二條第三條及傳染病豫防法施行細則第三條第四條ノ届出通報若クハ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ記載スヘシ
 - 第二條 傳染病豫防法第十四條ノ證票ハ同法施行規則第九條ノ様式(厚紙ヲ用フ)ニ依リ郡役所警察署分署又ハ町村役場ニ於テ之ヲ調製スヘシ
 - 第三條 警察官吏傳染病豫防法第八條ニ依リ同法施行規則第六條ノ日時間交通ヲ遮斷セントスルトキハ警察署長又ハ分署長ニ報告スヘシ
 - 第四條 警察官吏町村長檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法施行規則第七條第一第二ノ事項ヲ認可セントスルトキハ互ニ協議ヲ爲スコトヲ要ス 但警察官吏ハ警察署長又ハ分署長ノ指揮ヲ受クヘシ
 - 第五條 警察署長又ハ分署長ハ傳染病豫防法施行規則第六條ニ掲クル傳染病患者ノ死體ハ土葬ヲ許可スヘカラス
- 前項ノ外傳染病患者ノ死體ハ左ノ事項ヲ履行セシムルトキニ限り土葬ヲ許可スルコトヲ得
- 一 塋穴ノ深サ十尺以上ヲ要スルコト
 - 二 棺ノ周圍一尺以上石灰ヲ埋ムルコト

第一條 豫防委員ノ組織及其選任ハ傳染病豫防法第十五條及町村制第六十五條ニ依ル
但醫師ヨリ出ツル委員ヲ加ヘテ二名以上四名以下トス

第二條 豫防委員ハ町村長ヲ補助シテ傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ擔任ス

第三條 豫防委員ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 傳染病豫防方法施行ニ關スルコト
 - 二 傳染病豫防費用ニ關スルコト
 - 三 傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所ノ設備及管理ニ關スルコト
 - 四 消毒器具及藥品ノ設備ニ關スルコト
 - 五 清潔方法消毒方法施行ニ關スルコト
 - 六 傳染病貧民患者救療ニ關スルコト
 - 七 傳染病患者ノ死體埋葬 火葬モニ關スルコト
 - 八 種痘ニ關スルコト
- 第四條 町村長ハ町村内ニ豫防委員事務所ヲ置クコトヲ得

○縣令第二十八號 明治三十二年四月十四日
清潔方法施行規則左ノ通定ム

清潔方法施行規則

第一條 町村又ハ私人ハ此規則ニ依リ清潔方法ヲ施行シ町村内又ハ邸宅内ノ清潔ヲ保持スヘシ
清潔方法施行ノ時期及其區域ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條 町村内公共ノ建物井戸下水便所其他ノ清潔方法ハ町村ニ於テ之ヲ施行シ邸宅内及附屬井戸下水便所芥溜ノ清潔方法ハ土地建物ノ所有者ニ於テ之ヲ施行スヘシ
他人ニ於テ土地建物ヲ賃借若ハ管理スル場合ニ於テハ前項ノ清潔方法ハ賃借人又ハ管理者ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第三條 清潔方法ハ明治三十年內務省令第十三號清潔方法第一條乃至第四條及左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 邸宅内
 - 宅地内及家屋ノ内外床下ヲ掃除シ熾敷物寢具等ハ成ルヘク日光ニ乾スヘシ 但必要ナルトキハ床板ヲ撤シ充分掃除スヘシ
 - 二 便所、下水溜、臺所流
 - 糞便又ハ汚水ヲ汲取リ其周圍ヲ掃除スヘシ
 - 三 下水、井戸流
 - 下水及井戸流ハ浚渫掃除シ汚水ヲ停滯セシムヘカラス
 - 四 芥溜
 - 塵芥汚物ヲ掃除シ一定無害ノ場所ニ投棄スヘシ
 - 五 井戸
 - 井戸側及其近傍ヲ掃除シ必要ナルトキハ井戸側ノ改造修理若ハ井戸浚ヲ爲スヘシ

第四條 町村長ハ第一條第二項ノ指定ニ依リ清潔方法施行ノ期日ヲ定メ第二條ニ掲クル者ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ
檢疫委員又ハ警察官吏ハ前項ノ清潔方法ヲ指示監督スヘシ

第五條 清潔方法施行ノ後ト雖モ其清潔ヲ保持スル爲メ時々掃除ヲ爲スヘシ
 當該吏員ハ清潔ヲ保持スル爲メ必要ト認ムルトキハ指定ノ時期ニ拘ラス一定ノ場所ノ清潔方法ヲ施行セシムルコトヲ得

附 則

第六條 明治三十年(七月)縣令第三十七號清潔方法施行細則ハ之ヲ廢止ス

○縣訓令第一百號 明治三十年八月二十日

郡役所 檢疫委員事務所
 警察署 警察分署
 町村役場

藥物消毒ニ用ユル消毒藥ノ製法ハ本年(五月)内務省令第十三號第二章消毒方法ニ規定有之候處其製造ニ當リ溶解分量ヲ誤リ藥效ヲ失ハシムルモノ間間有之ニ付左ノ溶解分量表ニ依リ製造シ其量ヲ誤ラサル様指示スヘシ

石灰乳(十倍)		生石灰		水		九一分	
全	量	常	水	量	石	灰	量
一	合			九勺			四勺八分
二	合			一合八勺			九勺六分

石炭酸(二十倍)		石炭酸		五九四分		鹽酸		一分	
全	量	常	水	鹽	酸	石	炭	酸	量
一	合		九勺四才		四分八厘				二勺四分
二	合		一合八勺八才		九分六厘				四勺八分
三	合		二合八勺二才		一勺四分四厘				七勺二分
四	合			三合六勺					十九勺二分
五	合			四合四勺					二十四勺
六	合			五合四勺					二十八勺八分
七	合			六合三勺					三十三勺六分
八	合			七合二勺					三十八勺四分
九	合			八合二勺					四十三勺二分
一	升			九合					四十八勺
三	合			二合七勺					十四勺四分
四	合			三合六勺					十九勺二分
五	合			四合四勺					二十四勺
六	合			五合四勺					二十八勺八分
七	合			六合三勺					三十三勺六分
八	合			七合二勺					三十八勺四分
九	合			八合二勺					四十三勺二分
一	升			九合					四十八勺

昇	乘	(千倍)	昇	乘	(千倍)	昇	乘	(千倍)
四	合	三合七勺六才	一	勺	九分二厘	四	合	九分六分
五	合	四合七勺	二	勺	二分四分	五	合	十二分
六	合	五合六勺四才	三	勺	二分八分八厘	六	合	十四分四分
七	合	六合五勺八才	四	勺	三分三分六厘	七	合	十六分八分
八	合	七合五勺二才	五	勺	三分八分四厘	八	合	十九分二分
九	合	八合四勺六才	六	勺	四分三分二厘	九	合	二十一分六分
一	升	九合四勺	七	勺	四分八厘	一	升	二十四分
全	量	常	水	鹽	酸	昇	乘	
一	合	九勺八才九撮	一	勺	四分八厘	一	合	四厘八毛
二	合	一合九勺七才八撮	二	勺	九分六厘	二	合	九厘六毛
三	合	二合九勺六才七撮	三	勺	一分四分四厘	三	合	一分四厘四毛
四	合	三合九勺五才六撮	四	勺	一分五分二厘	四	合	一分九厘二毛

五	合	四合九勺四才五撮	二	勺	二分四分	二	分	四分
六	合	五合九勺三才七撮	三	勺	二分八分八厘	三	分	八厘八毛
七	合	六合九勺二才三撮	四	勺	三分三分六厘	四	分	三分三厘六毛
八	合	七合九勺一才二撮	五	勺	三分八分四厘	五	分	三分八厘四毛
九	合	八合九勺一才	六	勺	四分三分三厘	六	分	四分三厘三毛
一	升	九合八勺九才	七	勺	四分八分	七	分	四分八厘

(備考)

一 本表ハ水一升ヲ四百八十匁トシテ算出セシモノナリ
 一 本表以外ノ量ヲ造ルニハ本表ニ照シ一位ヲ進ムヘシ縦合ハ五升ヲ要セントスルニハ五合ノ欄ニ對照シ二位ヲ進メテ石炭酸水ナレハ常水四升七合鹽酸二十四匁石炭酸百二十匁トスルカ如シ

○縣訓令第七十七號 明治二十八年八月二十七日

警察部 臨時檢疫部
 警察署 警察分署
 檢疫所

郵便電信局ニ於テ傳染病ノ爲メ交通遮斷ノ家宅ニ郵便物及電報ヲ配達セントスルトキ出張ノ警察官若クハ檢疫官ニ其交付ヲ依託シタルトキハ職務執行上差支ナキ限リハ其依託ニ應スヘシ

○縣令第三十六號 明治三十年六月三十日
衛生組合規則左ノ通定ム

衛生組合規則

第一條 清潔方法消毒方法其他傳染病豫防救治ニ關シ協同施行スル爲メ町村内ヲ區畫シテ衛生組合ヲ設クヘシ

衛生組合ノ區域ハ町村内ノ區若クハ大小字ノ區域ニ依リ町村長之ヲ指定ス

第二條 衛生組合ニ組長一人及組長代理者一人又ハ數人ヲ置クヘシ(三十年縣令第四十號ヲ以テ改正)

第三條 衛生組長ノ擔任スル事務左ノ如シ

一 組合ヲ代表シ規約履行ノ責ニ任スルコト

二 組合共有財産ヲ管理スルコト

三 組合費用ノ收支ニ關スルコト

四 警察官吏郡吏員町村長又ハ檢疫委員ノ指示ニ從ヒ清潔方法消毒方法施行ニ從事スルコト

五 其他組合規約ニ定ムル事項

第四條 衛生組合ハ左ノ標準ニ依リ規約ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受ケ之ヲ履行スヘシ

一 邸宅内便所竝ニ井戸上水下水芥溜溝渠ノ掃除浚渫方法ヲ設クルコト

二 傳染病流行ノ兆アルトキハ各自豫防衛生ヲ格守セシムルコト

三 傳染病又ハ其疑アル患者アルトキハ互ニ注意シ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシムルコト

四 組合ニ於テ清潔方法消毒方法ノ施行ヲ命セラレタルモノアルトキ共同施行スルノ方法ヲ設クルコト

○縣令第二十九號 明治三十一年七月八日
明治十八年甲第八十九號布達種痘細則左ノ通改正ス

第七條 明治十九年十二月縣令甲第五十號町村衛生組合規則ハ廢止ス

第六條 組長及代理者ノ姓名ハ郡役所警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

附 則

第十五條 衛生組合ニ於テハ消毒器具及藥品ヲ設備スヘシ

第十四條 組合費用ノ負擔及支出方法ヲ定ムルコト

第十三條 組合共有財産ノ管理方法ヲ設クルコト

第十二條 種痘ノ普及ヲ謀リ未種痘者ナカラシムルコト

第十一條 傳染病行旅患者アルトキ町村ニ於テ救療看護スルニ至ルマテ一時救護ノ方法ヲ設クルコト

第十條 傳染病行旅患者アルトキ町村ニ於テ救療看護スルニ至ルマテ一時救護ノ方法ヲ設クルコト

第九條 全家傳染病患者ニ罹リ若クハ獨身患者等ニシテ他ニ看護人ナキ者ノ看護方法ヲ設クルコト

第八條 交通遮斷ノ場合ニ於テ食品其他需用供給ノ方法ヲ設クルコト

第七條 傳染病患者ノ收容運搬及埋火葬ニ要スル人夫其他ノ物件供給ノ手續ヲ定ムルコト

第六條 清潔方法消毒方法其他豫防方法ヲ施行スルノ資力ナキモノハ組合ノ費用ヲ以テ之ヲ施行スルコト

初種	再種	三種	臨時種痘時	初種	再種	三種	臨時種痘時
				明治年月日 種痘ノ際疾病又ハ 失踪 明治年月日 除籍又ハ死亡			
				戸主 氏名			
				妻 氏名			
				生年月日			

- 一 此原簿ハ戸籍簿寄留簿ニ基キ一戸毎ニ一本ヲ作り之ヲ編綴シテ帳簿トナシ戸籍簿寄留簿ノ入籍除籍アル毎ニ加除訂正スヘシ
- 二 初種不善感ニシテ種痘規則第一條後段ニ依リ更ニ一年內ニ再三種ヲ行ヒタルモノハ初種ノ欄ニ記入スヘシ
- 三 種痘規則第三條ニ依リ再三種ヲ經タル者種痘ヲ行ヒタルトキハ臨時種痘ノ欄ニ記入スヘシ

種痘通知書

町村大字番地
某長次男女等

初種(又ハ再三種) 氏名
年月日生

右年月日何處種痘所ニ於テ種痘スヘシ

年月日 町村長 氏名 印

第三號様式 種痘名簿

番號		接種點數		發痘顆數		感否		住所		氏名	
右	左	右	左	右	左	右	左	町村大字番地	某長次男女等	生年月日	名

第四號様式 種痘證

番 號		種 痘 證		住 所		氏 名		生 年 月		接 種 月 日		接 種 點 數		發 痘 顆 數		感 否	
				縣郡町村大字番地某長次男女等													

第五號様式 天然痘證

番 號		天 然 痘 證		右 種 痘 ヲ 證 ス		縣 郡 町 村 名 團		年 月 日	
						縣 郡 町 村 番 地 某 長 次 男 女 等		年 月 日 天 然 痘	
								年 月 日 生	
				右 天 然 痘 ヲ 證 ス		縣 郡 町 村 名 團		年 月 日	

第六號様式 種痘表

種痘表

郡(町村)

區別	初種		再種		三種		合計	臨時種痘	
	善感	不善感	善感	不善感	善感	不善感		善感	不善感
滿一年									
滿一年以上									
滿二年以上									
滿五年以上									
滿十年以上									
滿十五年以上									
滿二十五年以上									
通計									

- 一 種痘規則第三條ニ依リ再三種ヲ經タル者種痘ヲ行ヒタルトキハ臨時種痘ノ欄ニ記入スヘシ
- 二 初種不善感ニシテ種痘規則第一條後段ニ依リ更ニ一年內ニ再三種ヲ行ヒタルモノハ其善感不善感ヲ區別シ初種ノ欄ニ記入スヘシ

○縣訓令第六十三號 明治三十一年四月八日

郡役所 町村役場

痘苗請求手續

- 一 市區町村長ハ豫メ定期(春季)種痘期日ヲ定メ種痘規則ニ遵ヒ其名簿(種痘名簿)ニ就キ當季接種人員ヲ點檢シ其所要痘苗ノ具數ヲ概算シ春季ハ前年十二月中秋季ハ其年六月中痘苗賣下規則(明治二十九年七月十一日內務省令第八號)第二條ノ區域ニヨリ其所管痘苗製造所ニ對シ第一號ノ書式ニ準シ直接報告ヲナスヘシ
- 二 市區町村長ハ前項定期種痘施行期日凡ソ一箇月前ニ於テ其所要ノ痘苗具數ノ調定シ所管痘苗製造所ニ對シ第二號書式ニ準シ直接請求スヘシ
- 三 臨時種痘ヲ施行スル場合ニ於テハ第二項ノ概算報告ヲ要セス何時タリトモ便宜痘苗ノ請求ヲナスコトヲ得 但其具數五百以上ニ涉ルトキハ可成前以テ其手續ニ及フヘシ
- 四 定期臨時ノ別ナク多數ノ痘苗ヲ要スルモノハ其發送期日ヲ數回ニ分割シ請求スヘシ

明治何年(春)季所要痘苗概數

警察

痘苗具數	所	要	期	日	請	求	所	名
何具	自	何	何	何	北	海	道	何
	至	何	月	何	道	何	府	縣
	何	月	何	日	何	市	區	役
	日	何	日		所	又	ハ	何
					郡	何	町	村
					役	場		

右及報告候也

年月日

右

東京痘苗製造所宛

何市役所又ハ何郡何町役場

第二號 痘苗具數請求書式

痘苗請求書

一痘苗 何具 發送期日 何月何日

(數回ニ分送ヲ要スルモノハ左ノ如ク内譯スヘシ)

内譯

何具 何月何日

何具 何月何日

右請求候也

登記印紙

年月日

北海道何府縣

東京痘苗製造所宛

何市役所又ハ何郡何町役場

○縣令甲第三十九號 明治二十六年六月二十三日

牛痘苗ヲ製造販賣セントスル者ハ左ノ各項ヲ詳記シ五日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ 但從前牛痘苗ヲ製造販賣スル者ハ本文ノ手續ニ依リ本年七月五日限り所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

- 一 牛舎ノ位置牛運動場ノ坪數及近接人家ノ距離ヲ記シタル圖面(方位ヲ記入スヘシ)
- 一 牛痘苗製造ノ方法

○縣令第二十八號 明治三十一年七月五日

傳染病院及隔離病舎設備並管理方法左ノ通定ム

傳染病院及隔離病舎設備並管理方法

第一章 設備

第一條 町村ハ傳染病院又ハ隔離病舎ヲ設備スヘシ

傳染病院又ハ隔離病舎ヲ設備スヘキ町村ハ別ニ之ヲ指定ス

前項ニ依リ指定セラレタル町村ニシテ傳染病院又ハ隔離病舎ヲ設備スルヲ得サル事情アルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 傳染病院又ハ隔離病舎ヲ設置若ハ變更セントスルトキハ其位置建築ノ仕様坪數經費ノ豫算及竣工期限ヲ記シ圖面ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 傳染病院ハ患者三十名以上隔離病舎ハ患者十五名以上ヲ收容スルニ足ル設備ヲナスヘシ 但土地ノ狀況ニ依リ隔離病舎ハ患者十名ヲ收容スルニ足ル設備マテニ縮少スルコトヲ得

第四條 傳染病院又ハ隔離病舎ノ位置ハ成ルヘク左ノ各項ヲ具備スル地ヲ擇フヘシ

- 一 患者運搬ニ便利ニシテ相當ノ通路アルカ若ハ之ヲ設ケ得ヘキ地ナルコト
- 二 飲料水ヲ得ルニ差支ナキ地ナルコト
- 三 開豁高燥ニシテ空氣ノ流通及光線ノ映射好キ地ナルコト
- 四 汚水下水ヲ溜溜セル池沼又ハ河川下水其他墓地火葬場等ニ接近セサルコト
- 五 學校工場劇場其他喧噪ナル場所ニ接近セサルコト
- 六 人家アル部落ニ遠隔セサルコト
- 七 風火水災ノ虞ナキ地ナルコト

第五條 傳染病院ハ左ノ部室ヲ具備スヘシ

健康部

事務室
醫務室
調劑室
應接室
宿直室
小使室
賄所

浴場 便所 物置 病室部

診察所 病室 (男子部女子部ニ大別シ又各部ヲ快復室重症室重症室ニ區別ス)

看護人室 看護人等食堂 (食器洗場附屬)

消毒夫室 消毒所 (汽熱及藥物消毒所但洗濯所附屬)

屍室 場 (患者用ト健康者用トニ別ツ)

汚物置場 場 (患者用ト健康者用トニ別ツ)

燒却場 所 (患者用ト健康者用トニ別ツ又患者用トハ病室ノ種別ニ依リ區別ス)

汚水溜

隔離病舎ハ前項ニ準據スヘシ 但健康部中事務室調劑室應接室宿直室ハ便宜合併兼用シ小使室賄所ハ合併シ物置及病室部中ノ診察所並ニ病室中病症區別ヲ省察スルコトヲ得

第六條 傳染病院又ハ隔離病舎ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

病室

- 一 平家建ニシテ南ニ面セシムヘシ
 - 二 室ノ内外側壁トモ總テ板張トナシ消毒洗滌ニ便スヘシ
 - 三 南面ハ明障子トナシ前ニ幅四尺以上ノ縁側ヲ付シ其外端ニ沿フテ雨戸ヲ設クヘシ
 - 四 北面ハ床上高サ一尺五寸ニ於テ高サ三尺長サ室ニ同シキ窓ヲ設ケ明障子ヲ付シ外ニ引雨戸又ハ掛雨戸ヲ設クヘシ
 - 五 床ノ高サハ地上二尺五寸以上トシ厚八分以上ノ板ヲ用ヒ間隙ナキ様ニ之ヲ張詰メ天井ハ床上七尺以上タルヘシ
 - 六 床下ノ地面ハ煉化盤ミ又ハ喰漆敲キ若ハ粘土ヲ以テ堅牢ニ築固メ四方又ハ二方ニ五寸以上ノ勾配ヲ付シ周圍ニ汚水流下ノ溝ヲ通シ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設ケ之ニ導クノ施設ヲ爲スヘシ
 - 七 床下ノ周圍ハ總テ開放スヘシ
 - 八 病室ノ面積ハ患者一名ニ付少クトモ一坪半以上タルヘシ
- 屍室
- 一 患者室ヨリ透見セサル位置ニ於テ内外トモ板張トナシ窓ハ硝子又ハ鐵網ヲ張り鼠又ハ虫類等ノ入ラサル設備ヲ爲スヘシ
 - 二 床及床下ハ病室ニ準スヘシ
- 便所
- 一 患者用ト健康者用トハ隔離セル位置ニ設ケ糞池ハ甕又ハ其他不滲透質ノモノヲ以テシ其周邊ハ適宜勾配ヲ付シ其厚サ五寸以上ノ漆喰敲キトナスヘシ

汚水溜

- 一 汚水廢水ヲ受クル爲メ不滲透質ノモノヲ以テ適宜ノ位置ニ設ケ消毒ニ便スヘシ
- 第七條 傳染病院又ハ隔離病舎ノ周圍ニハ塹堀若ハ木柵ヲ設クヘシ
- 第八條 傳染病院又ハ隔離病舎ニハ左ノ物品ヲ備スヘシ
 - 一 患者ノ治療及消毒ニ必要ナル器具藥品
 - 二 職員其他外人著用ノ病室衣患者及付添看護人ニ要スル臥具
 - 三 患者及付添看護人用ノ飲食器及調理器具其他火鉢燈器等
 - 四 患者及付添看護人ニ供スル飲食物

第二章 管理

第九條 傳染病院ニハ左ノ職員ヲ置クヘシ

- 院長 一人
- 醫員 患者十五名乃至二十五名ニ付一人
- 調劑員 若干人
- 事務員 若干人
- 看護人 患者五名乃至十名ニ付一人

町村ノ情况ニ依リ院長ヲ置カス醫員ヲシテ其事務ヲ擔任セシメ又調劑員ヲ置キ難キ事情アルトキハ醫員ヲシテ調劑ノ事ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第十條 院長ハ院内ノ醫務衛生ヲ掌理シ醫員以下ヲ監督スヘシ

院長ハ毎日一回以上入院患者ヲ回診シ治療並ニ看護ノ方法ヲ醫員及看護人ニ指示スヘシ

- 第十一條 醫員ハ院長ノ指揮ヲ受ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔任スヘシ
- 第十二條 調劑員ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ關スル事務ヲ擔任スヘシ
- 第十三條 事務員ハ院長ノ指揮ヲ受ケ建物及物品ノ管理出納其他庶務ニ從事シ小使賄人役夫等ヲ監督スヘシ
- 第十四條 看護人ハ院長及醫員ノ指揮ヲ受ケ患者ノ看護ニ從事スヘシ
- 第十五條 醫員調劑員又ハ事務員中適當ノ人員ヲ選ミ消毒掛ヲ置キ消毒ニ從事セシムヘシ
- 第十六條 醫員調劑員及事務員ハ交番宿直スヘシ
- 看護人ハ院内ニ宿泊シ交番ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ
- 看護人ニシテ調劑所又ハ賄所等ヘ往復スル者ハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ
- 第十七條 入院患者ノ親族若ハ縁故アル者附添看護ヲ請フトキハ妨ケナキ限り之ヲ許可スルコトヲ得但院内ノ規定並ニ院長以下ノ指揮ニ從ハシメ猥リニ外出ヲ許スヘカラス
- 第十八條 何人タリトモ病室部各室ニ入ルトキハ病室衣ヲ被ヒ病室ヲ出ツルトキハ之ヲ脱シ手足ヲ消毒スヘシ 但病室衣ハ時時汽熱消毒ニ付シ一週二回以上洗濯スヘシ
- 第十九條 健康部ト病室部トハ猥リニ交通セシムヘカラス又病室ヨリ出ス物品ハ消毒シタル後ニ於テスヘシ
- 第二十條 入院患者ノ親族若ハ縁故アル者而會ノ爲メ來院シタルトキハ而會ヲ許可スルコトヲ得但病毒ニ感染セサル様嚴ニ注意ヲ加フヘシ
- 第二十一條 患者ノ食物ハ總テ醫員ノ検査ヲ經タルモノニ限ルヘシ 但飲料水ハ一旦煮沸シタルモノヲ用ユヘシ

- 患者ニ供シタル食物ノ殘餘ハ直ニ一定ノ器具ニ移シ消毒スヘシ
- 第二十二條 飲食器具ハ健康部ト病室部トヲ區別シ尙ホ病室部ノ患者用ト健康者用トヲ區別シ決シテ混同スヘカラス
- 病室部ノ飲食器具ハ使用ノ都度毎回消毒スヘシ
- 第二十三條 看護人附添看護人及消毒夫等ノ衣服ハ時時消毒スヘシ
- 第二十四條 患者ヲ送り來リタル人夫及運搬器ハ消毒シタル後ニ非レハ外部ニ出スヘカラス
- 第二十五條 院内ハ常ニ清潔ニ掃除シ其塵芥等ハ直ニ焼却スヘシ
- 糞池下水等ハ日日消毒ヲ施シ便所及病室部各室ハ毎日消毒藥ヲ布片ニ浸シ拭淨スヘシ
- 第二十六條 患者ノ排泄物分泌物及汚物ハ一定ノ容器ニ受ケ其都度消毒シ毎日二回以上之ヲ取纏メ燒棄スヘシ
- 第二十七條 病室部内ノ汚水廢水等ハ消毒シタル後ニ非ラサレハ他ニ棄ツヘカラス
- 第二十八條 患者又ハ附添看護人退院スルトキハ入浴ノ上石鹼ヲ以テ全身ヲ清洗シ衣服ヲ更ヘ退院セシムヘシ
- 患者ノ衣服寢具其他携帶品等ハ消毒シタル後ニ非サレハ院外ニ持出スコトヲ禁スヘシ 但價額僅少ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒却スヘシ
- 第二十九條 入院患者危篤ノ症候ヲ呈シタルトキ及死亡シタルトキハ速ニ患家ニ通知スヘシ
- 第三十條 入院患者死亡シタルトキハ消毒藥ニ浸シタル布片ヲ以テ死體ヲ包被シ速ニ屍室ニ移シ棺ニ斂メ其家族ニ渡スヘシ
- 死體ノ運搬ハ成ルヘク未明又ハ夜間ニ於テスヘシ

第三十一條 入院患者ノ轉歸ハ即時警察官吏檢疫委員町村長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ
 第三十二條 病室ニ寢臺ヲ用ヒサルトキハ盤ノ上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞ナキ物ヲ敷クヘシ
 第三十三條 院内ニハ左ノ書類帳簿ヲ備フヘシ但入院患者名簿、職員出勤簿ハ出張ノ警察署長又ハ警察分署長ノ檢印ヲ受クヘシ(三十五年十月縣令第三十六年二月二十七日縣令第六十七號ヲ以テ改正)(令第十四號ヲ以テ改正)

一 事務日誌

二 入院患者名簿

三 職員出勤簿

四 病床日誌

五 處方錄

六 溫度表

第三十四條 隔離病舎ハ第九條乃至第三十三條ニ準據スヘシ 但院長ヲ置カス醫員ヲシテ其事務ヲ擔任セシムヘシ

附 則

第三十五條 傳染病院又ハ隔離病舎ノ設備ナキ町村ハ將來之ヲ設備スルマテ假ニ寺院民家其他適當ノ建物ヲ以テ隔離病舎ニ充テ患者ヲ收容スルノ設備ヲ爲スヘシ

第三十六條 明治三十年(九月)埼玉縣令第四十八號傳染病院及隔離病舎設備規程及明治二十八年(六月)埼玉縣訓令第五十三號避病院管理方法ハ廢止ス

○縣訓令第七十五號 明治三十四年七月十六日

傳染病院又ハ隔離病舎ヲ開キ若ハ假病舎ヲ設ケタルトキハ三日以内ニ左ノ書式ニ依リ届出其ノ閉院又ハ閉舎シタルトキハ同期日內ニ其旨届出ヘシ
 明治三十二年^時埼玉縣訓令第六十四號ハ之ヲ廢止ス
 傳染病院(隔離病舎)開院(舎)届

郡役所 町村役場

名	稱	何町(村)傳染病院(隔離病舎)
院長又ハ醫員氏名		
開院(舎)年月日		
入院(舎)患者ノ病名		

右及御届候也

年 月 日

知 事 宛

町 村 長 氏 名

假病舎開設届

位 置	
建物ノ種類及坪數	民家寺院又ハ何々總坪數幾坪内病室幾坪事務所幾坪何々幾坪
醫 員 氏 名	

警 察

開設年月日
入舎患者ノ病名

右及御届候也

年月日

知事宛

町村長氏名

○縣令第三十一號 明治三十三年五月二十九日
 「ペスト」病ノ疑似症(急性熱性病ニシテ病
 症診斷シ難キモノ)ニ對シ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ヲ適用ス

○縣訓令第六十八號 明治三十五年八月二十二日

警察部 郡役所
 警察署 警察分署

町村役場

傳染病院隔離病舎及假隔離病舎ニ收容シタル傳染病患者ノ轉歸シタル場合ハ直ニ町村長ヨリ警察官吏
 又ハ檢疫委員ニ通報シ共ニ立會ノ上消毒ヲ行ヒタル後退院退舎セシメ又ハ死体ヲ運搬セシムヘシ

○縣令第三十三號 明治三十三年五月二十九日

家屋倉庫物置其他ノ場所ニ於テ斃鼠ヲ發見シタルトキハ其土地建物ノ所有者又ハ占有者ヨリ直ニ所轄

警察署警察分署巡查駐在所巡查派出所又ハ巡行ノ警察官吏ニ届出ヘシ
 道路公園河岸地等ニ斃鼠アリタルトキハ其發見者ヨリ前項ノ届出ヲナスヘシ
 前二項ノ場合ニ於テ斃鼠ハ當該吏員ノ指示ニ依ルニ非サレハ之ヲ處置スルコトヲ得ス
 本令ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第四十六號 明治三十六年五月二十九日

郡役所 警察署

警察分署 町村役場

町村ニ於テハペスト豫防ノ爲メ左ノ各項ニ依リ鼠族驅除ヲ獎勵スヘシ但明治三十三年堀玉縣訓令第
 七十號ハ之ヲ廢止ス

- 一 町村ニ於テハ鼠驅除獎勵ノ爲メ可成捕鼠買收方法ヲ設ケ之ヲ實施スルコト但買收ヲ行フトキハ警
 察官吏ハ其事務ヲ補助スヘシ
- 二 衛生組合ヲシテ毎戸ニ捕鼠器ヲ備ヘ鼠驅除ヲ持續セシムルコト
- 三 衛生組合ニ於テハ便宜ノ場所ニ捕鼠容器ヲ備置キ各戸ニ於テ捕獲シタル鼠ヲ投入セシムルコト
- 四 前項ノ捕鼠ハ一週間ニ一回以上警察官吏立會ノ上之ヲ燒却スルコト

○縣訓令第四十七號 明治三十六年五月二十九日

郡役所 警察署
 警察分署 町村役場

ベスト豫防ノ爲メ當分ノ内左ノ病症ニ罹リ死亡シタルモノアルトキハ町村役場ニ於テ埋葬認許證ヲ下付スル前警察官署吏又ハ巡查駐在所ニ通報スヘシ

脳膜炎 肺炎 助膜炎 脚氣衝心 腦出血(卒中) 心臓麻痺 マラリヤ 丹毒膿毒症 敗血症
便毒 梅毒 腺炎 淋巴腺腫 筋肉炎 其他疑ハシキ病名
警察官署又ハ巡查駐在所ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ速ニ其家ニ臨ミ病狀ヲ視察シ死因ニ疑ハシキモノアルトキハ直ニ急報スヘシ
明治三十三年五月埼玉縣訓令第七十一號ハ之ヲ廢止ス

○縣令第二號 明治三十六年一月十七日

ペスト病豫防ノ爲メ外國ヨリ輸入シタル綿花又ハ綿糸ヲ取扱ヒ若ハ之ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ設備ヲ爲スヘシ
會社又ハ工場ニ於テハ其社長場主若ハ當該事務擔當員ニ於テ前項ノ設備ヲ整理スヘシ
前二項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
一當該吏員ノ指揮ニ從ヒ家屋倉庫又ハ工場内外ノ清潔方法ヲ施行シ蚊蠅鼠ヲ檢索シ鼠族ノ驅除ヲ爲スヘシ
二會社工場又ハ寄宿舍ニ於テ急性病患者發生シタルトキハ速ニ醫師ノ診察ヲ請ケ直ニ警察官吏ニ届出ヘシ
三會社工場又ハ寄宿舍ニ於テ死亡者アリタルトキハ直ニ警察官吏ニ届出ヘシ

四綿花、綿糸ノ購入先、品名數量及購入年月日ヲ帳簿ニ明記シ當該吏員ノ要求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

○縣令第四十一號 明治三十五年六月三日

醫師麻疹又ハ流行性感胃(インフルエンザ)患者ヲ診斷シタルトキ及其轉歸ノトキハ病名患者ノ氏名町村名發病又ハ轉歸ノ年月日ヲ記シ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月三日迄ニ患者所在地ノ所轄警察官署巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ届出ヘシ
明治三十五年五月埼玉縣令第二號ハ之レヲ廢止ス

○縣訓令第四號 明治三十五年一月十四日

警察署 警察分署
狂犬病畜ノ咬傷ヲ受ケタル者アルトキハ第一號様式狂犬病患者發生ノ場合ニ於テハ第二號様式ニ依リ其都度報告スヘシ

(第一號) 狂犬病被咬傷者報告

發病地名	獸ノ種類	牝牡ノ別	被咬傷人員	被咬傷者ノ處	備考
何郡何町(村)	野犬	牝	三	創部ノ治療ニ豫防接種ヲ行フ	咬傷シタル犬ハ緊留シ置キ其經過ニ依リ狂犬病アルコトヲ確メ或ハ直チニ撲殺シ剖檢ノ結果狂犬病ト診定スル等

同 飼 猫 牡牝

(第二號) 狂犬病患者發生報告

- 一 患者ノ住所、職業、氏名、年齢
- 一 被咬傷ノ月日
- 一 被咬傷ノ部位、局部ノ症候及當時ノ處置
- 一 發病月日
- 一 轉歸月日

○縣令第五十八號 明治三十四年七月十九日

理髮營業取締規則左ノ通定ム

理髮營業取締規則

- 第一條 本則ニ於テ理髮營業ト稱スルハ剪髮剃鬚又ハ結髮ヲ營業ト爲スモノヲ謂フ
- 第二條 理髮營業ヲ爲サントスル者ハ住所氏名及營業ノ場所ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ヘシ
前項届出ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其營業ヲ廢止シ又ハ死亡シタルトキ亦同シ
- 第三條 肺結核、癩病、癩癩、其他傳染性皮膚病アル者ハ理髮ノ業務ニ從事スルコトヲ得ス
- 第四條 理髮ノ業務ニ從事スル者ハ就業中清潔ナル白地ノ被服ヲ着用スヘシ
- 第五條 理髮所、流場等ハ常ニ清潔ニ掃除シ剪除シタル毛髮ハ一定ノ容器ニ蒐集スヘシ

第六條 理髮ノ用ニ供スル椅子、手洗鉢、被布、手拭、頸卷ノ類ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ

第七條 理髮ニ從事スル者ハ客一人毎ニ石鹼ヲ以テ洗手シ且左ノ藥品ノ一ヲ以テ理髮器具ヲ洗滌スヘシ

- 一 「フタルマリン」液
 - 二 石炭酸水
 - 三 炭酸曹達液
- 理髮器具ヲ洗滌スルニハ豫メ前項ノ藥品中ニ浸蘸シタル布片(脫脂綿花、脫脂綿紗ノ類)ヲ用ヒテ能ク洗拭スヘシ但其ノ布片ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第八條 理髮ノ業務ニ從事スル者皮膚ニ疾患アル者ノ理髮ヲ爲シタルトキハ前條第一項藥品ノ一ヲ以テ洗手シ且左ノ方法ノ一ニ依リ理髮器具ヲ消毒スヘシ被服被布手拭頸卷枕掛ノ類亦同シ
- 一 「フタルムアルデヒッド」瓦斯消毒
 - 二 蒸汽消毒
 - 三 煮沸消毒
 - 四 石炭酸水又ハ「フタルマリン」液消毒

第九條 「フタルムアルデヒッド」瓦斯消毒ハ瓦斯氣中ニ一時間以上放置スヘシ

第十條 蒸汽消毒ハ流通蒸汽ヲ用ヒ消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ溫熱ニ觸レシムヘシ

革製器具、塗漆器具、護膜製器具、角製器具「セルロイド」製器具ハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

第十一條 煮沸消毒ハ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ但炭酸曹達液ヲ用ユルトキハ二十分間以上煮沸ス

ルヲ以テ足ル

前條第二項ノ器具ハ煮沸消毒ヲ避クヘシ

第十二條 消毒藥品ノ製方及應用左ノ如シ

一 「フアルマリン」液百分中一分「フアルマリン」液「フアルマリン」液「フアルマリン」液

「フアルマリン」液ヲ製スルニハ「フアルマリン」一分ニ水三十四分ヲ加ヘテ稀釋スヘシ

「フアルマリン」液ヲ以テ理髮器具ヲ消毒スルニハ二十分間以上「フアルマリン」液中ニ其ノ器具

ヲ浸漬シ更ニ清水ヲ以テ洗滌スヘシ

「フアルマリン」液ハ各種理髮器具ノ消毒ニ適ス

二 石炭酸水(二十倍)

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ水九十五分ヲ加ヘ能ク振盪スヘシ温湯ヲ用ユルトキハ溶解

殊ニ速ナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スヘシ

石炭酸水ヲ以テ理髮器具ヲ消毒スルニハ二十分間以上石炭酸水中ニ其ノ器具ヲ浸漬シ更ニ清水

ヲ以テ洗滌スヘシ

石炭酸水ハ各種理髮器具ノ消毒ニ適ス

三 炭酸曹達液(百分中五分ノ炭酸曹達ヲ含ムモノ)

炭酸曹達液ヲ製スルニハ炭酸曹達五分ニ水九十五分ヲ加ヘテ溶解スヘシ

炭酸曹達液ヲ以テ理髮器具ヲ洗滌シタルトキハ更ニ清水ヲ以テ洗滌スヘシ

第十三條 第二條乃至第八條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十四條 雇人助手若ハ徒弟ニシテ本則ニ違背シタル者アルトキハ前條ノ罰則ヲ營業者ニ之ヲ適用ス

附 則

第十五條 本則ハ明治三十四年八月一日ヨリ施行ス

第十六條 現在ノ理髮營業者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ第二條第一項ノ届出ヲ爲スヘシ

○縣令第五十六號 明治三十五年九月十六日

町村傳染病豫防費補助規則左ノ通定ム

町村傳染病豫防費補助規則

第一條 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ諸費ハ左ノ費途ニ限リ縣費ヲ以テ補助ス其步

合ハ精算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス

一 傳染病院隔離病舎設備並管理方法ニ依リ認可ヲ受ケタル病院病舎隔離所及消毒所ノ建築改築及

増築費

二 病院病舎ノ醫員及看護人特ニ看護人又ハ看護婦トシテ養成セラレタル者ニ限ル給料

三 病院病舎ニ收容シタル患者ノ食費並ニ藥價

四 町村ニ於テ施行スル清潔方法及消毒方法ニ關スル藥品費

前項ノ補助金額其年度支出總額ノ六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一マテ補助ス

町村ノ支出額其負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其他特別ノ事由アルトキハ二分ノ一以上全部マテヲ補助

スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ精算額及支出總額ハ縣廳ニ於テ査定シタルモノヲ以テ正額トス

第三條 町村豫防費ニ伴フ收入又ハ補助金寄附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除ス但費途ヲ指定

シタル補助金寄附金ハ其用途ヨリ之ヲ控除ス

第四條 町村長ハ縣廳ノ指定スル様式ノ精算書及關係書類ヲ添へ年度後郡長ヲ經テ補助ヲ請求スヘシ

第五條 町村豫防費ノ支出巨額ニ上リ豫防上ノ施設困難ト認ムルトキハ町村長ノ請求ニ依リ該年度四月ヨリ九月マテノ支出額ニ對シテ補助金額幾分ノ内渡ヲナス事アルヘシ但病院病舎隔離所消毒所ノ建築改築増築費其出來形五分以上ニ至リタルトキハ二回以內分通り補助ノ内渡ヲ爲ス事アルヘシ

前項内渡補助ノ請求ニハ精算書ヲ添へ其分通り補助ニ係ルモノハ尙ホ出來形精算書ヲ添フヘシ

第六條 町村豫防費ノ支出精算額ニ對シ必要アリト認ムルトキ又ハ病院病舎及隔離所消毒所ノ出來形ニ付テハ隨時當該吏員ヲシテ實地検査ヲ爲サシム

附 則

本令ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○縣訓令第七十號 明治三十五年九月二十三日

郡役所 町村役場

町村傳染病豫防費補助規則施行細則左ノ通定ム

町村傳染病豫防費補助規則施行細則

第一條 町村傳染病豫防費補助規則明治三十五年埼玉縣令第五十六號第四條及第五條ニ依リ縣費ノ補助又ハ補助金ノ内渡ヲ請求セントスルトキハ其請求書ニ左ノ書類及支出精算額ニ對スル正當領收證ヲ添付スヘシ但領收證書ハ每葉ニ番號ヲ附スルヲ要ス

一 傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所ノ建築改築及増築費ニ就テハ第一號様式ノ精算書及第三號様式ノ出來形精算書

式ノ出來形精算書

二 病院病舎ノ醫員看護人給料患者食費藥價並ニ町村ニ於テ施行スル清潔方法及消毒方法ニ關スル藥品費其他町村ニ於テ施行スル傳染病豫防事務ニ關スル諸費ニ就テハ第一號様式ノ精算書及第二號様式ノ患者調書

三 町村ノ負擔ニ堪ヘス又ハ特別ノ事由ニ依リ支出額二分ノ一以上ノ補助金ヲ請求セントスルトキハ第一號様式ノ精算書第二號様式ノ患者調書又ハ第三號様式ノ出來形精算書及第四號様式ノ町村負擔額調書

四 傳染病豫防費ノ支出巨額ニ上リ補助金額ノ内渡ヲ請求セントスルトキハ第一號様式ノ精算書第二號様式ノ患者調書又ハ第三號様式ノ出來形精算書第四號様式ノ町村負擔額調書及第五號様式ノ收支明細書

五 傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所ノ建築改築又ハ増築費ノ分通り内渡補助ノ請求ニ就テハ第三號様式ノ出來形精算書及第五號様式ノ收支明細書

第二條 郡長ハ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ検査シ詳細意見ヲ附シテ縣廳ニ進達スヘシ但正當領收證ハ處分完了ノ後町村ニ還付ス

一 第一號様式ノ精算書ハ町村ヨリ豫メ報告セル歳入出豫算ニ適合スルヤ否

二 收入額ハ徵收原簿歳入簿及現金受拂簿ニ照査シ適合スルヤ否

三 支出額ハ歳出簿現金受拂簿及證憑書類ニ照査シ適合スルヤ否

四 傳染病豫防費支辨ノ爲メ借入タル金額ハ町村會議事錄又ハ借入ノ事實ニ齟齬スルコトナキヤ否

五 證憑書類ノ正否

六 其他關係書類ノ正否及事實ニ照臨スルコトナキヤ否
 七 病院病舎等ノ建築改築及増築費ニ對シテハ其出來形又ハ分通出來形及請負契約書其他必要ト認ムル事項
 第一號様式

何郡何町村明治何年度傳染病豫防費精算書

一金

內 譯

村稅何々費收入
 寄附金(補助金)又ハ食費藥價收入
 何々收入
 何々々々
 何々々々
 何々々々

一金

內 譯

支 出

第一項補助支出額 明治三十五年九月埼玉縣令第五十六號第一條第一號乃至第四號ノ費途

內 金 病院舎建築改築増築費
 但病室建坪何坪一坪金何圓此金何程事務室建坪何坪一坪何圓此金何圓消毒所建坪何坪一坪何圓此金何圓敷地買上何坪一坪何圓此金何圓何々々々領收證何號ヨリ何號ニ至ル以下之ニ做フ
 給 料
 但院長何月此金何圓醫員何人延何日此金何圓看護人何人延何日一日何程此金何圓
 患 者 費
 但患者何人延何日牛乳何升此金何程藥價何程雞卵何個此金何圓白米何々此金何程何々何々
 藥 品 費
 但石炭酸何磅一磅何程此金何程生石灰何罐一罐何程此金何圓何々々々
 第二項其他支出額
 內 金 假病舎建築費
 但病室建坪何坪一坪何圓此金何圓消毒所何坪一坪何圓此金何圓何々々々領收證第何號ヨリ何號ニ至ル以下之レニ做フ
 病院病舎修繕費
 但修繕屋根何坪一坪何圓此金何圓何々々々
 雜 給

警 察

但調劑師何人延何日一日何程此金何圓事務員何人延何日一日何程此金何圓小使何人延何日一日何程此金何圓消毒人夫何人延何日一日何程此金何圓豫防醫何人延何日一日何程此金何圓種痘醫何人延何日一日何程此金何圓何々々々

患者療用費

但綿何貫一貫何程此金何圓水何斤一斤何程此金何圓何々々々

消耗品費

但薪何束一束何程此金何圓炭何俵一俵何程此金何圓何々々々

備品費

但墨何疊一疊何程此金何圓蒲團何枚一枚何程此金何圓蚊帳何張一張何程此金何圓便器何個一個何程此金何圓手桶何個一個何程此金何圓何々々々

賄費

但看護人何人延何日白米何程此金何圓醬油何程此金何圓何々々々

借家料

但病舍借上何日一日何程此金何圓事務所買上何日一日何程此金何圓何々々々

報酬

但豫防委員何人延何日一日何程此金何圓何々々々

惠與

但豫防救治ニ從事者何人延何日一日何程此金何圓感染者何人治療料何圓救助料何圓死亡者何人吊祭料何圓何々々々

金 諸雇給

但患者何人運搬一人何程此金何圓死体何人運搬一人何程此金何圓何々々々

金 救助費

但交通遮斷救助何人延何日一日何程此金何圓

痘苗購入費

但痘苗何具一具何程此金何圓

通信運搬費

但郵便何通一通何程此金何圓電信何音信金何程何々運搬何度一度何程此金何圓

火葬料

但死体何人一人何圓此金何圓

衛生組合補助費

但何組合戸數何戸此支出金何程ニ對スル補助金何程

右精算之通相違無之候也

明治 年 月 日

琦玉縣知事宛

何郡何町村長 何 某印

第二號様式

何郡何町村傳染病患者調書

入院(舍)患者

病名	發病月日	入院(舍)月日	轉歸月日	退院(舍)月日	經過日數	在院(舍)日數	氏名
第三號樣式 明治何年度傳染病院(隔離病舍)出來形 何郡何町村 傳染病院隔離病舍 一病室建坪幾坪 事務室建坪幾坪 右需用							
材料其他	種類	員數	單位	同上	計單價	金額	摘要
杉柱	長何尺	何本	何々	何本	何程	何々	何々
杉板	何	何	何	何	何	何	何
中貫	何	何	何	何	何	何	何
屋根瓦	何	何	何	何	何	何	何
屋根漆喰	何	何	何	何	何	何	何

土臺石	何々	計

右之通相違無之候也
 明治 年 月 日
 埼玉縣知事宛
 郡町村長何 某印
 第四號樣式
 明治何年度諸徵税金負擔額其他取調書

戶數	國稅地租	縣稅地價割制	町村稅何々	公共組合費	町村債

內渡補助額	同上下徵收金 當	同 人 當	豫防費 戶 當	豫防費總支出額	患者延日數	患者數	患家戶數

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

琦玉縣知事宛

何郡何町村長 何 某印

第五號様式 (記載方第一號精算書ノ例ニ依ル)

何郡何町村明治何年度 自何月 至何月 傳染病豫防費收支明細書

金 內 譯 何々費

金	支 出	何々費
金		何々々
金		何々々
金		何々々
金	內 譯	何々費
金	但病舎建坪何坪一坪何程此金何圓	建 築 費
金	但醫員何人延何日一日何程此金何圓	病院病舎給料
金	但何々	何々

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

琦玉縣知事宛

何郡何町村長 何 某印

○縣訓令第十一號 明治三十六年二月二十七日

郡役所 警察署

町村役場ニ於テハ傳染病豫防救治ニ關シ左ノ帳簿ヲ備ヘ出張ノ警察署長又ハ警察分署長ノ檢印ヲ受クヘシ

警察分署 町村役場

- 一 物品購入簿
- 一 備品消耗品藥品食料ノ購入年月日品目數量價格竝ニ買入先ヲ記スヘシ
- 一 諸雇人夫雇上簿
- 一 小使消毒夫患者及屍体運搬夫其他人夫ノ雇上年月日給料竝ニ氏名ヲ記スヘシ
- 一 豫防委員出勤簿
- 一 豫防委員出勤ノ日ハ之ニ認印スヘシ

○縣令第三十五號 明治三十三年六月十二日
汚物掃除法施行細則左ノ通定ム

- 汚物掃除法施行細則
- 第一條 汚物掃除法第一條乃至第四條第七條及第八條ハ別表ニ掲クル區域内ニ之ヲ準用ス
- 前項ノ施行ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第一條乃至第四條第五條第一項第六條乃至第九條第十四條及第十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第二條 汚物掃除法施行規則第十條第十二條第十三條第十五條及第十六條ノ規定ハ町村當該吏員ノ掃除監督ニ之ヲ準用ス
- 第三條 汚物掃除法施行規則第三條ニ依リ掃除義務者ノ備フヘキ塵芥容器ハ鐵又ハ木製ノ箱若クハ桶

- 汚物掃除法施行規則
- 第一條 汚物掃除法第一條乃至第四條第七條及第八條ハ別表ニ掲クル區域内ニ之ヲ準用ス
- 前項ノ施行ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第一條乃至第四條第五條第一項第六條乃至第九條第十四條及第十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第二條 汚物掃除法施行規則第十條第十二條第十三條第十五條及第十六條ノ規定ハ町村當該吏員ノ掃除監督ニ之ヲ準用ス
- 第三條 汚物掃除法施行規則第三條ニ依リ掃除義務者ノ備フヘキ塵芥容器ハ鐵又ハ木製ノ箱若クハ桶ヲ用ヒ覆蓋ヲ設クヘシ但數人共用スルコトヲ妨ケス
- 第四條 掃除義務者ハ町村長ノ認可ヲ得タルトキハ汚物掃除法施行規則第五條第一項ノ規定ニ拘ラス自ラ其汚物ヲ處分スルコトヲ得
- 第五條 土地ノ狀況ニ依リ汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スル能ハサルトキハ汚水溜ヲ造設修繕スヘシ
- 第六條 汚水溜ハ陶器若クハ桶ノ類ヲ埋メ可成覆蓋ヲ設クヘシ
- 第六條 溝渠ハ毎年四回以上町村長ノ指定スル期日ニ於テ浚渫スヘシ
- 第七條 便所汚水溜ハ充溢セサル様時々汲取ルヘシ
- 第七條 町村ニ於テ公共溝渠ヲ築造セントスルトキ工事仕様書竝ニ圖面ヲ具シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ既設溝渠ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 第八條 町村ハ左ノ標準ニ依リ汚物ノ掃除運搬及處分ノ方法順序ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 掃除人夫ハ必要ニ應シ人員ヲ定メ又ハ掃除受負人ヲ定ムルコト
 - 二 公共溝渠ハ毎年四回以上浚渫スルコト
 - 三 公共便所ハ充溢セサル様時々汲取ルコト
 - 四 掃除義務者ノ蒐集シタル塵芥ハ毎月一回以上搬出スルコト
 - 五 汚泥ハ浚渫ノ都度運搬ナク運搬スルコト
 - 六 塵芥汚物泥ノ運搬器ハ覆蓋アル箱若クハ桶ノ類ヲ用ユルコト
 - 七 樞要ナル市街地ニ於テハ塵芥焼却場ヲ設クルコト
- 第九條 公共便所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 敷地ハ地平面ヨリ三寸以上高クスルコト
 二 外圍ハ煉化又ハ木造ニシテ隙塀ヲ設クルコト
 三 尿管蓋ハ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ厚三寸以上ノ「セメント」若ハ漆喰敲ヲ以テ造ルコト
 四 尿管蓋ノ周邊ハ厚三寸以上ノ「セメント」若ハ漆喰敲ヲ施シ適宜ノ勾配ヲ付スルコト
 五 尿流シハ石、煉化又ハ厚三寸以上ノ漆喰敲ヲ以テ造リ踏石ヲ設クルコト
 第十條 公共便所ハ飲料水ヲ距ル五間以内ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得ス
 第十一條 私人ニ於テ公共便所ヲ設ケントスルトキハ其位置構造並ニ圖面ヲ具シ町村長ノ認可ヲ受ク
 ヘシ

附 則

第十二條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス
 第十三條 町村ハ縣廳ノ認可ヲ得テ公共溝渠ノ築造ヲ延期スルコトヲ得
 第十四條 一千坪以上ノ土地ヲ占有スル掃除義務者ノ掃除シタル汚物ハ掃除義務者ニ於テ之ヲ運搬處
 分スヘシ(明治三十四年七月縣令第六十三號ヲ以テ本條追加)

郡	名	町 村 名	地 域
	浦	浦和町	全部
	蕨	蕨町	大字蕨ノ内字水深町、字上町、字大門町、字下町、字仲町、字御殿旭町、字鐵道新道、字法花田町
	川	川口町	全部

北 足 立 郡

入 間 郡	所 澤 町	入 間 川 町	川 越 町	草 加 町	鴻 巣 町	桶 川 町	上 尾 町	大 宮 町
	浦町、字河原宿、大字久米、大字上新开	字市場、字菅原、字中宿組、字上宿組	字本町、字南町、字喜多町、字志多町、字高澤町、字鍛冶町、字志義町、字六軒町、字猪鼻町、字運雀町、字多賀町、字橋町、字江戸町、字上松江町、字松江町、字久保町、字相生町、字宮下町ノ一部、字石原町ノ一部	字一丁目、字二丁目、字三丁目、字四丁目、字五丁目、字六丁目	大字鴻巣ノ内加美町、字雷電町、字宮本町、字仲町、字富永町、字石橋町、字相生町、字天市町、字人形町、大字上生出塚ノ内相生町、字原市町	大字桶川字立花町、字榮町、字本町、字相生町	大字上尾宿ノ内字南宿、字中宿、字元宿、大字上尾ノ内字元宿	大字大宮ノ内字大宮、字鐘ヶ谷戸、字鐘塚、字神明ヶ谷戸、字大仙防、字櫻、大字土手宿ノ内字下西、字上西、字上東大字高鼻ノ内字大門西側

兒玉郡		秩父郡		比企郡		
飯能町	松山町	小川町	大河村	大宮町	小鹿野町	本庄町
大字飯能ノ内字通一丁目、通二丁目、字通三丁目、字原町字宮本町、字河原町、大字中山ノ内字前田	大字松山ノ内字本町一丁目、字本町二丁目、字本町三丁目、本町四丁目、字日吉町、字築本町、字元宿、字松葉町、字材木町一丁目、字材木町二丁目	大字小川ノ内字上町、字下町、字町裡 大字大塚ノ内字大關町、字下横町、字上宿字朽木	大字増尾、大字腰越ノ一部	字上町、字仲町、字本町、字宮ノ側、字東横町、字柳島、字番場、字丹貫、字道場、字久保本、字下平	大字小鹿野ノ内字春日町、字一丁目、字上二丁目、字原町	字上町裡、字宮本町、字泉町、字上町、字仲町、字七軒町、字本町、字仲町裡、字土取場、字女堀、字臺町、字仲道、字上北原、字中北原、字下北原、字觀音前
大字兒玉ノ内字上町、字仲町、字新町、字連雀町、字元町、大字八幡山、						

南埼玉郡				北埼玉郡				大里郡	
粕壁町	大澤町	越ヶ谷町	岩槻町	羽生町	加須町	長野村	忍町	深谷町	熊谷町
新々田、三枚橋、新宿組、仲町、上町、横町、寺町、陣谷、内出	字一丁目、字二丁目、字三丁目、字一丁目横町	字袋、字本町一丁目、字本町二丁目、字本町三丁目、字新石町一丁目、字新石町二丁目、字新石町三丁目、	大字岩槻ノ内市宿、久保宿、横町	大字羽生ノ内字町(南谷ヲ除ク)、大字上羽生ノ内(蓮河原及以杉ノ下ノ一部ヲ除ク)	大字加須ノ内字上町 字仲町、字下町、大字久下ノ内字樋ノ口、	字櫻町、字一丁目、字二丁目、	大字忍ノ内字天満、字北谷南町、字内行田新道、字内行田新店、大字行田、大字佐間ノ内天神町通、	大字深谷大字西島(字田中字薬師堂ヲ除ク)、大字東大沼ノ内字河原、大字萱場、	大字熊谷ノ内字本町、字仲町、字筑波町、字櫻町、字築町、字聖天町、字泉町、字停車場道、字合羽原、字墨江町、字鎌倉町、字竹町、大字石原ノ内字下石原

久喜町	久喜新、久喜本（字馬場ヲ除ク）
幸松村	大字八丁目
幸手町	大字幸手ノ内字馬之助町（三ツ家ヲ除ク）字中町、字裡町、字久喜町（砂場ヲ除ク）字荒宿（中新田浪寄ヲ除ク）大字内國府間ノ内字長戸呂ノ一部
杉戸町	大字杉戸ノ内字新町、字上町、字中町、字下町、字横町、字河原大字清地ノ内上清地、字中清地、字下清地
栗橋町	字上町、字中町、字下町、字船戸町、字野道ノ一部
上高野村	大字上高野ノ内字志手、字仲、字茶屋、字菩薩ノ一部

（廿三年六月縣令第三十六號ヲ以テ秩父郡大宮町大里郡深谷町北埼玉郡羽生町改正）
（三十三年八月縣令第五十一號ヲ以テ長野村蒲生村幸松村道加桶川町鴻巣町草加町所澤町水庄町加須町羽生町粕壁町幸手町改正）
（三十三年九月縣令第五十四號ヲ以テ桶川町改正）
（三十四年三月縣令第三十六號ヲ以テ蒲生村削除岩槻町越ヶ谷町大澤町粕壁町久喜町改正）
（三十四年五月縣令第四十九號ヲ以テ北足立郡大宮町改正）
（三十四年八月縣令第六十八號ヲ以テ川越町改正）

○縣令甲第四十二號 明治二十四年三月三十一日
明治十八年甲第十八號墓地埋葬取締細則左ノ通改定ス

墓地埋葬取締細則

- 第一條 墓地火葬場ヲ新設廢止又ハ墓地ヲ取廣メ若クハ火葬場ヲ改造セント欲スル者ハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出又改葬ヲ爲シ又ハ碑表（諸銘傳等ノ碑文ヲ刻スル者ヲ云フ單ニ死者ノ姓名族籍官位勳爵ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ但火葬場ニシテ火爐烟筒等ノ裝置ヲ爲ス者ハ落成ノ上所轄警察官署ノ検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス（廿五年縣令甲第四）前條願書ニハ各其理由及地名番號坪數等ヲ記載シ其他繪圖面ヲ添ヘ町村長ノ與印ヲ受ケ建碑願書ニハ碑文ノ稿本ヲモ添付スヘシ
- 第二條 墓地ハ已ヲ得サル事情アルニアラサレハ之ヲ取廣メ又ハ新設スルコトヲ得ス又國道縣道鐵道河川及人家ヲ距ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障害ナキ地ニアラサレハ之ヲ新設スルコトヲ得ス
- 第三條 墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽ウヘシ墓地ノ内ニハ從前現存ノモノヲ除クノ外一丈以上トナルヘキ竹木ヲ栽エ又ハ高キ塀牆ヲ設ク可カラス
- 第五條 墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス
- 第六條 墓標碑表ハ擅ニ之ヲ轉移シ又ハ除却スルコトヲ得ス
- 第七條 墓地火葬場ハ種族宗旨ノ何タルヲ問ハス其地ニ本籍ヲ有シ若クハ其地ニ於テ死シタル者及管理者ノ許諾ヲ得タル者ハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラスト雖モ所轄警察官署ノ承認ヲ受クルニアラサレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス 但死刑ニ處セラレタル者ハ墓

地ノ一隅ヲ區畫シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第八條 墳穴ハ深六尺以上タルヘシ

第九條 火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ルコト凡ソ百二十間以上ニシテ風(其地方ニ於テ平常最モ多キ風ヲ云フ)上ニ位セサル地ヲ選ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塹塼ヲ設クヘシ 但人家ヲ距ルコト

五町以上又ハ五町以上ニアラサルモ臭氣到達ノ恐レナキ場所ハ此限ニアラス(廿六年縣令甲第五十三號ヲ以テ但書改正)

第十條 火葬ハ日没後之ヲ行フヘシ 但傳染病者ノ死屍ハ日没前又ハ死後二十四時間内ト雖モ埋火葬スルコトヲ得

第十一條 墓地火葬場ニハ管理者ヲ置キ其住所姓名ハ所轄警察官署及町村役場ニ届置クヘシ

第十二條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ町村長ノ認許證ヲ受クヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師又ハ産婆ノ死産證書若ハ死胎檢案書ヲ添ヘテ前項ノ認許證ヲ受クヘシ

管理者ハ前二項ノ認許證ヲ受領スルニ非レハ埋葬又ハ火葬ヲ爲サシムルコトヲ得ス(三十三年九月縣令第五十六號ヲ以テ改正)

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ前條ノ證書ヲ受取リタルトキハ編纂シテ三箇月毎ニ所轄警察官署ノ檢閱ヲ受ケ之ヲ町村役場ニ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖面及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 本則第一條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 本則第十二條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五

錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 本則第八條第十條及墓地及埋葬取締規則第三條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第十八條 本則第六條第十三條及墓地埋葬取締規則第六條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第三十四號 明治三十三年六月一日

牛乳營業取締規則施行細則左ノ通定ム

牛乳營業取締規則施行細則

第一條 牛乳搾取營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其改築増築修繕移轉其他支所ヲ設クルトキ亦同シ

一 牛乳搾取所ノ位置坪數及近傍ノ形狀ヲ表示セル圖面

二 牛乳搾取所ノ構造仕様書並ニ圖面

三 乳牛、種牛ノ頭數

第二條 乳製品製造營業ヲ爲サントスル者ハ其製造所ノ位置構造仕様書圖面並ニ乳製品ノ種類製造方法ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其改築増築修繕移轉其他支所ヲ設クルトキ亦同シ

第三條 牛乳請賣營業ヲ爲サントスル者ハ牛乳搾取營業者ノ連署ヲ以テ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ其買受先ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 第四條 牛乳搾取營業者搾取所ノ外ニ販賣所ヲ設ケタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 第五條 牛乳營業者廢業休業死亡改氏名其他異動ヲ生シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ三日以内ニ縣廳ニ届出ヘシ
- 第六條 牛乳搾取所ノ位地ハ土地高燥ニシテ敷地内ニ適當ノ飲料水ヲ有スルコトヲ要ス
- 第七條 牛乳搾取所ハ人家稠密ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得ス
牛舎ハ隣地境界ヨリ五間以上運動場ハ隣地境界ヨリ三間以上ノ距離ヲ有スルコトヲ要ス 但其隣地山林河川沼澤等ニシテ家屋ヲ建設シ能ハサル場所ハ此限ニ在ラス
- 第八條 牛乳搾取所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一 牛乳搾取所ノ周圍ハ適當ノ圍ヲ繞ラシ運動場ノ周圍ニハ駒止柵ヲ造リ適當ノ排水法ヲ設クルコト
二 牛舎ノ屋根ニハ適當ノ汚氣抜ヲ設ケ周壁ニハ氣孔ヲ穿チ且ツ内面ハ氣孔ヲ除キ土臺上五六尺ノ所ニ至ル迄板張リト爲スコト
三 牛舎ハ一頭毎ニ幅五尺以上奥行八尺以上ノ面積ヲ有シ尙前面四尺以上後面二尺以上ノ餘地ヲ存スルコト
四 牛舎ノ地盤ハ石、煉瓦、セメント、漆喰、敲、其他不滲透質ノ材料ヲ以テ敷設シ尙其上ニ一寸以上ノ厚板ヲ張り適當ノ勾配ヲ付スルコト
五 尿樋ハ不滲透質ノ材料若クハ木材ノ掘樋ヲ以テ作り適當ノ勾配ヲ付シ尿水ヲ舎外ニ導ク設備ヲナスコト

- 六 尿溜ハ粘藥ヲ施シタル變其他不滲透質ノ材料ヲ以テ舎外三尺以上ノ地ニ設ケ且ツ其周圍ハ地盤ヨリ高サ三寸以上トシ雨水ノ流入ヲ防キ適當ノ雨除ヲ付スルコト
- 七 糞及汚物溜ハ不滲透質ノ材料若クハ厚板ヲ以テ牛舎ヲ距ル三尺以上ノ地ニ設ケ掃除口ハ桶蓋ト爲シ適當ノ屋根ヲ付スルコト
- 第九條 牛乳搾取所ニハ牛乳取扱室ヲ設クヘシ
牛乳取扱室ハ寒冷ノ場所ヲ選ミ日光ノ直射ヲ避ケ且ツ塵芥ノ混入其他腐敗ヲ防クノ裝置ヲナスヘシ
- 第十條 乳製品製造所ノ位置ハ土地高燥ニシテ適當ノ飲料水ヲ有シ且ツ其周圍ニハ適當ノ塙塙ヲ設ケ他所トノ區畫ヲ爲スヘシ
- 第十一條 牛乳搾取所、乳製品製造所ハ常ニ清潔ニ掃除シ尿、尿及ヒ汚物溜ハ充溢セサル様時々搬出スヘシ
- 第十二條 牛乳搾取所ニ飼養セル牛ノ糞糞ハ常ニ清潔ナルモノヲ用ユヘシ
- 第十三條 牛乳搾取所ニハ乳牛及乳牛用ニ充ツヘキ種牛牝牛ノ外之ヲ飼養スルコトヲ得ス
- 第十四條 牛乳營業者乳牛種牛ヲ取得シ又ハ借受タルトキハ獸醫ヲシテ檢診セシメ第一號様式ニ依リ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 第十五條 前項ノ場合ニ於テ獸醫ノ檢診ヲ受ケサル牛ハ牛乳搾取所ニ之ヲ牽入ル、コトヲ得ス
- 第十六條 牛乳營業者ハ乳牛種牛ノ讓渡斃死其他異動アルトキハ第一號様式ニ依リ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但斃死届書ニハ獸醫ノ檢案書ヲ添フヘシ
- 第十七條 牛乳搾取所内ニ飼養スル乳牛種牛ニ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ角若クハ蹄ニ検査番號ヲ烙記セシムルモノトス

第十七條 牛乳搾取所ノ飼牛ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ檢診セシメ結核、痘瘡、「アクチノミコ
ーゼ」膿毒症、尿毒症又ハ敗血症ニ罹リタル牛ニハ其角若クハ蹄ニ病字ヲ烙記セシムルモノトス
前項ノ病牛ハ傳染性ノ疾病ニ非スト雖牛乳搾取所内ニ之ヲ飼養スルコトヲ得ス

第十八條 牛乳搾取營業者ハ其飼牛牛乳營業取締規則第五條第一項ノ疾病ニ罹リ若クハ其疑ヒアルト
キハ速ニ獸醫ヲシテ診察セシメ檢査番號名稱種類毛色年齢及病名ヲ記シ獸醫ノ診斷書ヲ添へ所轄警
察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第十九條 牛乳營業取締規則第五條第二項ノ毒藥、劇藥ハ砒素、吐瀉石、阿片、藜蘆根、「アルカロイド」
ノ類トス

第二十條 飼牛ハ日々清潔ニ梳拭シ適當ノ運動ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 牛乳搾取所ニハ第二條様式ノ牛籍簿ヲ備へ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第二十二條 牛乳營業者ハ牛乳、乳製品若クハ其容器量器ヲ取扱フ者ノ身体被服ヲ清潔ニ爲サシメ搾
乳スルトキハ石鹼及清水ヲ以テ兩手ヲ洗滌シ塵芥其他汚物ノ容器ニ混入セサル様注意セシムヘシ

第二十三條 當該官吏又ハ衛生技術員ハ牛乳、乳製品若クハ其容器量器ノ取扱ヲ爲ス者牛乳營業取締規
則第十二條ニ掲クル疾病ノ疑アリト認ムルトキハ醫師ノ診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十四條 牛乳ヲ搾取スルトキハ乳牛ノ乳房及其周邊ヲ清水ニテ洗滌シ清潔ナル白布ヲ以テ拭淨ス
ヘシ搾乳ヲ終リタルトキ亦同シ

第二十五條 牛乳ヲ搾取シタルトキハ清潔ナル白布ノ類ヲ以テ濾過シ覆蓋アル容器ニ貯藏シ牛乳取扱
室ニ於テ配達容器ニ移シ直チニ密閉スヘシ

第二十六條 牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在テハ百分中二、九以上脱脂乳ニ在テハ百分中〇、五以上トス

第二十七條 乳製品ノ容器ニハ其種類及其製造者ノ住所氏名及製造年月日ヲ記スヘシ

第二十八條 牛乳營業者ハ前月分ノ牛乳搾取又ハ乳製品ノ製造及販賣高ヲ計算シ所轄警察署又ハ警察
分署ヲ經テ毎月十日迄ニ縣廳ニ届出ヘシ

第二十九條 牛乳營業者ハ牛乳、乳製品配達人ノ住所、氏名年齢ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ヘ届
出ヘシ

第三十條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ配達人ヲシテ第三號様式ノ證票ヲ携帯セシムヘシ

第三十一條 第四條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十七條第十八條第二十條第
二十一條 第二十二條第二十四條第二十五條第二十七條第二十九條及第三十條ニ違背シ又ハ第二十
三條ノ指示ニ從ハサルモノハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第三十二條 本則ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

第三十三條 本則施行前ニ認可シタル牛乳搾取所ニ關シテハ將來改築増築若クハ移轉等ノ場合ヲ除ク
外第七條第八條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 明治三十二年三月埼玉縣令第二十四號牛乳營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第一號様式

乳牛(種牛)異動届

番檢	號查	名 稱	種 類	毛 色	年 出	月 産	産 地	異動事由	前所有者住所氏名
----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	----------

右及御届候也

何郡何町(村)大字番地

年、月、日

牛乳營業者 氏 名 印

知事宛

異動ノ事由及年月日欄内ニハ買入、賣却、讓渡、讓受、貸與、交換、借受、斃死、放牧、支所移、預ケ等異動ノ年月日及事由ヲ記入スヘシ

第二號様式

毛色	種類	名稱	檢查番號	産地	前所有者	住所

搾取所
年 月 日
= 牽入タル

年 齡	特 徴	病 歴	備 考

欄内ニハ賣却、讓渡、貸與、交換、放牧、預ケ、支所移、分娩、斃死、搾乳禁止、使用禁止等ノ事項及年月日ヲ記入スヘシ

第三號様式

表 牛乳(乳製品) 配達人
住所 氏名

裏 牛乳營業者 氏名
住所

木製ニシテ堅三寸横二寸

○縣令第六十一號 明治三十四年七月十九日
氷雪營業取締規則施行細則左ノ通定ム

氷雪營業取締規則施行細則

第一條 氷雪採取製造販賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ但飲食用ノ氷ヲ製造販賣セントスル者ハ製造用水ヲ採取添付スヘシ

一 使用ノ目的
二 採取、製造及貯藏場ノ位置構造坪數其ノ圖面(隣地ノ形狀ヲ明
示スルヲ要ス)

三 製造場及水道ノ構造並圖面

四 製造用水(河水泉水井水ノ別及所在町
村大字地番ヲ記スルヲ要ス)

五 本則第三條ノ距離

氷雪採取製造販賣營業者ノ承繼人其ノ被相續人又ハ讓渡人ニ於テ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セスシテ營業ヲ爲サントスルトキハ前項各號ノ事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第二條 氷雪卸賣營業ヲ爲サントスル者ハ其ノ採取、製造ノ場所採取、製造營業者ノ住所氏名及貯藏場ノ構造ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ但縣外ニ於テ貯藏セル氷雪ヲ卸賣セントスルトキハ當該地方廳ノ認可書寫ヲ添フヘシ

第三條 氷雪、採取、製造場ハ耕地ノ境界ヨリ三尺以上人家畜舎道路鐵道ヨリ二十間以上墓地火葬場斃獸捨場化製場工場其他不潔ノ場所ヨリ六十間以上ノ距離ヲ有スヘシ

第四條 氷製造場ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 製造場ハ石、煉瓦「セメント」漆喰敲又ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ築造スルコト

二 製造場ノ周邊ハ前號ニ準シ地面ヨリ高ク築造スルコト

三 山脚丘陵ニ沿ヒタル部分ニハ幅二尺以上深三尺以上ノ溝渠ヲ穿ツコト

四 排水口ヲ設ケ殘水ノ排泄ヲ自在ナラシムルコト

河川又ハ寄洲ニ製造場ヲ設クルトキハ清潔ナル土地ニ限リ前項各號ノ規程ヲ斟酌スルコトヲ得

第五條 水道ハ陶器鐵管又ハ木竹材ヲ以テ構造シ製造場ニ注ク一端ニ濾過裝置ヲ設クヘシ

第六條 氷雪貯藏場ハ石、煉瓦「セメント」漆喰敲又ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ敷設シ適宜ノ勾配ヲ付スヘシ

第七條 氷製造販賣營業ノ認可ヲ受ケタル者前三條ノ工事竣成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

第八條 前五條ノ規定ハ飲食用ノ目的ニ非ル氷雪ニハ之ヲ適用セス

第九條 飲食用ノ氷雪ヲ採取、製造販賣スル營業者ハ飲食用ニ非ル氷雪ヲ採取製造販賣スルコトヲ得ス

第十條 氷雪、採取、製造販賣營業者其ノ貯藏セル氷雪ヲ販賣セントスルトキハ採取、製造及貯藏ノ場所並ニ數量ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ其縣外ニ於テ採取、製造セル氷雪ヲ輸入シテ貯藏セル者亦同シ但飲食用ニ非ル氷雪ハ其採取、製造及貯藏ノ場所並ニ數量ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ前項前段ノ場合ニ於テハ警察官署ハ警察官吏ヲシテ貯藏場ニ就キ場内各部ノ氷雪ヲ合セ約二貫目ヲ採取シ容器ニ封印ヲ施シ縣廳ニ送付スヘシ

第十一條 飲食用ニ非ル氷雪ヲ販賣セントスルトキハ其都度警察官吏ニ申出ヘシ

飲食用ニ非ル氷雪ハ百貫目以下ノ數量ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十二條 飲食用ニ非ル氷雪ハ其ノ容器又ハ被包ニ非飲食用ノ文字ヲ標記スヘシ

第十三條 氷雪請賣營業ヲ爲サントスル者ハ製造又ハ卸賣營業者ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ製造又ハ卸賣營業者ヲ變更セントスルトキ亦同シ但縣外ノ製造又ハ卸賣營業者ヨリ氷雪ヲ請賣セントスル者ハ當該地方廳ノ認可書寫ヲ添フヘシ

第十四條 氷雪營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但請賣營業者ハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

營業者死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ前項ノ區別ニ依リ届出ヘシ

第十五條 第七條第九條第十條第一項第十一條乃至第十四條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十六條 本則中雪ニ關スル規定ハ明治三十五年一月一日ヨリ施行ス

第十七條 明治三十三年北埼玉縣令第四十六號氷雪營業取締規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

○縣令第四十三號 明治三十三年七月二十四日

清涼飲料水營業取締規則施行細則左ノ通定ム

清涼飲料水營業取締規則施行細則

第一條 清涼飲料水製造販賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製造原料及用水ヲ添付シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一 清涼飲料水ノ種類及製造原料並ニ配合分量

二 製造場ノ位置(町村字名地番ヲ記ス)及構造ヲ詳記シタル圖面

三 調製品ノ種類最大壓力個數及其形狀ヲ模寫セル圖面

四 容器及量器ノ種類

五 用水(非水又ハ泉水等ノ別及所
在町村字名地番ヲ記ス)

清涼飲料水營業者ノ承繼人其被相續人又ハ讓渡人ニ於テ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セスシテ營業ヲ爲サントスルトキハ前項各號ノ事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第二條 ラム子製造場ノ地盤ハ石、煉化、セメント漆喰敲若ハ厚板ヲ以テ築造シ排水溝ヲ設ケ場内ハ光線ノ射入空氣ノ流通ヲ自在ナラシムヘシ

第三條 清涼飲料水調製器ノ壓力ヲ受クル部分ハ適當ナル危險豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ其瓶詰ニ際シ容器ニ受クル壓力ニ付テモ亦同シ

混合器ニハ檢壓器ヲ備フヘシ

第四條 炭酸含有ノ清涼飲料水製造ニ用ユル瓦斯ハ適當ナル除害液ヲ貯ヘタル器中ヲ通過セシムルコトヲ要ス但精製炭酸瓦斯ヲ用ユルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ除害液ハ時々新タナルモノト交換スヘシ

第五條 清涼飲料水製造者ハ容器ノ種類ニ依リ清涼飲料水營業取締規則第六條ノ封緘ヲ施サスシテ販賣セントスルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ノ認可ヲ受クヘシ其容器ニ移サスシテ小分販賣ヲ爲サントスルトキ亦同シ

前項ノ容器ニハ清涼飲料水營業取締規則第六條ノ票紙ヲ適宜ノ部分ニ貼付スヘシ

第六條 清涼飲料水ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ其種類製造者ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察署又ハ警

察分署ニ届出ヘシ其製造者ヲ變更シタルトキ亦同シ
第七條 清涼飲料水製造營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

請賣營業者前項ノ場合ニ於テハ十日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ
死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ前二項ノ規定ニ依リ届出ヘシ

第八條 第三條乃至第七條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
附 則

第九條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス但ラム子ニ關シテハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十條 本則施行前嗜好飲料取締規則ニ依リ製造營業ノ認可ヲ受ケ又ハ請賣届出ヲナシタル者ハ第一條ニ依リ認可ヲ受ケ又ハ第六條ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス

第十一條 明治三十一年埼玉縣令第二十六號嗜好飲料取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○縣令第四十五號 明治三十三年七月二十四日

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物、化粧品、齒磨、小兒玩弄品(繪双紙、錦繪、色紙ヲ包ム)ノ製造ニ着色料ヲ使用スル者ハ其物品ノ種類及着色料ノ名稱ヲ記載シ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ其届出ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二條 前條ノ營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ
死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ十日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第三條 第一條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 本令施行前着色料取締規則ニ依リ着色料使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ第一條ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス

第五條 明治三十一年埼玉縣令第二十七號着色料取締規則ハ之ヲ廢止ス

○縣令第二十六號 明治三十二年三月二十九日

獸肉販賣取締規則左ノ通定ム

獸肉販賣取締規則

第一條 獸肉トハ牛肉馬肉羊肉豚肉及野獸ノ肉類ヲ總稱ス

第二條 獸肉販賣營業ヲ爲サントスル者ハ其住所氏名及獸肉ノ種類ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ 但行商ヲ爲サントスル者ハ本條ノ手續ニ依リ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 獸肉ハ屠獸検査官吏ノ檢印アルモノニ非レハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス
他ノ管内ヨリ輸入スル獸肉ニ付テハ其種類片量及買入先ヲ記シ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出檢印ヲ受クルニ非レハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第四條 野獸ハ獵具ヲ以テ捕獲シタルモノニ非レハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス 但野獸ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

第五條 馬肉ヲ販賣スルモノハ他ノ獸肉ヲ販賣スルコトヲ得ス 但販賣店ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

第六條 獸肉貯藏場ノ構造ハ日光ノ直射ヲ避ケ空氣ノ流通ヲ自在ナラシムヘシ

第七條 獸肉貯藏場ノ地盤ハ漆喰或粘土若ハ板ヲ以テ敷設シ洗滌掃除ニ便ニスヘシ

第八條 獸肉ノ運搬ニハ清潔ナル麻布類若ハ覆蓋アル容器ヲ用ヒ其下部ニ血受ヲ備フヘシ

第九條 獸肉貯藏場運搬器其他ノ器具ハ清潔ニ洗滌掃除スヘシ

第十條 主務官吏ハ隨時販賣獸肉ヲ検査シ腐敗又ハ不良ノ獸肉ト認ムルトキハ其販賣ヲ禁止シ之ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

前項検査ノ爲メ消費シタルモノハ營業者ニ於テ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條 腐敗又ハ不良ノ獸肉及骨腸其他ノ汚物ハ豫メ警察官吏ノ指示ニ從ヒ處置スヘシ

第十二條 獸肉販賣營業者ハ店頭ニ左ノ看板ヲ掲クヘシ

牛 羊 豚 馬 肉 野 獸	營業者住所 氏 名	豎 三 尺 幅 七 寸
---------------------------------	-----------------	----------------------------

第十三條 獸肉販賣營業者肉類配達人ヲ使用スルトキハ左ノ票札ヲ携帯セシムヘシ

三 寸

表 配 達 人 ノ 證	寸 二	裏 牛 羊 馬 肉 販 賣 營 業 者 氏 名
----------------------------	--------	----------------------------------------------------------

第十四條 獸肉行商者ハ行商ノ際免許鑑札ヲ携帯スヘシ

第十五條 獸肉販賣營業者廢業死亡又ハ住所氏名ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十六條 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第十條及第十一條ノ命令ニ違背シ又ハ他ノ肉類ヲ混合シ若ハ之ヲ詐稱シテ販賣シタル者ハ五日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第三條第四條及第五條ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第十七條 第六條第七條第九條第十二條第十三條及第十四條ニ違背シタル者ハ壹圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 明治二十三年(三月)縣令甲第二十四號ハ之ヲ廢止ス

○縣令第五十號 明治三十六年八月七日

飲食物ノ調製、販賣、又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ハ其ノ營業上ニ關シ左ノ各號ヲ遵守スヘシ但法令ニ特別ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ從フ

一 飲食物ヲ調製スル場所又ハ客ニ飲食セシムル場所竝ニ飲食器、調製器、容器、覆蓋ハ常ニ清潔ニ爲スヘシ

二 結核、瘧病、微毒、又ハ傳染病ニ罹レル者ヲシテ飲食物ノ調製若ハ取扱ニ從事セシムルコトヲ得ス營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦同シ

三 飲食物ハ密閉シタル容器ニ入レタルモノ、外容器ニ覆蓋ヲ設ケ又ハ布片ヲ以テ被フ等塵埃昆蟲等ノ附着ヲ防クニ足ル適當ノ裝置ヲ爲スニ非ンハ陳列、配達、行商又ハ貯藏スルコトヲ得ス但炙煮

シ洗滌シ又ハ外皮ヲ剝離スルニ非レハ直ニ食用スルコト能ハサルモノハ此限ニ在ラス
 前項第一號ニ違背シテ警察官吏若ハ衛生技術員ノ督促ヲ受クルモ之ニ從ハサル者又ハ第二號第三號ニ
 違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 明治二十九年ハ埼玉縣令第三十四號ハ之ヲ廢止ス
 縣令第五十號參照

埼玉縣令第三十四號(明治二十九年八月二十八日)
 店頭ニ露列ノ行商飲食物ニハ覆蓋ヲ設クヘキノ件

○縣訓令第四十八號 明治二十九年五月十二日

郡役所 警察署
 警察分署 町村役場

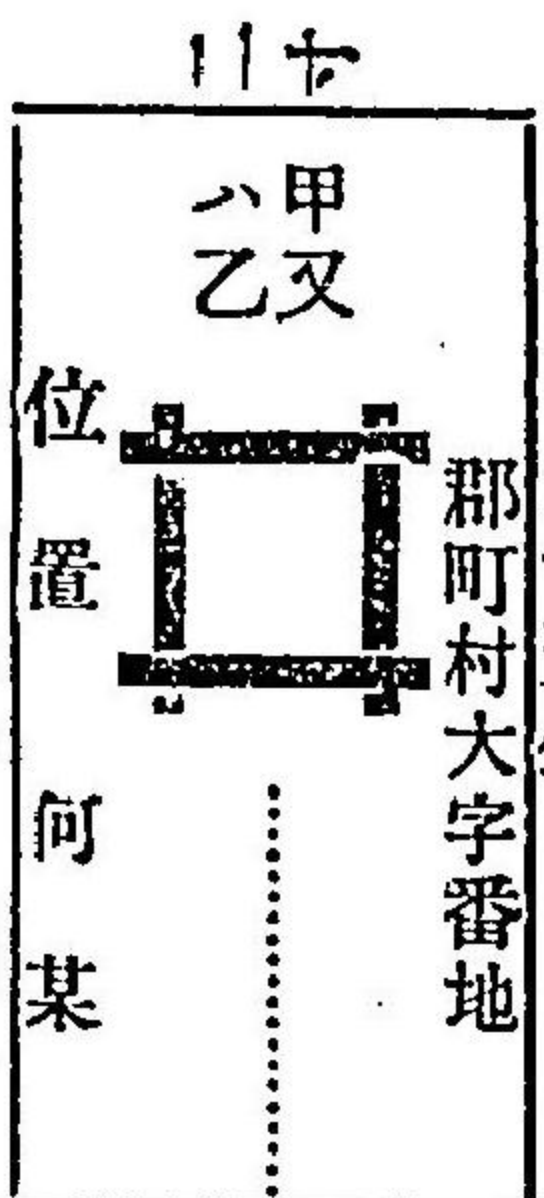
飲料水試驗施行手續左ノ通定ム但明治十九年訓令第三十八號ハ廢止ス

飲料水試驗施行手續

- 第一條 飲料水試驗施行ノ期日ハ其都度試驗官ヨリ各町村役場ニ通知セシムヘシ
- 第二條 町村役場ニ於テハ試驗官ノ通知ニ依リ豫メ試驗所其他試驗ニ要スル準備ヲ爲シ置クヘシ
- 第三條 飲料水試驗ノ成績ヲ別テ左ノ四種トス
 - 甲 良水
 - 乙 不良水
 - 丙 不良水
 - 丁 不適合

乙種ハ濾過シ丙種ハ煮沸スルニ非サレハ飲料ニ適セス丁ハ飲料ニ供シ有害トス
 第四條 町村役場ニ於テハ飲料水試驗ノ成績ニ依リ各所有者ヲシテ左ノ式ニヨリ其水質及氏名ヲ記シ
 タル木札ヲ井戸側ニ掲ケシムヘシ

二寸五分



甲良水(乙不良水濾過ヲ要ス) 丁不適合 有害

第五條 試驗ノ成績ニ依リ井戸又ハ井戸側其他ノ改造若クハ修繕ヲ必要トスル時ハ各所有主ヲシテ改
 造若クハ修繕ヲナサシムルコトアルヘシ
 第六條 公衆ノ共用ニ係ル飲料水ニ在テハ第四條第五條ノ施設ハ町村ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

○縣令第四十四號 明治三十三年七月二十四日
 警察官署ハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル
 左ノ職權ヲ行フコトヲ得

- 一 物品ヲ検査シ試驗ノ爲メ必要ナル分量ニ限リ無償ニテ收去スルコト
- 二 小賣店行商又ハ配達中ニアル價格五圓未満ノ物品ノ販賣若クハ使用ヲ禁止シ又ハ其物品ヲ廢棄
セシメ若ハ直接之ヲ廢棄スルコト(三十四年七月縣令第
 六十二號ヲ以テ追加)
- 三 衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依ル處置ヲ許可スルコト

○縣令第二十五號 明治三十二年三月二十九日
屠獸場取締規則左ノ通定ム

屠獸場取締規則

- 第一條 屠獸場ハ食用牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス
牛馬羊豚ハ之ヲ販賣スルモノト自家食料ニ供スルモノトヲ問ハス屠獸場ニアラサレハ之ヲ屠殺スルコトヲ得ス
- 第二條 屠獸場ハ豫メ指定シタル土地ニ非レハ之ヲ設置スルコトヲ得ス
- 第三條 屠獸場ヲ設置セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其改修増設又ハ變更ヲ要スルトキ亦同シ
 - 一 屠獸場ヲ設置スヘキ町村名大字番地坪數並ニ圖面及其近傍見取圖
 - 一 屠獸場ノ構造仕様書並ニ圖面
 - 三 人家道路河川及飲料水ノ距離
 - 四 竣工期日
- 第四條 屠獸場ノ構造竣工シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ前項ノ検査ヲ受ケサルモノハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 屠獸場ノ賃借若ハ讓渡ハ當事者連署ヲ以テ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ屠獸場設置ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 屠獸場設置ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ工事ニ着手セザルトキ
 - 二 竣工期日ヲ經過シ落成セザルトキ

- 三 休業一箇年以上ニ及ヒタルトキ
- 第七條 屠獸場ノ廢止若ハ休業又ハ營業者ノ死亡改氏名轉居其他異動アルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 第八條 屠獸場ノ構造ハ左ノ規定ニ從フヘシ
 - 一 人家河川ヲ距ル六十間道路(縣道以上及ヒ之ニ準スル道路)ヲ距ル三十間以上タルヘシ
 - 二 周圍ニハ堅牢ナル柵欄又ハ土手若ハ塙塙ヲ設クヘシ
 - 三 屠獸場内ニハ屠獸検査所繋留所屠室及検査官吏詰所ヲ設備スヘシ
 - 四 繋留所ノ地盤ハ石ヲ以テ敷設シ繼目ハ「セメント」ニテ接合シ又ハ「コンクリート」漆喰散若ハ厚板(一寸以上以下皆之ニ準ス)ヲ以テ構造シ且適當ノ勾配ヲ附シ石「コンクリート」漆喰散又ハ厚板ヲ以テ糞尿溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ
 - 五 屠室ノ地盤ハ前項ニ準シテ構造シ其内部ノ四壁ハ石造若ハ煉瓦造ニ係ルモノノ外總テ板ヲ張リ「ペンキ」ヲ塗ルヘシ
 - 六 糞尿溜及汚物溜ハ陶器又ハ不滲透質ノモノヲ用ヒ屠室外六尺以上ノ地ニ之ヲ設ケ周圍ハ遍ク「セメント」「コンクリート」漆喰散又ハ粘土ヲ以テ填塞シテ且適當ノ覆蓋ヲ設クヘシ
- 第九條 屠獸場ノ構造前條ノ規定ニ從ハス其他危害アリト認ムルトキハ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ其使用ヲ禁止若ハ停止スルコトアルヘシ
- 第十條 屠獸場ハ常に清潔ニ掃除シ内臟毛皮骨腸其他血液汚水等ハ其都度除去洗滌スヘシ
- 第十一條 屠獸ハ其產地種類年齢毛色及前所有者ノ住所氏名ヲ記シ屠殺ノ前日所轄警察署又ハ警察分署ニ届出検査ヲ受クヘシ

前項ノ検査ヲ受ケサルモノハ之ヲ屠殺スルコトヲ得ス

第十二條 屠獸ノ検査ハ警察官吏立會屠獸検査獸醫ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第十三條 屠獸検査獸醫ニ於テ病獸ト認メタルトキハ屠殺ヲ禁シ角若ハ前蹄ニ禁字ヲ烙印スルモノトス

前項ノ烙印ハ其病獸健康ニ復シ警察官吏屠獸検査獸醫立會検査ヲ經ルニ非サレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス

第十四條 屠殺ヲ禁止セラレタル病獸(豚ヲ除ク)ヲ讓渡シ又ハ飼養地ヲ轉シ若ハ斃死シタルトキハ直ニ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第十五條 屠殺セシ獸肉ハ屠獸検査獸醫之ヲ検査シ檢印ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ屠獸ノ筋肉内臟ニ病患アルコトヲ發見シタルトキハ其獸肉ノ全部若ハ一部ノ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十六條 販賣ヲ禁止セラレタル獸肉及内臟其他ノ處置ハ警察官吏又ハ屠獸検査獸醫ノ指示ニ從フヘシ

第十七條 屠獸場ノ屠獸時間ハ午前八時ヨリ午後三時迄トス 但屠殺ノ際ハ門戸ヲ閉鎖スヘシ

第十八條 屠殺料ハ屠殺ノ種類ニ依リ其額ヲ定メ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十九條 屠獸營業者ハ正當ノ事故ナクシテ屠殺ノ求ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 屠肉ノ運搬ハ清潔ナル麻布類若ハ覆蓋アル容器ヲ用ヒ其下部ニ血受ヲ備フヘシ

第二十一條 第三條ノ許可ヲ受ケス若ハ第六條ニ違背シテ營業ヲ爲シ又ハ第九條第十六條ノ命令ニ違

背シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第一條第二項第四條第二項第九條第十一條第二項第十三條及第十四條ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第二十二條 第五條第七條第十條第十八條第十九條及第二十條ニ違背シタル者ハ壹圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十三條 従前ノ屠獸場ニシテ第七條ノ規程ニ適セサルモノハ第三條ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ改造若ハ修繕ヲ願出ヘシ前項ノ期限ヲ經過シ願出サルモノハ従前許可ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 従前ノ屠獸場ハ第二條指定地ノ外ト雖モ前條第一項ノ規定ニ從フトキハ之ヲ存スルコトヲ得

第二十五條 明治二十一年(六月)縣令第四十一號食用屠獸取締規則ハ之ヲ廢止ス

○警示第二十六號 明治三十二年四月二十六日

警察署 警察分署

屠獸場取締規則施行細則左ノ通定ム

屠獸場取締規則施行細則

第一條 警察署長又ハ分署長ハ屠獸場取締規則ニ依ル願届ヲ受ケタルトキハ速ニ進達スヘシ 但願届ノ事項ニ付意見アルトキハ副申スヘシ

第二條 屠獸場取締規則第六條又ハ第九條ノ事實アルトキハ直ニ報告スヘシ

第三條 警察署又ハ警察分署ニ於テ屠獸場取締規則第十一條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ届出ノ翌日屠獸場ニ於テ第十二條ノ検査ヲ爲サシムヘシ

第四條 屠獸場取締規則第十三條第一項ニ依リ屠殺ヲ禁シタル病獸ニハ警察官吏立會検査醫ニ於テ左ノ烙印ヲ爲スヘシ

S. 禁

第五條 屠殺セシ獸肉ニハ屠獸場取締規則第十五條ニ依リ警察官吏立會検査醫ニ於テ左ノ烙印ヲ爲スヘシ



前項ノ烙印ハ獸肉ノ各部ニ之ヲ爲シ半身十二箇所ヨリ下ルコトヲ得ス

第六條 警察官吏ハ屠獸場取締規則第十五條第二項ニ依リ販賣ヲ禁シタル獸肉及内臟等ハ營業者ヲシテ直ニ棄却セシムヘシ

○縣告示第七十五號 明治三十二年四月十五日

屠獸場取締規則第二條ニ依リ左ノ通り指定ス

- | | | | | |
|------|-----|------|------|-----|
| 北足立郡 | 浦和町 | 大宮町 | 鴻ヶ谷町 | 志木町 |
| 入間郡 | 川越町 | 入間川町 | 所澤町 | 飯能町 |
| | | | | 越生町 |

- | | | | | |
|------|-----|------|-----|------|
| 比企郡 | 松山町 | 小川町 | | |
| 秩父郡 | 大宮町 | 小鹿野町 | 國神村 | |
| 兒玉郡 | 兒玉町 | 本庄町 | | |
| 大里郡 | 熊谷町 | 深谷町 | 寄居町 | 妻沼村 |
| 北埼玉郡 | 忍町 | 羽生町 | 加須町 | |
| 南埼玉郡 | 岩槻町 | 越ヶ谷町 | 菖蒲町 | 粕壁町 |
| 北葛飾郡 | 幸手町 | 栗橋町 | 吉川村 | 寶珠花村 |
- 以上一町村内一箇所トス 但從前ヨリ設置ノ屠獸場ハ此限ニアラス

○縣訓令第四十號 明治三十二年四月四日

警察署 警察分署

屠獸検査醫職務規程左ノ通定ム

屠獸検査醫職務規程

第一條 屠獸検査醫ハ警察署又ハ警察分署ニ屬シ其所轄内ノ屠獸検査ニ從事ス

第二條 屠獸検査醫ハ知事之ヲ命ス

第三條 屠獸検査醫ハ屠獸ノ種類及頭數ニ應シ左ノ手當ヲ給ス

牛馬羊 一頭ニ付五拾錢

豚 一頭ニ付貳拾錢

第四條 屠獸検査醫ハ毎月五日迄ニ前月中検査シタル屠獸ノ種類及頭數ヲ所轄警察署又ハ警察分署ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ

○縣令甲第四十一號 明治二十四年三月三十一日
明治十八年(七月)第四十九號獸畜死屍處分規則左ノ通改正ス

獸畜死屍處分規則

- 第一條 獸畜ノ死屍ハ斃馬捨場ニ於テ燒棄若クハ埋没スヘシ 但化製スルモノハ此限ニアラス(二十五年縣令甲第五十八號ヲ以テ但書追加)
- 第二條 斃馬捨場ヲキトキハ一町村若クハ數町村聯合シテ之ヲ設置スヘシ
- 第三條 斃馬捨場ヲ設置スルトキハ其地名番號畝步及道路鐵道川筋人家等ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出ツヘシ(二十五年縣令甲第四十二號ヲ以テ改正)
- 第四條 斃馬捨場所道路(往來繁キトコロ)鐵道川筋人家ヲ隔ツルコト凡六十間以上ノ地タルコトヲ要ス
- 第五條 斃馬捨場所少クモ一箇年六回掃除スヘシ
- 第六條 獸畜ヲ埋没スルハ牛馬羊豚ノ如キ形體大ナルモノハ六尺以上鶏犬猫兔ノ如キ小ナルモノハ三尺以上ノ地下タルヲ要ス但本條ノ定尺ニ達スル迄掘鑿シ難キ土地ニ於テハ燒棄スヘシ
- 第七條 本則第一條第三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第八條 本則第六條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

○縣令甲第五十七號 明治二十五年七月十五日
死獸化製場取締規則左ノ通定ム

死獸化製場取締規則

- 第一條 死獸化製場ハ死獸ヲ支解シ革又ハ肥料等ニ化製シ若クハ其原料ヲ製スル場所ヲ云フ
- 化製場外ニ於テハ死獸ヲ支解シ又ハ化製スルコトヲ得ス
- 第二條 化製場ヲ新設若クハ移轉セントスル者ハ其願書ニ場所及構造ノ圖面化製ノ方法書並ニ四隣地主ノ承諾書(借地ナレハ地主連署)ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ 但落成ノ上所轄警察官署ノ檢査ヲ經ルニアラサレハ開業スルコトヲ得ス
- 第三條 化製場ヲ改修セントスルトキハ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第四條 轉居改氏名又ハ廢場シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第五條 化製場ハ國縣道里道(公益道ニアラサルモノハ之ヲ除ク)鐵道河川及人家ヲ距ル凡六十間以上ニシテ衛生上障害ナキ地ニアラサレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス
- 第六條 化製場ノ構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ 但山林原野ニシテ人家公道河川ヲ距ル三町以上ノ地ナルトキハ第三項第五項ノ構造ヲ要セス
 - 一 化製場ノ周圍ニハ土手又ハ柵欄ヲ設クヘシ
 - 二 化製場内ニハ支解所汚物溜(毛骨肉腸血液等ヲ溜置ケモノ)ヲ設ク尙肉腸等ヲ煮沸スルモノハ煮沸室ヲ設クヘシ
 - 三 支解ノ地盤ハ血液等ノ滲透セサル様漆喰又ハ板敷等ヲ設クヘシ
 - 四 汚物溜ハ不滲透質ノモノヲ以テ造リ且臭氣ノ發散セサル様堅牢ナル覆蓋ヲ設クヘシ
 - 五 煮沸室ハ側面ニ臭氣ノ發散セサル様其四壁ヲ板圍若クハ塗壁トシ屋上ニ煙筒ヲ設クヘシ 但其地盤ヲ第三項ニ準シ構造スルトキハ支解所ニ兼用スルコトヲ得
- 第七條 化製場ハ常に掃除ヲ爲シ汚物溜ノ外ニ毛骨肉腸其他血液汚水等ヲ溜置クヘカラス

- 第八條 化製場ニ於テハ死獸頭數簿ヲ製シ置キ死獸ノ種類支解ノ年月日及買收又ハ讓受ニ係ルモノハ其賣讓主ノ住所氏名等ヲ登記スヘシ
- 第九條 死獸ヲ支解スルトキハ其都度所轄警察官署又ハ巡查駐在所ニ届出検査ヲ乞ヒ其肉ハ其検査員ノ指圖ニ從ヒ縦横ニ截切シ石灰又ハ石灰油ヲ撒布スヘシ
- 第十條 皮肉骨腸等ヲ他ヘ運搬スルトキハ臭氣ノ發散セサル様嚴重ナル裝置ヲ爲スヘシ
- 第十一條 死獸ノ肉ハ化製スルノ外食料ノ爲メ販賣又ハ贈與スヘカラス
- 第十二條 本則第一條第二項第二條第九條第十條第十一條ヲ犯シタル者及第七條ヲ犯シ制止ヲ肯ンセサル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十三條 本則第三條第四條第八條ヲ犯シタル者ハ五十錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

從來設置セシ肥料製造場及製草場ハ本則ニ依リ明治二十六年三月三十一日限り願出許可ヲ受クヘシ

○縣令第六十號 明治三十四年七月十九日

畜舍取締規則左ノ通り定ム

畜舍取締規則

- 第一條 本則ニ於テ畜舍ト稱スルハ厩舍及牛舍ヲ謂フ
- 第二條 本則ハ戸口稠密ノ地ニ於テ營業上牛馬ヲ飼養シ若ハ宿泊セシムル者ニ之ヲ適用ス
- 第三條 畜舍ヲ建設セントスル者ハ其ノ位置構造ヲ記シ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ改築増築其他變更ヲ要スルトキ亦同シ

畜舍ヲ廢止シタルトキハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 畜舍ノ構造ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

- 一 畜舍ノ床ハ不滲透質ノ材料(石、煉瓦、コンクリ、
ト漆喰、硝子類)又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ敷設シ適宜ノ勾配ヲ付スルコト
- 二 糞溜ノ底ハ不滲透質ノ材料其ノ他ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ構造シ掃除口ハ挿蓋ヲ用ヒ適當ノ雨除ケヲ設クルコト
- 三 尿溜ハ釉藥ヲ施シタル陶器又ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構造シ周邊ハ地面ヨリ高クシ適當ノ雨除ヲ設クルコト
- 四 尿樋ハ不滲透質ノ材料又ハ方五寸以上ノ木材ヲ以テ造リ尿溜ニ導クノ施設ヲナスコト
- 第五條 畜舍ノ構造破損シタルトキハ速ニ改修ヲ加フヘシ
- 第六條 畜舍ハ常に清潔ニ掃除シ糞尿溜ハ充溢セサル様時々搬出スヘシ
- 第七條 第三條第五條第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第八條 本則施行前ニ建設シタル畜舍ハ第四條ノ規程ニ從ヒ明治三十四年十二月三十一日迄ニ改修加フルニ非レハ之ヲ使用スルトコトヲ得ス

○縣令五十九號 明治三十四年七月十九日

醫師開業規則左ノ通定ム

醫師開業規則

第一條 醫師開業免狀ヲ受ケントスル者ハ醫師免許規則第二條第三條及第四條ニ依リ郡役所ヲ經テ願出ヘシ

第二條 醫師開業セントスルトキハ開業地ノ郡町村大字番地ヲ記シ履歷書及ヒ開業免狀寫ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

縣外ノ開業醫師ニシテ開業地ヲ縣内ニ轉セントスルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三條 醫師開業地ヲ轉シタルトキハ新開業地及舊開業地ヲ記シ七日以内ニ新開業地ノ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ 但新舊開業地郡ノ區域ヲ異ニスルトキハ舊開業地ノ郡役所ヘモ七日以内ニ其届出ヲ爲スヘシ

醫師開業地ヲ縣外ニ轉シタルトキハ舊開業地ノ郡役所ヲ經テ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第四條 醫師出張所ヲ設ケントスルトキハ出張所所在地ノ郡町村大字番地及出診日時ヲ記シ出張所所在地ノ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ其出張所ヲ廢止シタルトキ亦同シ

縣外ノ開業醫師ニシテ縣内ニ出張所ヲ設ケントスルトキハ第二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第五條 醫師業務上代理者ヲ置クトキハ履歷書及開業免狀寫ヲ添ヘ七日以内ニ代理者住所地ノ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第六條 醫師業務ノ代理ハ醫師開業免狀ヲ有スル者ニ非レハ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第六條 醫師ハ處方錄ヲ備ヘ施治患者ノ住所氏名年齢、病名、處方及年月日ヲ記載スヘシ

處方錄ハ滿三年間之ヲ保存スヘシ

第七條 醫師ハ患者ヲ診察セスシテ藥劑ヲ投シ又ハ處方箋診斷書ヲ付與シ若ハ治療ヲ施サスシテ死亡診斷書ヲ與ヘ其ノ他死休若ハ死胎ヲ檢案セスシテ檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第八條 醫師ノ治療ヲ受ケサル死者又ハ妊娠四ヶ月以上ノ死胎ノ檢案ヲ請フ者アルトキハ醫師ハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 醫師死休若ハ死胎ヲ檢案シ變死又ハ墮胎ノ疑アルトキハ警察官吏ノ立會ヲ請フヘシ

第十條 醫師施治ノ患者死亡シタルトキハ死亡診斷書ヲ交付シ死休若ハ死胎ヲ檢案シタルトキハ檢案書ヲ交付スヘシ

第十一條 醫師開業免狀ノ書換ヲ要スルトキハ醫師免許規則第八條ニ依リ郡役所ヲ經テ願出ヘシ

第十二條 醫師廢業シタルトキハ醫師免許規則第十條ニ依リ七日以内ニ郡役所ヲ經テ届出ヘシ

死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ前項ニ依リ届出ヘシ

第十三條 第二條乃至第十條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

第十四條 明治十九年甲第二十七號布達醫師免許細則ハ之ヲ廢止ス

○縣令第六十四號 明治三十三年十月二十三日

本年內務省令第四十一號ニ依リ醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ產婆ノ作爲スヘキ死産證書、死胎檢案書ノ様式並ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

第一 死亡診斷書、死體檢案書

一 氏名 死亡診斷書(死體檢案書)

- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業死亡者ノ職業
家計ノ主ナル職業
- 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名(自殺者ニ
在テハ) 手段(自殺以外ノ變死者
及中毒者ニ在テハ種類)
- 七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ
在テハ之ヲ除ケ)
- 八 死亡ノ年月日等
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

年月日

住 所

醫師 何

某 印

記載方

- 一 戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 四 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業

トヲ併記スヘシ

- 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 自殺者變死者ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 五 病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ
- 六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス
- 同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ
- 全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、刃傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ
- 自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ
- 七 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 八 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 九 死亡ノ場所ハ郡町村大字名及番地ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

第二 死産證書、死胎檢案書

様式

死産證書(死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名(私生子ノ場ニ在テハ母ノ氏名)
- 二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場ニ在テハ之ヲ除ク)
- 三 母ノ出生ノ年月日
- 四 父ノ職業(私生子ノ場ニ在テハ母ノ職業)
- 五 妊娠ノ月數
- 六 分娩ノ年月日時
- 七 分娩ノ場所
- 八 死胎ノ男女ノ別
- 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年月日

住 所

醫師(産婆) 何 某 印

記載方

一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ

- 二 死胎ノ嫡生子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト做シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 六 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 七 分娩ノ場所ハ郡町村大字名及番地ヲ記スヘシ
- 八 死胎ノ男女就レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ
- 九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

○縣訓令第六十六號 明治三十四年六月十八日

郡役所 警察署
警察分署 町村役場

明治三十四年以内務省令第十六號醫藥劑師名簿編成並加除訂正規程第四條第一項醫師藥劑師ノ現在調査及動態調査ニ關シテハ町村受持巡查ヲシテ之ヲ補助セシム

○縣令甲第七十四號 明治二十四年十月十九日
 明治十一年(十二月)本縣甲第九十五號布達中毒届出ノ件左ノ通改正ス
 飲食物ノ中毒及劇毒藥服用等ニ依リ死ヲ致シタル者ハ勿論死ニ至ラサルモノト雖モ中毒症ト診斷シタルトキハ主治醫ヨリ其毒物ノ品名中毒ノ症狀患者ノ住所氏名年齢等速ニ所轉警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ 但毒物ノ成分判然セサルトキハ現品相添差出スヘシ

○縣訓令第二十八號 明治二十三年四月一日

郡役所 町村役場

公立又ハ私立病院ヲ設立セントスル者アルトキハ左ノ書式ニ依リ届出サセ候様取計フヘシ

公立病院設立届書式 (一通)

一 私立病院位置

一 郡町(村)(大字)番地

一 名稱

一 公立何何病院

一 院則

一 患者診察ノ手續入院料藥價診察料ノ類

一 院長以下職員履歷書

右御届申上候也

本縣郡町(村)長

年 月 日

氏 名 印

本縣郡町(村)(大字)番地居住(寄留)族籍

職業氏 名 印

埼玉縣知事氏名殿

○縣訓令第百號 明治三十二年七月二十一日

郡役所 町村役場

公立病院又ハ開業醫ニ於テ外來若ハ入院患者ニシテ虎刺拉、赤痢、ペスト、患者アルトキハ傳染病豫防法第三條ニ依リ直ニ届出同法第九條ノ認可ヲ受クルニ非レハ歸宅若ハ退院セシムルヲ得サル儀ニ付其旨各公立病院及開業醫ニ相達スヘシ

○甲第八十一號 明治十八年十二月三十日

口中師接骨師營業取締規則左之通相定メ候條此旨相達候事

口中師接骨師營業取締規則

第一條 此規則ハ明治十七年本縣甲第十三號布達ニ依リ鑑札ヲ付與シタル營業者ニ對シ施行スルモノトス 但營業者ノ内口中師ハ入齒齒抜口中療治ヲ總稱ス

第二條 從前他府縣ニ於テ營業セシ者管下へ轉籍寄留シテ尙營業センカ爲メ本縣ニ於テ鑑札ヲ願受クル者ハ前條ニ準スヘシ

第三條 口中師營業者ハ入齒拔齲齒療治ノ術ヲ施ス者ニシテ其他ノ術ヲ施スコトヲ得ス

- 第四條 接骨師營業者ハ製骨術ヲ施ス者ニシテ副木綯帶ヲ除クノ外醫術器械ヲ用フルコトヲ得ス
- 第五條 醫師治療中ノ患者ナルトキハ主治醫ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ施術スルコトヲ得ス
- 第六條 各營業者ハ藥法ヲ指示シ若クハ内服藥ヲ與フルコトヲ得ス藥品ハ明治十三年ハ第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ノ毒藥劇藥ヲ除クノ外ハ外用ニ限り用フルコトヲ得
- 第七條 各營業者ハ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第八條 鑑札ハ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス
- 第九條 鑑札ヲ水火盜難又ハ過誤ニ依リ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ下付ヲ請フヘシ管内ヘ轉籍寄留又ハ改姓名等ニ由リ鑑札面ニ變更ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ
- 第十條 廢業死亡又ハ他府縣ヘ轉籍寄留スルモノハ鑑札返納其旨届出ツヘシ
- 第十一條 他府縣ヘ轉籍寄留シテ營業セントスルモノハ其事由ヲ具シ本縣ヘ願出テ添翰ヲ受クヘシ
- 第十二條 他府縣ヨリ管内ヘ轉籍寄留シテ營業セントスル者ハ原官廳ノ添翰ヲ添ヘ本縣ヘ願出テ鑑札ヲ受クヘシ
- 第十三條 此規則ニ關スル願届ハ所轄郡役所ヲ經テ差出スヘシ
- 第十四條 各營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十五條 本則第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス(二十四年縣令第二十四號ヲ以テ改正)

○甲第二十六號 明治十九年三月三日

- 產婆及鍼灸術營業規則左ノ通相定ム 但既ニ營業差許シタルモノハ更ニ願出ツルニ及ハス
- 第一條 產婆ハ開業免狀ヲ得タルモノトス 但當分試験ヲ要セス假免狀ヲ付與スルコトアルヘシ
- 第二條 鍼灸術營業者ハ鑑札ヲ得タルモノトス
- 第三條 產婆ノ假免狀及鍼灸術ノ鑑札ヲ受ケントスル者ハ其修業履歷書及師家ノ熟練證書ヲ添ヘ產婆ハ縣廳ニ鍼灸術ハ郡役所ニ願出ツヘシ 但各營業者ハ滿二十年以上タルヘシ
- 第四條 產婆ハ產科器械ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 產婆及鍼灸術營業者ハ藥劑ヲ與ヘ又ハ藥方ヲ指示スルコトヲ得ス
- 第六條 鍼灸術營業者ハ醫師治療中ニ係ル患者ハ其醫ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ施術スルコトヲ得ス
- 第七條 免狀假免狀又ハ鑑札ハ他人ニ讓渡シ若クハ貸與スルコトヲ得ス
- 第八條 免狀假免狀又ハ鑑札ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ノ變換ニ由リ書換ヲ請フ者ハ其事由ヲ具シ願出ツヘシ
- 第九條 免狀ヲ有スル者廢業死亡スルトキハ之ヲ返納シ他府縣ヘ轉籍寄留スル者ハ其旨届出ツヘシ 但假免狀及鑑札ヲ有スルモノ本條ノ場合ニ於テハ之ヲ返納スヘシ
- 第十條 產婆及鍼灸術營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十一條 本則第一條第二條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス(二十四年縣令甲第二十五號ヲ以テ改正)

○縣令第四十七號 明治三十三年七月三十一日